



令和5年度

年報

第38号

福島県立博物館

ごあいさつ

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行し、ようやく博物館活動もコロナ禍前の通常の状態に戻っていましたが、総合展示室の排煙窓の不具合が発生した影響で、令和6年2月から総合展示室の観覧休止状態が続いており、利用者の皆さまに多大なご迷惑をおかけしておりますこと、大変申し訳なく思っております。引き続き、教育庁と連携し、1日も早い観覧再開に向け全力を尽くしてまいります

さて、当館の令和5年度の主な事業ですが、展示については、季節ごとに4本の企画展や特集展のほか、常設展示スペース内において10回のテーマ展、17回のポイント展を開催しました。令和5年度の常設展・企画展の入館者数は6万8,294人と前年度から減少しましたが、各分野で工夫を凝らした展示を企画し、来館者から高い評価をいただきました。

調査研究事業については、考古・歴史・民俗・美術・自然・保存科学・災害の各分野がテーマを設定して継続的な調査活動を実施しており、展示や各種講座、紀要などを通じた研究成果の公開に努めています。

教育普及事業については、各種講座・講演会の開催、ゲストティーチャーの派遣のほか、会津支援学校や認定こども園と連携した学習プログラム、地域や関係する皆さまと連携した「こどもミニミニはくぶつかん」や読み聞かせ、会津磐梯山市民盆踊り、クリスマスコンサートなどのイベントを積極的に展開しました。

文化観光については、当館を拠点とした取組「三の丸からプロジェクト」が4年目を迎え、江戸時代の若松城下の街並みを再現したジオラマを中心とした三の丸アベニューの整備や展示解説資料・パンフレットの多言語化を進めるとともに、雪国ものづくりマルシェ、会津若松市内の歴史的建造物との連携展示、武家文化・ものづくり文化の体験プログラムの実施などに取り組みました。加えて、令和5年4月から当館常設展、鶴ヶ城及び茶室麟閣との共通観覧券の販売を開始し、当館と鶴ヶ城との周遊を促進する環境が整いました。

近年、博物館に求められる役割が多様化・高度化するなか、令和5年4月に博物館法の一部を改正する法律が施行され、博物館には従来の基本的な活動に加え、文化芸術の振興、博物館資料のデジタル・アーカイブ化、他の博物館との連携、関係機関との連携・協力による文化観光や地域活力の向上などに取り組むことが期待されるようになりました。当館においても引き続き、施設設備の老朽化、収蔵庫の逼迫などの課題の解決や、資料の収集・保存・調査研究・展示についてしっかり対応しながら、地域や県民の方々に広く愛される施設、そして、多様な学びの場となることを目指すとともに、関係する皆さまと連携して文化振興や文化観光、福祉などの分野において、期待される役割に応えてまいりたいと考えております。

結びになりますが、当館の運営及び諸事業の推進にあたり御協力いただいた関係者の皆さま、そして、ご来館いただいたお客さまに心から感謝を申し上げます。

令和6年12月

福島県立博物館長 川名 義則

目 次

ごあいさつ

目次

福島県立博物館の使命と活動方針…………… 1

福島県立博物館第3期中期目標…………… 3

1. 重点目標

2. 数値目標

3. 令和5年度の状況

4. 第3期中期目標の総括

新型コロナウイルス感染拡大への対応……………20

I 事業の概要……………21

1. 資料収集事業……………21

(1) 収集展示委員会 ……………21

(2) 受贈・受託 ……………21

(3) 購入 ……………22

(4) 制作 ……………23

2. 保存管理事業……………23

(1) 資料の収蔵 ……………23

(2) 登録・整理 ……………24

(3) 貸出 ……………26

(4) 保存 ……………26

3. 展示事業……………27

(1) 常設展示 ……………27

(2) 企画展示 ……………29

(3) 特集展示 ……………32

(4) 博物館資料展示活用アウトリーチ事業 ……………33

(5) 指定文化財の公開 ……………33

(6) 展示解説 ……………34

(7) リニューアルの検討 ……………34

(8) 総合展示室の閉室 ……………34

4. 調査研究事業……………36

(1) 展示資料調査研究 ……………36

(2) その他の調査研究事業 ……………37

(3) 職員の研究活動 ……………38

5. 教育普及事業……………42

(1) 講座・講演会 ……………42

(2) みんなでつくるイベント ……………46

(3) 雪国ものづくり広場 なんだべや ……………48

(4) 学校・文化施設等との連携 ……………48

(5) 生涯学習・研究支援・家庭教育 ……………58

(6) 動画の制作と配信 ……………59

(7) 博物館友の会活動への支援 ……………59

6. 広報公聴活動および出版事業 ……………61

(1) 広報活動 ……………61

(2) 公聴活動 ……………63

(3) 出版事業 ……………64

7. 福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業「三の丸からプロジェクト」	65
(1) 事業の概要	65
(2) 事業内容	65
8. 地域連携とネットワークの拠点	69
(1) 福島県博物館連絡協議会	69
(2) 磐梯山ジオパーク推進事業	69
(3) ふくしまサイエンスぷらっとフォーム	70
(4) 福島藝術計画	70
(5) ふくしま歴史資料保存ネットワーク	71
(6) 会津の文化×地域振興プロジェクト協議会	72
9. 震災遺産の保全・活用による東日本大震災の共有と継承	73
10. 新たな博物館の役割・機能の創出	73
(1) 文化財・自然資料レスキュー	73
II 管理運営	74
1. 組織・職員	74
2. 予算	75
3. 運営協議会の開催	76
(1) 福島県立博物館運営協議会	76
III 利用状況	77
1. 入館者統計	77
(1) 令和5年度入館者統計	77
(2) 入館者の推移	78
(3) 企画展入館者統計	81
2. 出版物販売	84
IV 法規	86
福島県立博物館条例	86
福島県立博物館運営協議会条例	87
福島県立博物館条例施行規則	88
福島県立博物館組織規則	91
福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則	92
福島県立博物館収集展示委員会設置要綱	92
福島県立博物館資料所在調査要領	93
福島県立博物館資料調査員設置要綱	93
福島県立博物館友の会規約	93
V 施設の概要	96
1. 建築概要	96
2. 設備	96
3. 平面図・各室一覧	97
4. 施設の修理・改築	99
5. 沿革	100
VI 利用案内	102

福島県立博物館の使命と活動方針

平成19年7月公表 平成25年4月改正・平成26年6月改正・平成28年3月改正・平成31年3月改正

福島県立博物館は、昭和61年に県立の総合博物館として開館し、これまで県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、さまざまな活動を行ってきました。博物館をとりまく社会情勢が変化の中で、多様化する要請に配慮しながら、社会に対する当館の責務を使命として明示し、新しい時代の博物館として目指すべき活動方針をとりまとめ、その内容を公表します。

◆使命

福島県は、関東・北陸・東北地方の接するところに位置し、美しく豊かな風土のもと、時代を通して文化交流の地として発展し、特徴のある歴史・文化を形成してきました。また、広大な面積をもつ本県は、中通り・浜通り・会津地域に分かれ、それぞれ異なった風土と生活文化をもっています。

福島県立博物館は、こうしたユニークで多様な歴史・文化が生み出した遺産とその背景にある自然に関する資料を収集・保存し、大切に未来へ引き継ぐとともに、研究を通して、資料のもつ価値を明らかにします。そして、収集した資料や研究の成果を世界に向けて発信するため、さまざまな形で公開します。

人々が地域の課題を調査・研究することを支援し、地域文化の新しい価値を創造することに寄与するとともに、みなさんが博物館を利用しやすいように、人と人との交流を大切にする楽しい環境を整えます。

平成23年3月に発生した東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故は、福島県に大きな被害を及ぼしました。博物館では、この震災を契機として、従来からの活動に加えて、新たな試みを始めてきました。それらを、未来に向けての取り組みとして定着、発展させてゆきます。

これらを基本に、福島県立博物館が担う3つの使命を掲げます。

I ふくしま発見 博物館

ふくしまの歴史・文化遺産と自然史資料をもとに、ふくしまの歴史・文化そしてそれを育んだ自然に関する情報を提供し、利用者の皆さまとともに、地域文化の価値を学び、新たな文化を創り出します。

II 出合いふれあい 博物館

文化の多様性を尊重し、地域とすべての人に開かれ、人と人々が自由に交流し語り合える博物館を目指します。そのために、皆さまの心の拠り所となり、自ら学び体験できる場を創出します。

III 明日に向かう 博物館

震災の継承や博物館相互の連携強化を軸にした未来志向の取り組みを通して、発信力のある力強い博物館を目指します。災害や社会情勢の変化に対応し、行政や文化施設・諸団体と連携して、様々な課題に取り組みます。

◆活動方針

使命を果たすため、以下の10項目の活動を実践します。活動方針に沿って、とくに重点的に進める具体的な目標は、期間を定めて策定する「福島県立博物館中期目標」として公表します。

〈 使命 I 「ふくしま発見 博物館」 関連 〉

1. 地域の文化遺産の収集と継承

福島県の特徴を表す歴史・文化遺産と自然史資料および震災遺産を系統的に収集し、安全な状態で保存し次世代に伝えます。資料情報はデータベースとして整備し、可能な限り公開・活用します。

2. 最新の研究による新たな資料価値の発見

専門的な研究により、収集した資料の価値を明らかにします。地域の課題と関係したテーマを設け調査を行い、その成果を地域文化の発展と創造のために役立てます。

3. 来るたびに発見がある展示・講座

展示を見るたびに資料の新しい側面を発見できるようにします。新しい資料や研究成果を展示や講座に反映するとともに、ニーズに応じて、さらに詳しい情報を準備し提供します。

〈 使命 II 「出合いふれあい 博物館」 関連 〉

4. 楽しめて出合いのある場の創出

居心地がよく、いろいろなことを体験・創造・表現できる博物館を目指します。人と人が出会う文化的なコミュニケーションの場を設けます。未来を担う子どもたちとともに文化の創造力を育みます。

5. 利用者との協働

利用者の意見を積極的に取り入れて、博物館を運営します。幅広く館外からの協力を得ながら、誰にも開かれた博物館の事業を推進します。博物館の機能を生かした事業の実施を利用者の皆さまとともに目指します。

6. 博物館情報の公開と発信

博物館の資料や研究成果および運営に関する情報を公開するとともに、時代の変化に応じた効果的な広報活動により展示など館活動の情報を広く伝え、博物館イメージと認知度の向上を図ります。

7. 地域連携とネットワークの拠点

福島県の面積は広大で、多くの学校、社会教育・文化施設、団体があります。これら関係機関等とのネットワークを作り、情報交換・共同研究や利用者への相互紹介、事業の共同実施を行います。会津という観光地に立地することを踏まえ、地元会津の市町村や文化・観光施設・団体等と連携、協働し、新しいタイプのニーズに対応できるよう努めます。

〈 使命Ⅲ「明日に向かう 博物館」関連 〉

8. 震災遺産の保全・活用による東日本大震災の共有と継承

東日本大震災による多様な出来事を歴史として共有し継承してゆくため、震災に関連するモノと震災を示すパシヨの資料化を行い、常設展示による公開とともに広く利活用することを目指します。

9. 新たな博物館の役割・機能の創出

これまでの博物館活動による蓄積を基盤にしつつ、自由な発想によって博物館の役割や機能を拡張していきます。博物館ならではの新たな広がりのある活動を検討することで、社会の課題やニーズに向き合います。

〈 3つの使命に共通する基盤として 〉

10. 管理運営

利用者の安全確保と快適性に配慮し、施設や設備を保全します。優れた人材を育成し、機能的で効果的な組織運営に努めます。

福島県立博物館第3期中期目標 令和元(2019)～令和5(2023)年度

1. 重点目標

重点目標	実現方策	令和元(2019)年度	令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度
		当初年次計画1年目	当初年次計画2年目	当初年次計画3年目	当初年次計画4年目	当初年次計画5年目
		計画 実績	計画 実績	計画 実績	計画 実績	計画 実績
① 検査が楽しめるデータベースの構築と公開方法の改善	現データベースを基盤に、新たにテーマ型データベースを構築し、知的好奇心を喚起させるアクセスしやすい収蔵資料情報整備し、試行する。	既存公開データベースの運用上の課題や利用状況を把握し、テーマ型データベースの設計を検討する。 テーマ型データベースを導入している他館の情報を収集した。	データベースのテーマを設定する。 データベースのテーマを設定する。 各分野に案を募り、6分野20テーマを設定した。またテーマ型データベースは公開資料であることが前提となるため、公開に向けた作業を積極的に行うように各分野へ促した。	コンテンツを整備する。 テーマ型データベースのコンテンツを整備する。 各分野で設定したテーマに関する資料情報・写真登録及び資料解説原稿を準備し、次年度の試行に向けてコンテンツを整備した。設定テーマは、「会津藩校日新館の教育」・「会津大塚山古墳」・「福島県民の関わった南極観測」・「会津の絵画」・「向土人形-根子町人形」・「東日本大震災の避難所資料」の6件である。	テーマ型データベースの一般公開の試行開始 テーマ型データベースの一般公開の試行開始 一般公開の試行開始に向けて、収蔵資料データベース(DB)の資料項目に「震災遺産類」を追加し、テーマのひとつである震災遺産を資料登録できるようにした。また、テーマ型DBをwebサイトで表示させるための準備としてデータベースの設定変更を行った。 3月に「学芸員のおすすめ資料」として5テーマの資料紹介ページを公開し一般公開の試行を開始した。	試行データベースの運用結果を取りまとめ、課題やニーズを把握し、本格運用を目指す判断する。 試行開始したテーマ型データベースの周知に努め、利用状況の把握と本格運用の方向性について検討する。 本県を代表する資料である大塚山古墳と会津藩校日新館の2テーマはアクセス数が比較的多かったものの、周知不足もアクセス数は伸び悩んだ。現在のコンテンツの少なさ(写真付きに限ると4分野28件)やテーマが限定的であることなど、改善すべき点も多い。本格的運用には、第一にコンテンツ数の増加のほか、広く利用者に響くテーマ設定や、写真掲載を必須とするなど、より魅力あるコンテンツ提供が課題である。
② 図書利用環境の整備	図書配架スペースを確保し、図書利用環境を整備する。 図書データベースを一般公開し、運用ルールを策定した上で一般来館者の図書利用を試行する。	図書室における図書配架の現状把握と新たな計画を策定する。 図書室における図書配架の現状把握と新たな計画を策定する。	図書室2層の配架環境を整備する。 図書室2層の配架環境を整備する。	図書室2層の図書配架の運用開始を開始する。一般来館者の図書利用要項の策定をめざす。 図書室2層の利用を開始する。1層図書の再配置を完了する。一般来館者の図書利用要項を策定するために、図書室の現状と問題点を詳細に把握する。	博物館の図書データベースを外部に公開する。閉架図書の一般(館内)利用の試行開始する。 博物館の図書データベースを外部に公開する。一般来館者の図書利用要項を策定し、閉架図書の一般利用に必要なシステム(物品、人員、手順など)を検討する。 博物館図書データベースの外部公開対象とする図書を選定し、登録済み書誌データの書式統一作業を実施した。その後、当館ホームページより、図書データベースの外部公開を試行的に開始した。閉架図書の一般来館者への供用について、これに必要な図書利用要項の草案を作成し、学芸員会議に諮って内容を検討した。	閉架図書利用サービスの運用結果を取りまとめ、課題やニーズを把握し、本格運用の方向性について検討する。 閉架図書の一般利用に関する利用者のマニュアルおよび館側の対応マニュアルを整備し、利用申込の窓口を開設する。図書の一般利用を試行的に開始する。 当館図書室の特徴的な蔵書を主な対象として、博物館図書データベースの外部公開を継続。加えて受入れマニュアルや申込用メール等を整備し、一般来館者への閲覧供用を試行的に開始した。さらには将来的なコピーサービスの開始や県立図書館の県内図書横断検索への参加に向けた諸準備を進めた。
③ 資料の安全な保存	適切な情報取得と情報共有をもとに、適正な保存環境を維持する体制を確立する。 保存環境モニタリングの情報取得方法・内部共有システムをバージョンアップするとともに適正に運用する。	情報共有の場となる会議を設けて、課題を抽出し、リスクアセスメント計画を作成する。 情報共有の場となる会議を設けて、課題を抽出し、リスクアセスメント計画を作成する。	通常モニタリングや環境調査結果を共有する館内の枠組みを整備し、空気環境のリスクマネジメントを構築する。 通常モニタリングや環境調査結果を共有する館内の枠組みを整備し、空気環境のリスクマネジメントを構築する。	リスクアセスメント計画を運用する。 館独自の施設概要調査を作成する。 環境モニタリングや環境調査結果から現状の環境リスクを検討し、共有する機会を定期的に設け、課題解決の方策を検討し、実践する。	リスクアセスメント計画を見直し、必要に応じて修正する。資料の貸借において施設概要調査を確実に添付する。 環境モニタリングや環境調査結果を収集し、館内環境動向について資料を管理する各分野と共有した。集計結果をもとに収蔵庫の環境整備や展示室の温湿度調整を行うことで、館内環境の維持・改善をはかった。	リスクアセスメント計画を運用する。資料の貸借において施設概要調査を確実に添付する。 環境モニタリングや環境調査の結果を活用し、データに基づいて保存環境の調整を計画的に実施していく。 環境モニタリングや環境調査結果を集計し、館内環境動向について資料を管理する各分野と共有した。これまで蓄積されたデータをもとに展示環境・保存環境の変化を分析し、異常の早期発見、突発的なトラブルへの早期対応につなげることができた。
④ 多様な連携による新たな研究活動	地域の歴史・文化や自然遺産に関する学術研究を推進するため、多角的な視点と最新の研究手法が共有される新しい研究プロジェクトを自治体や大学・研究機関などの外部組織と立ち上げる。 その中で主体的かつ連携を強化する役割を果たして効果的な研究活動を実践する。 特に新たに博物館資料に位置付けられた震災遺産の調査研究を推進し、博物館活動における災害史領域の普遍化を目指す。	共同研究組織を立ち上げたり、特定の研究課題組織に参画するなどして、学芸員の専門性を生かした役割を果たし、研究成果を公表する。 共同研究組織を立ち上げたり、特定の研究課題組織に参画するなどして、学芸員の専門性を生かした役割を果たし、研究成果を公表する。 民俗分野では磐梯町と取り交わした協約書をもとに共同での調査研究事業を進めた。 学芸員個人としても国立歴史民俗博物館の共同研究や明治大学の科研費による研究に参画し、連携した研究を行った。震災遺産に関しては、京都で行われたICOM(国際博物館会議)と専門誌で、これまでの成果を公表した。	共同研究組織を立ち上げたり、特定の研究課題組織に参画するなどして、学芸員の専門性を生かした役割を果たし、研究成果を公表する。 国立歴史民俗博物館の共同研究や明治大学科研費による課題研究、会津大学の研究プロジェクト等にそれぞれ学芸員が参画して連携した研究活動を実施し成果を公表した。	共同研究組織を立ち上げたり、特定の研究課題組織に参画するなどして、学芸員の専門性を生かした役割を果たし、研究成果を公表する。 国立歴史民俗博物館(民俗分野)・群馬県立自然史博物館、北海道大学総合博物館、カールトン大学(自然分野)、熊本大学(災害分野)、明治大学(考古分野)など幅広く各分野で共同研究が行われた。また学風高校、会津大学など地元機関との共同研究も立ち上げられた。	共同研究組織を立ち上げたり、特定の研究課題組織に参画するなどして、学芸員の専門性を生かした役割を果たし、研究成果を公表する。 国立歴史民俗博物館(民俗分野)・北海道大学総合博物館、モンゴル国立古生物研究所(自然分野)、筑波大学(災害分野)、明治大学(考古分野)、帝塚山大学(歴史分野)など幅広く分野で、国内外の多様な機関と共同研究ネットワークを築けた。また会津大学や学風高校など地元機関との共同研究も順調に継続している。	共同研究組織を立ち上げたり、特定の研究課題組織に参画するなどして、学芸員の専門性を生かした役割を果たし、研究成果を公表する。 北海道大学総合博物館、モンゴル国立古生物研究所(自然分野)、筑波大学(災害分野)、明治大学・福島大学(考古分野)、帝塚山大学・淑徳大学(歴史分野)、南国Rスタジオ(災害分野)など幅広く分野で、国内外の多様な機関と共同研究ネットワークを築けた。また会津大学や県立会津学風高校など地元機関との共同研究も順調に継続している。

重点 目標	実現方策	令和元(2019)年度 当初年次計画 1 年目	令和2(2020)年度 当初年次計画 2 年目	令和3(2021)年度 当初年次計画 3 年目	令和4(2022)年度 当初年次計画 4 年目	令和5(2023)年度 当初年次計画 5 年目
		計 画 実 績	計 画 実 績	計 画 実 績	計 画 実 績	計 画 実 績
⑤ 何度でも足を運びたくなる展示づくり	常設展の展示替えや魅力ある企画展の開催により、常に新しい発見のある展示室を構築し、リピーターの増加を目指す。	来館者を常設展示室へ誘導するため、企画展や行事と連動したポイント展・テーマ展を試行する。	前年度に引き続き企画展や行事と連動したポイント展・テーマ展を実施し、展示室でのPRも工夫する。企画展について多様な利用者層に興味を持っていたるように展示手法を工夫する。	常設展・部門展示室の整備、展示替えにより常設展示の新たな魅力を創出する。	子供たちにも親しみやすい展示の実現のため、常設展・企画展での解説や企画の充実化を図る。	ポイント展、テーマ展、特集展に変わる新たな展示の枠組みを構築し、常に新しい魅力ある常設展示を目指す。
		来館者を常設展示室へ誘導するため、企画展や行事と連動したポイント展・テーマ展を試行する。	前年度に引き続き企画展や行事と連動したポイント展・テーマ展を実施し、展示室でのPRも工夫する。企画展について多様な利用者層に興味を持っていたるように展示手法を工夫する。	国内在住の外国語ユーザーやインバウンドの展示理解を促進するため多言語化を充実させる。	常設展の一部（部門展示室・レストコーナー等）について、情報通信技術を活用し、来館者の世代を問わず映像や音声で体験できる展示手法を導入する。	「三の丸からプロジェクト」事業の中で、インバウンドの来館増を想定して、携帯端末等を用いた多言語化を含む展示解説を実施する
		企画展や行事等と連動した常設展示室のポイント展・テーマ展を計9回実施した。特に特集展「震災遺産を考えるーそれぞれの9年ー」と連動したテーマ展「山口弥一郎のみた東北」では、アンケートで好評をいただいた。	常設展については、企画展や行事と連動したポイント展・テーマ展を計10回実施した（例：企画展「ふくしまの旅」と連動したテーマ展「けんばくく宝2020 旅によせて」など）。企画展については、親子連れやSNS利用者向けに撮影スポットを設置したり、新型コロナウイルス感染症対策をした展示室づくりを心がけるなど、多様な利用者層に興味を持っていたように工夫した。	常設展示室（大テーマ・中テーマ）や無料空間について、英語・中国語（簡体字・繁体字）の3か国語によるデジタルサイネージ等での多言語表記を整備し、展示の充実を図った。 計画どおり実施	部門展示室「民俗」について、これまでの展示コンセプトを継承しつつ、テーマを文化観光に関連付けた「雪国のくらしとものづくり文化」へ拡充するため情報通信技術を活用した企画・設計を進め、実物大模型や映像・音声で雪国を体験できる展示を新設した。 解説員動画を作成し、年代を問わず誰でも資料に親しみを持てるようレストコーナーに設置した。また解説員がワークシートやメッセージボードを子ども向けとして作成し「なんだべや」（旧体験学習室）脇に設置した。 計画どおり実施	三の丸アベニューの整備を進めプロジェクションマッピングを活用した会津スタジアムの整備を行った。情報端末を用いた展示解説の実装に向けて、資料のキャプションについて多言語化を進めた。携帯端末を利用したVRシステムへの実装は次年度取り組むための準備を進めたが、総合展示室が閉室となったため未実施となった。会津若松市国際交流協会、会津大学の留学生と、それぞれ展示に関する意見交換会を実施し、デジタルサイネージの表示速度や内容について理解を深め検討を行った。 一部計画どおり実施
⑥ 博物館の魅力が詰まった新しいスタイルの講座の開催	展示と有機的にリンクしたり、テーマ性をもった多様な魅力ある講座を開発・実施する。	各分野、企画展担当者から挙げられた講座等について、ある程度の統一性や連続性を感じられるよう適正に日程を調整する。	常設展・ポイント展などと連動した講座の開催を各分野に促し、展示を補完するような講座を企画する。	常設展・ポイント展などと連動した講座の開催を各分野に促し、展示を補完するような講座を企画する。	展示に基づいたテーマを設定し、各分野の枠を越えて連続性のある講座を開催する。	展示に基づいたテーマを設定し、各分野の枠を越えて連続性のある講座を開催する。
		各分野、企画展担当者から挙げられた講座等について、ある程度の統一性や連続性を感じられるよう適正に日程を調整する。	新規イベントのコンセプトを明確にして発信力上げる。次年度について、展示と連動したイベントや分野横断型の総合講座を企画・調整する。	常設展・ポイント展などと連動した講座の開催を各分野に促し、展示を補完するような講座を企画する。	WITH コロナにおける開催・発信方法で常設展・ポイント展などと連動した講座（ミニ解説会など）を実施する。「三の丸からプロジェクト」に関するテーマなどで分野の枠を超えた講座を検討し、令和5年度の事業案を作成する。	「三の丸からプロジェクト」に因るテーマで分野横断型講座を実施し、分野横断型講座の展開について検討する。
		部門展示やテーマ展と連動して講演会・講座を開催したことで、展示と行事の統一性、連続性を生み出すことができた。 また今年度の成果を踏まえ、次年度行事の名称や内容をさらに利用者目線で調整し、統一性や連続性がより創出されるよう工夫を凝らした。	新型コロナウイルスの感染拡大により年度当初予定していた新規イベントは中止を余儀なくされたが、開設した公式YouTubeで来館しなくとも視聴できる新しいスタイルの講座に取り組んだ。児童・生徒向けの常設展示紹介「けんばくく子どもチャンネル（KKC）スニーカー」シリーズ、美術講座とテーマ展解説会の性格を持つ「にちようはくぶつかん」シリーズのほか、企画展「会津のSAMURAI 文化」では外部機関と連携したKKCの動画講座を配信した。また、文化に触れる機会を創出する新たな取組として、従来の館長講座に代わり、各界で活躍する外部講師を招く特別講座を開講した。これらにより新たな利用者層を獲得し、当館の発信力を高めた。 次年度について、常設展の魅力向上のため、20回におよぶポイント展のミニ解説会を行う予定を立てた。	常設展の魅力伝えるため企画した「ポイント展ミニ解説会」は、コロナ禍の影響で中止となる回もあったが年度内に18回開催。多岐にわたる常設展の魅力を多分野の学芸員の解説で気軽に楽しんでもらう場となった。各界で活躍する文化人の知見に直接触れる機会となる「特別講座」は2年目となり、企画展等と関連するテーマ・講師で企画、好評を得て認知度があり、連続参加者がみられるようになった。3回目はコロナ禍の影響でオンライン無観客開催となったが国内外から参加があり、マスクへの露出が重なったこととあわせて、当館を広く海外までPRする事業となった。 計画どおり実施	新型コロナウイルス対策を講じながら、テーマ展やポイント展をより楽しめる講座やワークショップ、ミニ解説会を多数実施し、常設展の魅力増進に努めた。また令和5年度事業案として、これまでの「三の丸からプロジェクト」の成果も活用し「若松城三の丸」を多角的に掘り下げる連続分野横断型講座「三の丸から講座」を計画した。 計画どおり実施	令和4年度に企画した連続分野横断型講座「三の丸から講座」を計4回実施した。1～3回は館内の分野を横断する形で歴史分野を主体に美術分野、考古分野の学芸員等が講師を務め、4回目は外部講師に来ていただく形で、「若松城三の丸」についてそれぞれ掘り下げることでできた。複数の分野が組むことで話題性が広がり内容が充実する手応えが得られると同時に分野横断型講座のメリット、デメリットが具体的に今後展開を検討する材料を得ることができた。それらを踏まえ令和6年度事業案として、引き続き「三の丸から講座」を計画した。 計画どおり実施
⑦ 新しい展示ストーリーの検討	将来の展示室改修を備えて、新しい常設展の展示ストーリーを検討する。 新設館など最新の情報を収集し、館外から意見を聴取する機会を設定し、常に最新の構想を準備しておく。	新しい展示ストーリーの検討を開始するとともに、新設館等の情報収集や、来館者モニターができる講座などを試行する。	新しい展示ストーリーの検討を開始するとともに、新設館等の情報収集や、来館者モニターができる講座などを試行する。	新しい展示ストーリーの検討を開始するとともに、新設館等の情報収集や、来館者モニターができる講座などを試行する。	新しい展示ストーリーの検討を開始するとともに、新設館等の情報収集や、来館者モニターができる講座などを試行する。	新しい展示ストーリーの検討を開始するとともに、新設館等の情報収集や、来館者モニターができる講座などを試行する。
		新しい展示ストーリーの検討を開始するとともに、新設館等の情報収集や、来館者モニターができる講座などを試行する。	新しい展示ストーリーの検討を開始するとともに、新設館等の情報収集や、来館者モニターができる講座などを試行する。	会津地域の文化観光拠点施設としての機能を強化するため、「三の丸からプロジェクト」に則した展示室の整備について検討する。	「(仮称) 三の丸アベニュー」実現のため展示整備計画の検討を行う。	「(仮称) 三の丸アベニュー」の実施設計に基づき、文化観光ゲートウェイの中核展示を完成させる。
		来館者モニターの試行として、利用指導者研修会の活用を試みたり、会津若松市国際交流協会・語学ボランティアによる展示観覧・意見交換を実施した。	学芸員による常設展の既存の展示ストーリーの検証作業を開始した。会津大学との共同研究プロジェクトによる「鑑賞アプリ」の常設展示室への試験導入や展示資料を活かした最新の映像提供技術の情報を収集した。会津若松国際交流協会を来館者モニターとして、展示室の外国語表示や対応について意見交換を行った。 計画どおり実施	常設展示室の「展示ロビー」を3周遊へのゲートウェイ機能を果たす展示強化空間として再整備する方針を決定した。周囲にサテライト的に展開する「歴史・美術」展示室、「民俗」展示室・鶴ヶ城跡が望める「西レストコーナー」・「ビデオブース」の役割を明確にし、有機的に関連させることで一体的かつ文化観光のランドマークとなる空間「(仮称) 三の丸アベニュー」の構築を目指す方針とした。 計画どおり実施	文化観光に資する博物館からの周遊の起点となる「(仮称) 三の丸アベニュー」に係る展示強化基本計画について常設展示室委員会の了承を得て、部門展示室「民俗」及び展示ロビーの実施設計業務を委託し、前者の設計について整備を完了した。 計画どおり実施	資料を基に幕末の若松城下を再現したジオラマを中心とするコア展示ユニット「あいづスタジアム」を整備し、プロジェクションマッピングやタッチパネルコンテンツにより会津若松文化観光の動機付けとなる展示強化を完成させた。 計画どおり実施

重点目標	実現方策	令和元(2019)年度 当初年次計画 1 年目	令和2(2020)年度 当初年次計画 2 年目	令和3(2021)年度 当初年次計画 3 年目	令和4(2022)年度 当初年次計画 4 年目	令和5(2023)年度 当初年次計画 5 年目
		計 画	計 画	計 画	計 画	計 画
		実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
⑧ 展示室以外の空間の有効活用	展示室以外の空間の活用 案の検討と試行により、各フロアの魅力を引き出した、有機的な空間活用を実現する。 来館者が行きたい、過ごしたいミュージアムならではの空間をつくり、運営する。	無料空間のあり方、活用方法を検討し、エントランスホール、相談コーナー、レストランの新たな活用を試行する。	無料空間のあり方、活用方法を検討し、エントランスホール、体験学習室、視聴覚室の新たな活用を試行する。	無料空間のあり方、活用方法を検討し、無料空間の魅力を総合的に発信する。	無料空間のあり方、活用方法を検討し、館外の新たな活用を試行する。	無料空間のあり方、活用方法を検討し、博物館の魅力を総合的に発信する。
		無料空間のあり方、活用方法を検討し、エントランスホール、相談コーナー、レストランの新たな活用を試行する。 連携交流班において無料空間のあり方や活用方法を検討、オープンミュージアムビジョンを作成した。 試行として体験学習室を主な実践場所と想定し、館内協議・外部ヒアリングも参考に活用案をまとめ、福島県立会津工業高等学校建築インテリア科と連携した木製玩具の製作、当館収蔵資料を活用した撮影スポット設置等として実現した。 エントランスホールは、これまで体験学習室のみで実施してきた子どもミニ博物館の会場の一部として活用、企画展にあわせてレプリカを用いた撮影スポットの設置など、新たな活用を試みた。 レストランでは、企画展と連動した作品展示等を行った。	新型コロナウイルス感染予防対策を講じた上での無料空間のあり方、活用方法を検討し、体験学習室や相談コーナーを開室した。体験学習室は、学校等との連携成果の展示公開の場として活用したほか、人数制限・時間制限を行いながら大学と連携したワークショップ会場にするなど、オープンスペースとしての活用を試行した。また、使用を中止していた昔のおもちゃの遊び方を紹介する動画（「KKC おしるび殿さんば」シリーズ）を作成、配信するなど新たなコンテンツの開発も行った。 計画どおり実施	中・長期的な視点で無料空間のあり方、活用方法を検討する。検討内容も踏まえて、体験学習室の新たな活用を試行する。 多様な利用者が各自の興味に基づき主体的に活動する場としての体験学習室、食を通して会津の文化を体験できる場としてのレストランの整備案を検討・立案し、三の丸からプロジェクトの令和4年度事業案に反映した。令和4年度の事業案を踏まえて、体験学習室で自由に読み聞かせができる絵本（視聴障がい者向け図書を含む）配備の準備を進めた。 また、三の丸からプロジェクトの一環で乳幼児を連れた来館者が楽しみながら利用できるベビーケアルームや視覚に障がいのある方も資料について学べる視覚支援観覧システムを導入した「さわれる展示ボックス」を体験学習室に設置。会津のものづくりが学べる空間としてレストランの整備も進めた。 計画どおり実施	体験学習室を活用した既存のプログラムを、「三の丸からプロジェクト」による同所の整備計画に応じてブラッシュアップし、実施する。また、前庭や雁木下、駐車場脇緑地などの敷地内館外の新たな活用を試行し、試行結果に基づき令和5年度以降の事業案を検討する。 「三の丸からプロジェクト」の体験学習室整備により広いスペースが確保され、「三の丸からプロジェクト」の「雪国ものづくりマルシェ」では複数のワークショップを同時開催して前回より多くの集客を得ることができた。加えてものづくり要素の強い空間として整備したことで、民俗講座「蔵に親むワークショップ」のような新規プログラムも企画・実施された。また、体験学習室の今後の運用について、ものづくりの作家、教員、家庭教育に携わる方等、多様な立場の外部の方によるワークショップを行い活用の方性を得ることができた。 前庭および雁木下は「雪国ものづくりマルシェ」の出店場所として活用が定着し、活用を重ねる中でイベントの規模感の把握や電源等設備上の課題が明らかになった。駐車場脇緑地は幼稚園に向けた学習プログラムの開催場所として活用。未就学児童の初めての博物館体験の場所として有用という認識を強めた。これらの実績に基づき令和5年度の事業案を検討した。 計画どおり実施	雪国ものづくり広場「なんだべや」（旧体験学習室）を用いた既存のプログラムの更なるブラッシュアップとともに、他団体との協働事業の活動拠点、団体同士の交流拠点として活用し、結果を検証する。雪国ものづくり食堂「つきない」、駐車場脇緑地の活用方法をまとめる。 雪国ものづくり広場「なんだべや」での体験型プログラムにおいては博物館収蔵品を活用した空間づくりを行うことにより、博物館ならではの体験にブラッシュアップした。また、「なんだべや」で会津塗やからむしの作り手による滞在制作を実施し、新たな活用方法の試行を行った。協働団体の実践、交流の場として活用することで、魅力ある空間の創出につながった。事業後には振り返りを行い、成果や課題を検証した。 雪国ものづくり食堂「つきない」では、食とものづくりをつなぐ空間、体験学習活動の場としての活用方法を実践、検証した。駐車場脇緑地については外構展示と組み合わせたワークショップなど、使用方法を検討した。 計画どおり実施
⑨ 多様な利用者層に対応したプログラムの実施	人が出会い、学び合い、表現できる場をつくる。年度ごとに対象を定めて効果的なプログラムを計画・実施する。	障がい者に寄り添った学習機会の促進 障がい者に寄り添った学習機会を促進する。	乳幼児や保護者に合わせた学習機会の促進 障がい者および乳幼児や保護者に合わせた学習機会の促進	小学生に合わせた学習機会の促進 障がい者および乳幼児や保護者に合わせたプログラムの試行結果を受け、定着のための改善、制度化を進める。また、小学生に合わせた学習機会の促進を図る。	中高生に合わせた学習機会の促進 幼稚園・保育園等との連携により乳幼児向けの通年プログラムを考案の上、実施する。また乳幼児やその保護者に向けたプログラムを大学等各団体と連携の上考案し、実施する。 支援学校との連携により、障がいのある児童・生徒に向けたプログラムを考案し、実施する。	世代間交流を軸とした学習機会の促進 支援学校や障がい者に関わる諸団体、幼稚園・保育園との連携・協働を強化し、障がいをもつ児童・生徒、障がいのある方、および未就学児とその保護者向けのプログラムをブラッシュアップするとともに、多文化・多世代の交流を生むプログラムを試行し、大学・他団体・個人との協働を促進する。
		オープンミュージアムビジョンを元に、計画的に支援学校や社会福祉法人、病院等の視察を実施した。 視覚障害を持っている方に、当館の展示やイベントに参加していただいたり、当館への意見を頂く機会を得た。 それらに基づき、支援学校や社会福祉法人等の団体の利用プログラムを作成、実施した。	障がい者の学習機会の促進は、当館が事務局を務めるライフミュージアムネットワーク実行委員会のプログラム開発の中で、オンライン見学や動画を活用したミュージアム観覧を、会津特別支援学校中等部やIT企業等と協働して実施した。幼稚園・保育園等の低年齢層には、年齢に応じた解説プログラムを作成・提供した。また、小学生以下の子どもたちが保護者と楽しみながら学べるワークショップを会津大学短期大学部幼児教育学科と考案し、学習機会を設けた。 計画どおり実施	県内の支援学校と連携し、障がいをもつ児童生徒に向けたプログラムの多様化を進め、定着に繋げた。遠隔操作ロボット等のICTの活用は博物館利用のハードルを下げ、障がい者や高齢者など来館が困難な層の博物館利用が可能となった。 幼児に対しては企画展等の対話型鑑賞や季節感を取り入れたワークショップを実施。幼児を対象としたプログラムの精度が上がり、通年展開の実績を得た。会津若松市内の小学校との連携により、あるテーマによる一定期間内の連続した学習プログラムを新たな取組として実施。また、ライフミュージアムネットワーク実行委員会主催事業で福島県内の適応指導教室との連携により不登校児童への連続した学習プログラムも実施。上記により博物館活用による小学生への学習機会提供の可能性を広げた。 計画どおり実施	乳幼児向けのプログラムを、連携する近隣の子ども園と通年で実施した新たなプログラムの考案につなげることができた。また、移動にバス利用を伴う新規の子ども園との連携をスタートし園内での学習と博物館の活用を繋げるプログラムを考案、実施した。大学等との連携も深め、冬の「子どもミニミニはくぶつかん」の試行や、読み聞かせの協働団体としての新規参加につなげることができた。 支援学校との連携は、先生方との丁寧な話し合いにより障がいに応じたプログラムを考案し、通年で実施するとともに、改善を重ねることができた。 計画どおり実施	会津支援学校、近隣子ども園との学習プログラムやゲストティーチャー、未就学児向け事業では、学校・園との意見交換会を実施するなど連携を深めるとともに、協働団体・個人の参画を得て、これまで以上に地域への理解を深めるプログラムを実施することができた。 また、支援学校と特別養護老人施設をオンラとインでつなぐプログラムや、国際交流協会との連携など、多世代交流、多文化交流を生むプログラムを実施することができた。 計画どおり実施

重点目標	実現方策	令和元(2019)年度 当初年次計画 1 年目	令和2(2020)年度 当初年次計画 2 年目	令和3(2021)年度 当初年次計画 3 年目	令和4(2022)年度 当初年次計画 4 年目	令和5(2023)年度 当初年次計画 5 年目
		計 画 実 績	計 画 実 績	計 画 実 績	計 画 実 績	計 画 実 績
⑩ ボランティアとの協働	ボランティアに関する研修等を受けた館職員が窓口となり、受入体制を整えて、ボランティアを募集する。 また博物館とボランティアが協働しつつ、新しい活動メニューを考案し、試行する。	ボランティアを導入している他館の情報収集する。	ボランティアとの窓口になる職員（ボランティアコーディネーター）を配置する。	前年度に収集した情報をもとに、ボランティア募集要項および活動メニューを検討する。	募集要項に基づいてボランティアを募集し、活動を開始する。	初年度の活動を踏まえて、新しい活動メニューを考案し、試行する。
		ボランティアを導入している他館の情報収集する。	ボランティアとの窓口になる職員（ボランティアコーディネーター）を配置し、ボランティアのあるべき姿と協働について議論する。	ボランティアとの協働を検討し、具体的な活動内容を考案、一部を試行し、結果を検証する。	資料整理ボランティアのあり方、活動内容についてボランティア同士が共有する機会を設けることや、募集の方法についても更に検討する。	分野ごとに資料整理ボランティアの活動状況を把握・整理し、活動状況に応じた募集の方法を検討する。
		インターネットに公表されている他館の情報収集をはじめた。 またライフミュージアムネットワーク 2019 への参画により、同事業の県外リサーチで大阪市立自然史博物館での利用者による自主的な活動、滴家開拓平和記念館での高校生によるボランティア活動について知見を得た。	ボランティア対応職員を配置した。 ボランティアの目指すべき姿と現時点での課題等をボランティアと作業する各分野担当学芸員と共有した。また新しくできた友の会のサークル（食文化サークル）において、将来ボランティア活動を視野に入れていくことを確認した。協働について改めて意見交換を行った。 計画どおり実施	ボランティアのあり方について協議し、現行の資料整理ボランティアの性格を尊重し、その活動を支援する方向性を検討した。 新たな展開として、従来博物館のみであった歴史分野担当の資料整理ボランティアを令和4年度から一般からの参加を加える方向として資料整理ボランティア参加の枠組みを広げた。 計画どおり実施	テーマ展の解説会を学芸員とボランティアが行うことで資料整理ボランティアの活動を広く伝えることができたが、資料整理ボランティアのあり方、活動内容についてボランティア同士が共有する機会を十分に設けるには至らなかった。また、ボランティアに関する内規の改訂を行い、年間を通して活動できる体制を整えた。歴史資料整理ボランティアとして古文書愛好会メンバー以外からの参加を試行的に受け入れ、その実績を踏まえて新規のボランティア募集のあり方について検討した。 一部計画どおり実施	分野ごとに活動状況の把握を行った。各分野が求める人材や公募等の適した募集方法について一部ヒアリングを行ったが、課題の抽出にまで至ることができず、募集方法の検討を行うことができなかった。 一部計画どおり実施
⑪ 利用者の自主的な文化活動支援	博物館を活用した自主的な活動の受け皿をつくり、利用者の学ぶ意欲を促進する。	館の講座等を足がかりに、新しい継続的な学習の形（サークル等）を提案する。	館の講座等を足がかりに、新しい継続的な学習の形（サークル等）を提案する。	引き続き、新しい継続的な学習の形（サークル等）を提案する。活動が組織されたものについては、その学習や運営を支援する。	引き続き、新しい継続的な学習の形（サークル等）を提案する。活動が組織されたものについては、その学習や運営を支援する。	引き続き、新しい継続的な学習の形（サークル等）を提案・支援する。また、こうした団体と協働して事業を行う。
		館の講座等を足がかりに、新しい継続的な学習の形（サークル等）を提案する。	館の講座等を足がかりに、新しい継続的な学習の形（サークル等）を提案する。また協働のあるべき姿を議論し共有する。	利用者の自主的な文化活動の支援のあり方について検討する。あわせて既存の活動（サークル等）の自主的な学習や運営を支援する。	既存の文化活動（友の会サークル等）の学習や運営を支援する。加えて、新規の支援のあり方について検討する。	友の会サークル等の学習や運営を支援するとともに、今後のサークル活動のあり方について議論する。
		利用者によるサークル活動が活発な他館（十日町市立博物館等）への当館友の会旅行をサポートし、利用者同士の交流の機会とすると共に当館友の会活動の将来の指針を得た。 また、防災食などをテーマにする新しいサークルの開設について当館友の会と相談をはじめた。	当館の民俗講座、防災講座の実績を踏まえ、友の会のサークルとして新たに食文化サークルを提案し、試行的に活動を開始した。将来的にこのサークルの参加者が講師となり学習の輪が広がることで継続的な活動に繋がるように参加者に提案し、目標として共有している。また、美術講座を足掛かりに、仏像鑑賞サークルの立ち上げも協議している。協働について意見交換を行った。 計画どおり実施	利用者の自主的な活動のあり方について班内で検討した。サークルによってはコロナ禍の影響により活動の中止が続き、退会者が出るなどの影響が出たが、新たに活動をはじめた「仏像を研究し旅する会」や「考古学倶楽部」を含め、福島県立博物館友の会に所属する既存のサークル活動の自主的な学習、運営を支援した。 計画どおり実施	友の会サークルに担当の学芸員が参加し、適宜助言を行うなどして活動支援を行った。「化石鉱物探検隊」の成果展の開催、継続的な「古文書愛好会」の活動に加え、新たに組織された「考古学倶楽部」「仏像に親しむ会」の活動に学芸員が伴走し、サークル活動を軌道に乗せる支援を行った。また、新規支援のあり方について、担当班内で検討を行った。 計画どおり実施	友の会の運営を支援するとともに、高齢化に伴う厳しい現状も把握された。サークル活動は非常に活発であり、サークル内から他分野サークルと連携したワークショップの提案がなされるなど、「みんなでつくるイベント」等との協働の可能性も見出された。 友の会、サークル活動の現状を把握し、今後のあり方や協働事業との関係について連携協働班内で議論を行った。 計画どおり実施
⑫ 協働による新たな事業運営の枠組みの構築	利用者との協働による事業運営体制について開かれた検討と試行を行い、共催、後援事業などを含む協働の多様な枠組みを設け、協働の層を厚くする。	協働による新たな事業運営の枠組みを検討し、館内外を対象に意見交換会を開催する。	協働による新たな事業運営の枠組み案を作成し、運営体制案（人員の配置等）もあわせて検討する。	協働による新たな事業運営の枠組み案に基づき、事業を試行する。	前年度の成果と課題に基づき運営体制の強化を図り、さらなる事業の試行を重ねる。	協働による新たな事業運営の枠組み確立し、継続的に事業を実施する。
		協働による新たな事業運営の枠組みを検討し、館内外を対象に意見交換会を開催する。	協働のあるべき姿を議論し、協働による新たな事業運営の枠組み案を作成し、運営体制案（人員の配置等）もあわせて検討する。	協働による新たな事業運営の枠組み案をさらに検討し、一部を試行する。	イベント等を外部の団体等と企画・運営する枠組みを検討し、一部を試行する。	他団体・個人との協働によるイベント・プログラム等の企画・運営の枠組みを整理し、試行を重ねて成果・課題の検証を行いながら、協働制度の準備を開始し、事業の充実を目指す。
		利用者との協働による事業運営について連携交流班内で協議し、体験学習室を試行の場とする事業案について検討した。 他団体との協働や連携による事業運営の枠組みを検討、共催・後援事業の規則を見直し、改定案を作成した。	前年度の最終館長講座の記録画の上映会を行い、その参加者から当館のあるべき姿について意見をいただいた。あわせて当館の事業運営に繋がる協働のあり方について館内での協議を進め、事業運営の枠組み案を検討し、運営体制案についても事業運営案と合わせて引き続き検討することになった。 計画どおり実施	協働による新たな事業運営の枠組みについて班内で検討した。当館が事務局を務めるライフミュージアムネットワーク実行委員会主催事業でリサーチを行い、事業趣旨の賛同者に児童・生徒向けワークショップへの参加を呼びかけた。 計画どおり実施	外部の団体等との協働による新たな事業運営の枠組みを検討し、運営協議会等で協議し、次年度の事業案に反映した。また他団体との事業の企画・運営の試行として、学校団体向けの学習プログラム対応、冬の「こどもミニミはくぶつかん」のワークショップの企画・運営を行い、効果と実績の検証につなげた。 計画どおり実施	協働事業のあり方について、協働団体と丁寧に共有し、「みんなでつくるイベント」として各イベントを実施した。実施後は各団体と振り返りを行い、成果や課題について検証を重ねた。イベントの他、会津支援学校との学習プログラムやゲストティーチャーに協働団体に参加いただいた。イベントに限定しない協働のあり方の試行となった。検証結果をもとに、協働制度の構築に着手した。 計画どおり実施

重点目標	実現方策	令和元(2019)年度 当初年次計画1年目	令和2(2020)年度 当初年次計画2年目	令和3(2021)年度 当初年次計画3年目	令和4(2022)年度 当初年次計画4年目	令和5(2023)年度 当初年次計画5年目
		計 画 実 績	計 画 実 績	計 画 実 績	計 画 実 績	計 画 実 績
⑬ 情報の効果的な周知	広報戦略の立案に基づき、当館発行の印刷物・WebおよびSNS・マスコミ・行政の広報媒体等、ツールの特徴を活かした広報により情報周知の徹底を図る。	広報戦略の立案に基づき、WebおよびSNS運用を充実させ、あわせて印刷物の内容見直す。	広報戦略の立案に基づき、WebおよびSNSの特徴による運用の差別化を実施、他団体との連携による広報ツールの充実を図る。	広報戦略の立案に基づき、マスコミへの情報提供ルートの検討を行い、マスコミへの情報提供の充実を図る。	広報戦略の立案に基づき、総合的な広報を実施。あわせて広報効果の検証を試みる。	広報戦略の立案および前年度の検証に基づき、すべての広報ツールの特徴による運用の差別化と実施を行う。
		広報戦略の立案に基づき、WebおよびSNS運用を充実させ、あわせて印刷物の内容を見直す。	広報戦略の立案に基づき、WebサイトおよびSNSの特性に応じた運用の差別化を実施。他団体との連携による広報ツールの充実を図るとともに、展示テーマに適した広報展開を実施する。新広報紙「なじよな」が魅力的な紙面となるよう工夫し、発行を軌道にのせる。	広報戦略の立案に基づき、マスコミ等への情報提供ルートの検討を行い、マスコミへの情報提供の充実を図る。	広報戦略の立案に基づき、効果的な広報活動を実施する。あわせてアンケート等の活用により広報効果の検証を行う。	広報ツールの特徴を整理し、それを踏まえた運用を行う。新規の広報ツールの採用、活用についても検討しながら、より効果的な広報活動への改善を進める。
		TwitterやFaceBookの更新頻度を上げたことに加え、シリーズ化するなど投稿内容の工夫も凝らした結果、大きな反響があり、1,000人を超えるフォロワーも獲得した。 また既存の広報誌の紙面や発行回数を見直し、より見やすく、幅広い層に情報が届きやすい紙面を検討した。	企画展や各イベントの内容に応じた広報戦略を立て、広報物の送付先や広報コンテンツ、発信方法等を検討し、広報活動を行った。総合的な情報発信ツールであるWebサイト、速報性の高いTwitter、読み物として機能するFacebookなど、それぞれの特性に応じた使い分けも行った。またコロナ禍における情報発信として、新たに公式YouTubeを立ち上げ、こども向け教育番組、美術ファン層に向けた教養番組、展示ドキュメンタリーなど多様なニーズに応える情報発信ツールとした。夏の企画展「会津のSAMURAI文化」では、会津の武家文化ゆかりの3施設と連携し、SAMURAI文化を紹介する動画の作成配信、SNSによる相互広報を行った。 新広報紙「なじよな」は、展示担当者のインタビューや収蔵庫内の資料紹介等、通常の情報発信と異なる切り口で紙面を構成し、当館の多様な魅力を伝えた。 計画どおり実施	広報戦略会議を行い、企画展の内容に応じた広報内容の検討を行った。従来のマスコミ向けの企画展説明会に加え、研究成果の公表のための記者会見を初めて実施した(オンライン1回含む計2回)。また、年度当初にマスコミ各社を訪問して新年度事業案の説明を行い、マスコミとの関係性の強化と情報提供ルートの充実を図った。 計画どおり実施	企画展の広報会議に基づき、従来の印刷物による広報だけでなく、Twitter企画(「#福島写真美術館等」)やイベント型広報(着物割引等)や物品配布(隊士カード)やラッピングカーといったものを組み合わせた総合的な広報を実施した。広報効果の検証として、Twitterの広報効果を春企画展で、Instagramの広報効果を秋企画展で分析した。 計画どおり実施	印刷媒体(ポスター、チラシ、広報紙「なじよな」、年間展示案内等)での県内向けの幅広い周知に加え、各種SNSをその特性に合わせた使い分けで運用した。また、福島県教育庁のnoteといった、新たな広報ツールの採用・活用を進めた。より効果的な広報活動への改善は進んだが、マンパワー・資金面の不足による課題が残った。紙媒体の広報ツールは引き続き製作・活用するが封入作業の効率化を図るため、次年度のアウトソーシングを計画した。 計画どおり実施
⑭ 親しみやすさと認知度の向上	広報物および掲示物、サインのデザイン精度を上げ、イメージの統一感を図る。 様々な視点による多様な博物館紹介を試み、親しみやすさの向上を図る。	掲示物のデザインの統一感の創出を図り、広報物のデザインの検討と試行を行う。博物館の「人」の紹介により親しみやすさの印象を向上させる。 掲示物のデザインの統一感の創出を図り、広報物のデザインの検討と試行を行う。 博物館の「人」の紹介により親しみやすさの印象を向上させる。	掲示物のデザインの統一感の創出を図り、広報物のデザインの検討と試行を行う。博物館の「場」の紹介により親しみやすさの印象を向上させる。 掲示物のデザインの統一感の創出を図り、広報物のデザインの検討と試行を行う。各種コンテンツを用い、博物館の「人」「モノ」「コト」の紹介により親しみやすさの印象を向上させる。	印刷物のデザインの統一感の創出を図る。博物館の「人」の紹介により親しみやすさの印象を向上させる。 「三の丸からプロジェクト」を含め広報デザインの統一感の創出を図る。博物館の「人」「モノ」「コト」「場」の紹介により親しみやすさの印象を向上させる。	館内サインのデザインを検討する。博物館の「場」の紹介により親しみやすさの印象を向上させる。 イメージ戦略のために館内掲示物のデザインを検討する。博物館の魅力を様々な視点で紹介し、親しみやすさを向上させる。	館内サインのデザインの統一感の創出を図る。博物館の「コト」の紹介により親しみやすさの印象を向上させる。 シンボルマークの活用等を通じて、広報物の統一感を向上させる。併せて、各種の広報ツールやイベントと連動させることで親しみやすさを向上させるための普及活動を行う。
		各掲示物に共通した博物館の連絡先等の情報について、考え方の検討をはじめた。 さらに共有を行ったうえで「共通情報部分の統一感あるデザイン」の検討を進めていく。 「博物館だより」の新任者紹介や、テレビ取材、SNS、新たに始まったラジオ番組などで当館に勤務する学芸員にスポットを当て、当館の親しみやすさの向上に努めた。	年間パスポート発売やテーマ展会期変更など「博物館からのお知らせ」を共通のデザインで掲示・発信する試行を行ったが、広報物全体を統一感あるデザインとするまでには至らなかった。 紙媒体の広報紙「なじよな」、ラジオ番組「けんばく徒然語り」、けんばくYoutubeチャンネル、あつまれどうぶつの森を活用した「#あつ森で飾ろう」など各種コンテンツによって、学芸員それぞれの個性、展示資料の魅力、講座の内容を紹介し、親しみやすい情報発信を行った。 一部計画どおり実施	年間パスポートやコロナによる各種事業変更の表示等を共通のデザインで作成・発信した。統一感あるデザインの導入についてのメリット・デメリットの検討を行った。 広報紙「なじよな」やラジオ番組「けんばく徒然語り」等を活用し、展示や講座の魅力だけでなく学芸員個人や収蔵庫に眠る資料などもクローズアップし、親しみやすく興味をひく情報発信を心がけた。また博物館の多様な楽しみ方をまとめ令和3年度に発行した「なじよな2021特別号」を配布・活用し、館周辺を含めた「場」としての博物館の魅力を伝えた。「なじよな2022特別号」も「三の丸からプロジェクト」特集号として博物館と同プロジェクトを統一感をもって広報するツールとした。 計画どおり実施	担当者で館内掲示物におけるイメージ戦略について協議し、県立博物館シンボルマーク、ロゴ、令和4年度制作の三の丸からプロジェクトロゴの活用について検討した。 広報紙「なじよな特別号」の「三の丸からプロジェクト特集」で、同プロジェクトによる館内整備について発信、また通常版「なじよな」の表紙で年間を通して同プロジェクトによる館内整備を伝えるイメージ写真を採用するなど、広報紙「なじよな」を活用して"場"としての博物館のイメージを伝える広報活動を展開した。 計画どおり実施	三の丸からプロジェクトのロゴ策定にあわせて、福島県立博物館の和文・英文表記フォントを固めた。これらを活用することで、広報物の統一感の向上を図った。また引き続き、シンボルマークを館内行事のチラシやイベントに活用することでその認知度と、館への親しみやすさの向上を計った。一方で、具体的な普及活動の展開までは至らなかった。 一部計画どおり実施

重点目標	実現方策	令和元(2019)年度 当初年次計画 1 年目	令和2(2020)年度 当初年次計画 2 年目	令和3(2021)年度 当初年次計画 3 年目	令和4(2022)年度 当初年次計画 4 年目	令和5(2023)年度 当初年次計画 5 年目
		計 画	計 画	計 画	計 画	計 画
		実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
⑮ 県内の各機関・団体との連携による新たな文化活動の創造	当館が県内の文化ネットワークの拠点の一つとしてより効果的に機能することで、既存の連携の活性化や、新たなネットワークを構築する。 それらを基盤に、博物館の文化資源を活用し、観光地・会津に立地する特性を活かして、新しい文化活動を創造する。	既存の連携事業の活性化方策を検討・試行し、あわせて新たな連携先（施設・団体等）の発掘と連携方法の検討を行う。	既存の連携事業の活性化方策を検討・試行し、あわせて新たな連携先（施設・団体等）の発掘と連携方法の検討を行う。	既存の連携事業の活性化方策を検討・試行し、新たな連携先（施設・団体等）との新規連携事業を検討・試行する。	既存の連携事業の活性化方策を検討・実施し、新たな連携先（施設・団体等）との新規連携事業を検討・実施する。	複数の連携先を組み合わせた連携事業を検討・試行する。
		既存の連携事業の活性化方策を検討・試行し、あわせて新たな連携先（施設・団体等）の発掘と連携方法の検討を行う。	既存の連携事業の活性化方策を検討・試行し、あわせて新たな連携先（施設・団体等）の発掘と連携方法の検討を行う。	「三の丸からプロジェクト」の共同申請者をはじめとする該当施設・団体等との連携により、文化観光拠点としての役割を果たすべく同プロジェクトを実施する。	「三の丸からプロジェクト」や新規移動展（仮）、その他県内各機関・団体との連携事業での助言・指導などを通じて、新たな文化活動の創造に繋げる。	「三の丸からプロジェクト」において連携事業を強化・活性化し、新たな文化活動の創造に繋げる。また、同プロジェクトの自走に向けて連携した運営の仕組みを検討する。
		企画展「興福寺と会津」にあわせ、「会津の文化×地域連携プロジェクト」を基盤に会津の仏教文化を観光資源として活かす取り組みを会津若松市、会津若松観光ビューローと行った。 福島県博物館連絡協議会の事業の活性化を試み、新たに資料取り扱い研修を実施した。 未就学児支援事業「博物館でも読み聞かせ」においてあらたに会津大学短期大学部との連携に取り組んだ。 当館無料空間で開始した福島県内文化施設のPR展示では、当館を拠点とした発信を行い、新たな連携を試行した。	福島県博物館連絡協議会の事業内容の充実を理事会等で協議、新設施設の見学研修、災害時の資料取り扱い研修を実施した。また「会津の文化×地域振興プロジェクト」協議会を母体に、新たに只見川電流域振興協議会、福島県観光物産交流協会を連携先とした「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」を策定し、国の認定を受けて事業をスタートさせた。	三の丸からプロジェクトの「雪国ものづくりマルシェ」「若松城下まちなか連携事業」の開催や「雪国ものづくりレストラン」「周遊促進発信事業」を、共同申請者との情報・資料提供、広報協力をはじめとする連携により実施。また「体験型プログラム」は、各団体等との連携により新たな文化資源の活用の可能性を提示できた。「若松城下まちなか連携事業」は、当館の企画展と連動する周遊促進事業として会津若松市内の歴史的建造物（登録有形文化財：建造物）の新たな利活用を実践し、各会場や運営団体と新たな文化活動の創造の可能性を共有する機会ともなった。 三の丸からプロジェクト以外にも、夏の企画展で会津若松市が事務局を務めるナイトタイムエコノミー推進協議会と連携して事業を行うなど、各観光団体との連携により、文化観光拠点としての整備と活動の実績をあげることができた。	「三の丸からプロジェクト」では共同申請者、各文化団体と連携した文化発信、新たな体験型プログラム構築を行った。博物館収蔵資料活用アウトリーチ事業では、連携館と協議を重ね、震災遺産を活用した企画展を北塩原村と富岡町で開催。今後のアウトリーチ事業で活用できるパッケージの創出につながった。また、当館収蔵写真作品を貸し出し、複数会場で写真展を実施。開催各施設の協働、新たな相互理解が生まれた。その他、博物館外の機関との連携による中学校向け授業案の作成・実践、学びの場の創出、文化資源を活用したツアーの試行を行った。	「三の丸からプロジェクト」まちなか連携事業において、当館部門展示室（民俗）のリニューアルや夏の企画展と連動した連携展示やイベントを開催し、歴史的建造物の新たな魅力発信につながった。3エリア周遊のためのツアー造成事業では、博物館と御業園をユニークベンチャーとして活用し、これまでにない使い方による新たな価値の発信を行った。 個別の事業について、関係者、講師、出店者等をまじえ、自走に向けた体制構築の検討を行うとともに、三の丸からプロジェクト全体の自走化に向けて共同申請者と協議を行った。
⑯ 震災遺産の展示公開と利活用	年間を通して観覧できるように、震災遺産を常設展示する。博物館資料「震災遺産類」の保存・活用に向けて、核となる職員を配置した新分野を確立する。	新分野確立に向けて館内で合意形成する。常設展における震災遺産の利活用の考え方について館内で整理する。	新分野を確立する。新たな常設展示の試行として企画展を開催する。	新分野の教育普及を充実する。震災遺産を盛り込んだ新たな常設展示プランを作成する。	常設展示について館内での合意を形成する。	「震災遺産」の常設展示を試行する。
		新分野確立に向けて館内で合意形成する。常設展における震災遺産の利活用の考え方について館内で整理する。	新分野を確立する。新たな常設展示の試行として企画展を開催する。	災害分野の教育普及を充実させる。さらに防災教育の視点を含んだポイント展、特集展を実施し、それらの成果を活かした新たな震災遺産の常設展示プランを検討する。	震災遺産の常設展示について、ワークショップ等を通して館内外からの意見を集約し、館内での合意を形成する。	収集展示委員会で展示構成を協議し、次年度以降の常設展の設置に向けて資料展示を試行する。
		通史の中に東日本大震災を位置づけるための共通理解を図り、震災遺産の常設展示での利活用を検討するため、エネルギー開発や災害史、民俗学的観点から毎月館内研修を開催した。	館内で新分野のあり方を議論し、運営協議会、収集展示委員会から意見をいただき、次年度災害分野の確立が決定した。企画展「震災遺産を考える 次の10年へつなぐために」では、これまでの活動の蓄積を紹介しつつ、既存の常設展示への接続のしかたも見据えながら展示を構成した。また企画展に合わせて活動をまとめた記録誌を初めて刊行し、常設展に組み込む際の基礎資料と位置づけた。	ゲストティーチャー13回1733人、講師派遣9回154人と学校や公民館での教育普及を充実させた。ポイント展・特集展も教育普及的な内容を加味して実施した。また、会津若松市危機管理課や会津自然の家など、他機関と連携した教育普及活動も実施することができた。また常設展示プラン案を作成し、議論を始めた。	ゲストティーチャーのアンケートや解説員とのワークショップを通じて、博物館の強みを活かした展示内容について意見を集約した。また博物館実習において、学生たちへの課題として震災遺産を含む現代の展示提案を行い、意見等を集約した。館内の関係分野学芸員や他館の近現代担当学芸員とも意見交換を行い、学芸員会議にて展示の構成や進捗を共有した。博物館収蔵資料活用アウトリーチ事業で震災遺産を活用した関係機関と協議を重ねて2会場で企画展を実施し、常設展示のための知見を得た。成果の一部は全国科学博物館協議会研究発表大会にて報告した。	収集展示委員会に展示構成を諮った。令和6年度12月以降の常設展設置に向けた資料調査などを行った。資料展示の試行としてポイント展を利用し、震災遺産の展示を3回行った。特に年度末の展示については、県会津地域振興局の追悼イベントと連携させたことで、特に関心の高い来館者に見ていただく機会となった。
			計画どおり実施	計画どおり実施	計画どおり実施	計画どおり実施

重点目標	実現方策	令和元(2019)年度 当初年次計画 1 年目	令和2(2020)年度 当初年次計画 2 年目	令和3(2021)年度 当初年次計画 3 年目	令和4(2022)年度 当初年次計画 4 年目	令和5(2023)年度 当初年次計画 5 年目
		計 画	計 画	計 画	計 画	計 画
		実 績	実 績	実 績	実 績	実 績
⑪ 地域社会の現状への貢献	これまでの博物館活動の蓄積、博物館の可能性を活かしながら、多様性に対応した博物館であることを意識した博物館活動により、博物館の新たな役割・機能を拡張する。 博物館ならではの手法で、過疎化、高齢化等地域が抱える課題に向き合い、地域社会の未来に寄与する博物館活動を試行・実施する。	子ども、障害者、高齢者、交通弱者等、様々なタイプの人々に対応した、博物館の資料等を活用したプログラムを考案、試行する。	子ども、障害者、高齢者、交通弱者等、様々なタイプの人々に対応した、博物館の資料等を活用したプログラムを考案、試行する。	子ども、障害者、高齢者、交通弱者等、様々なタイプの人々に対応した、博物館の資料等を活用したプログラムを考案、試行する。	子ども、障害者、高齢者、交通弱者等、様々なタイプの人々に対応した、博物館の資料等を活用したプログラムを考案、試行し、試行の成果と課題の検証を行う。	精度の高いプログラム、運営ノウハウを確立し、博物館機能としての定着を図る。
		子ども、障害者、高齢者、交通弱者等、様々なタイプの人々に対応した、博物館の資料等を活用したプログラムを考案、試行する。	子ども、障がい者、高齢者、交通弱者等、様々なタイプの人々に対応した、博物館の資料等を活用したプログラムを考案、試行する。	博物館的手法で、地域の文化施設との連携、将来世代を含む多世代との協働を通して、様々なタイプの人々に対応し、地域の社会的課題に向き合うプログラムを考案、試行する。	子ども、障害者、高齢者、交通弱者等、様々なタイプの人々に対応した、博物館の資料等を活用したプログラムを考案、試行し、試行の成果と課題の検証を行う。	博物館的手法を通して、様々な困難を抱えた方が地域や文化と出会うプログラムを構築し、県内文化施設等のネットワークを通じて、ノウハウの共有を行い、社会的課題に向き合うためにミュージアム機能を拡張する。
		当館が事務局を務めるライフミュージアムネットワーク実行委員会主催のライフミュージアムネットワーク2019に参画する中で下記の実績を得た。 ソーシャルインクルージョンをテーマとしたオープンディスカッションを開催。障害のある方にとってミュージアムが活用しやすい場であるための議論を行った。 当館を発着しと奥会津地方のミュージアムをめぐるスタディツアーに視覚障害のある方にご参加いただいたことにより、視覚障害のある方によるミュージアムの利活用の課題を検証し、次年度のプログラム開発につなげる素地をつくった。	様々な理由により来館が難しい方に博物館体験を届ける試行として、会津特別支援学校中等部・会津支援学校竹田分校・県内複数のミュージアムと協働し、オンライン見学や動画等の通信技術による手法と実物資料の持ち込み、出前授業など実体験による手法を組み合わせたプログラムを考案・実施した。また高齢者福祉施設におけるミュージアムによる回想法プログラム事業に学芸員が参画し、実施に協力した。	福島県内の4拠点で、地域の方、地域の文化施設、アーティストや研究者と共に、その地域・拠点が抱える社会的課題に対して向き合うアートワークショップを実施した。高校生を含む多世代の参加、長期的視点でのリサーチ、自然との共生、様々な人々の居場所づくりなどを通して、持続可能な地域づくり、多様な声に耳を傾ける空間（ポリフォニックスペース）の創出を目指すプログラムとなった。	適応指導教室の児童に向けて、当館の展示の対話型鑑賞、年中行事などをテーマにしたワークショップを通年で渡りほぼ毎月実施。通年での活用の試行となった。 福島芸術計画（県文化振興課事業）では、中山間地対応事業として昭和村のこどもたちと写真ワークショップおよび写真展を開催。過疎高齢化が進む地域の社会課題に対して、専門家の知見を取り入れながら、博物館的な手法で何ができるか試行・検証した。また、聴覚障害のある方に当館の利用に関するヒアリングを行い、聴覚障害のある方に向けた手話通訳を伴う企画展解説会を試行。成果・課題の検証を年度末に行った。	視聴覚障がい者の観覧支援を行うにあたり、福島県立視覚支援学校や福島県立点字図書館、支援団体と連携し、知見を共有することができた。 福島芸術計画（県文化振興課事業）中山間地対応事業では、アーティストと只見ブナと川のミュージアム、当館が互いの専門性を活かして連携し、こどもたちが地域の自然を感じるワークショップを実施した。また、会津支援学校において喜多方市文化課の協力のもと、地域の文化財である会津型を活用したワークショップを実施した。過疎高齢化や障がいといった社会が抱える課題に対して、「地域を知る」という博物館の手法を通して向き合い、成果展や記録集を通して発信を行った。
⑫ 施設の安全で快適な環境整備	入館者が安全で快適に利用できるように、施設・設備の点検結果に基づいて、危険箇所・不良箇所を改修するなど、適正な施設の維持管理に努める。 バックヤードに耐震対策を施し、利用者及び職員の安全を確保する。	避難訓練にあわせた、バックヤードでの安否確認の実施と、図書室からの避難経路への資料落下を防ぎ、安全確保を行う。	バックヤードのうち研究室・図書室の災害発生時および避難時のリスクアセスメントを検討する。	前年度避難訓練と、避難経路に加え、作業室、第一、第五収蔵庫からの避難経路への資料落下を防ぎ、安全確保を行う。	前年度避難訓練を踏まえた上で、第二収蔵庫の避難経路への資料落下を防ぎ、安全確保を行う。	前年度避難訓練を踏まえた上で、二階収蔵庫での避難経路への資料落下を防ぎ、安全確保を行う。
		避難訓練にあわせたバックヤードでの安否確認の実施と、図書室からの避難経路への資料落下を防ぎ、安全確保を行う。	バックヤードのうち研究室・図書室の災害発生時および避難時のリスクアセスメントについて検討する。	前年度発生した福島県沖地震をうけ、災害発生時のリスクアセスメントを改めて行い、結果に基づいた行動マニュアル・チェック項目を検討する。	2年連続となった福島県沖地震の対応と、前年度までのリスクアセスメント・検討をふまえ、勤務時間内外の具体的な行動マニュアルを策定する。	地震対応の具体策として、避難経路となる廊下や事務室等の点検・整理、収蔵庫内の落下防止チェックなど必要な対応を行う。コロナ対策緩和後に館内の各種サービス等を再開させ、快適な施設・空間の回復に努める。
		6月18日に、会津若松消防署の協力を得て、AED操作研修と自衛避難訓練を行うとともに、避難経路の安全確認を行った。 また、自動火災報知器設備を更新するなど、設備の老朽化対策に努めた。	研究室や図書室の安全面でのリスクの洗い出しは達成できていないが、重点目標②に合わせ、避難経路確保のための図書落下防止措置を検討した。また令和3年2月に発生した福島県沖地震による博物館被害状況を共有し、地震発生時の行動指針について検討を行った。	福島県沖地震をふまえ、改めて館内（特にバックヤード）の地震発生時のリスクについて確認し、避難経路の安全を確保するための不用品や存置品の処分や整理を積極的に行うとともに、非常時の対応について「福島県地域防災計画」を基に館内で検討した。	「勤務時間外に発生した地震災害に対する職員行動マニュアル」および教育庁（教育総務課）通知をもとに博物館における課題を抽出し、博物館独自の行動マニュアルを策定した。館内各所に防災ヘルメットを配置し、非常時への備えを整えた。	事務室棚上整理について着手し、震災等対策の意識づけを行った。コロナ対策として閉鎖していた展示室内の南レストコーナーを再開させ、コロナ前に使用していた冷水器を撤去してウォーターサーバーを新設するなどサービスの回復に努めた。
			一部計画どおり実施	計画どおり実施	計画どおり実施	計画どおり実施

2. 数値目標

使命・活動方針に沿って、福島県立博物館の社会的な貢献度をはかる指標として数値化できる目標を設定し、年度ごとに実績を公表します。

(令和 5 (2023) 年度末)

区 分		令和元	令和 2	令和 3	令和 4	令和 5	備考
①館内事業利用者数 (展示・行事)	目標	90,000	90,000	90,000	100,000	110,500	
	実績	120,376	60,416	84,241	163,189	76,779	令和 5 未達成
②館内事業利用者数 (特別プログラム)	目標	—	—	—	3,500	4,000	
	実績	4,930	3,009	3,556	5,772	2,763	令和 5 未達成
③館外事業利用者数 (学校・公民館事業等)	目標 (③④合計)	1,800	1,800	1,800	2,000	2,000	
	③実績	1,823	2,188	2,605	4,416	4,611	
④館外事業利用者数 (館外で行った当館主 催事業)	④実績	—	19	69	14,946	12,121	アウトリーチ事業含む
	実績 (③④合計)	—	2,207	2,674	19,362	16,732	
実績合計 (①②③④合計)		127,129	65,632	90,471	188,323	96,274	

区 分	年間目標	令和元実績	令和 2 実績	令和 3 実績	令和 4 実績	令和 5 実績	備考
資料情報の公開 (件数)	5,000	2,054	3,245	2,819	6,768	12,393	
研究成果の公表 (件数)	30	32	15	34	28	30	
行事の実施 (回数)	100	130	77	111	125	108	
ホームページ (アクセス件数)	430,000	391,990	304,261	368,789	485,372	359,790	令和 5 未達成
館外事業利用者数 (実行委員会・協議会事業等)	500	547	59	231	150	237	令和 5 未達成

(参考) 第3期中期目標から実績を集計し、今後目標値の設定を予定します。

区 分	指 標	令和元実績	令和 2 実績	令和 3 実績	令和 4 実績	令和 5 実績	備考
年間パスポート	販売数	988	1,737	968	971	387	
	利用者数	4,630	2,442	4,007	4,560	2,363	
Facebook	投稿件数	227	262	308	414	67	
	フォロワー数	1,135	1,248	1,338	1,419	1,458	
	エンゲージメント数	28,256	28,940	22,156	22,643	8,728	
twitter	投稿件数	309	280	410	358	156	
	フォロワー数	1,167	1,507	2,115	2,697	2,915	
	ツイートインプレッション数	3,103,652	1,131,054	1,175,482	845,762	305,178	
YouTube ※ 2020 年度新規	動画数	—	50	35	11	5	
	チャンネル登録者数	—	182	291	389	461	
	視聴回数	—	10,006	10,526	8,911	12,591	

3. 令和 5 (2023) 年度の状況

本年度は第3期の最終年度に当たる。

1 重点目標

当初設定した計画内容について、14 項目は「計画どおり実施」することができた。残りの 4 項目 (①⑤⑩⑭) については「一部計画どおり実施」という自己評価で、部分的に残されたそれぞれの課題については、次期中期目標や次年度からの通常の業務の中で改善させていく見通しである (「博物館中期目標 第 3 期の総括」を参照)。

2 数値目標

8 項目のうち、4 項目については目標値に到達することができた。とくに③④館外事業利用者数については、三の丸からプロジェクトや博物館資料展示活用アウトリーチ事業、防災に関する講座等の利用者数の増加により目標を大きく上回った。また「資料情報の公開」の項目についても、目標値を大きく上回ることができた。一方で以下の 4 項目については、目標値に到達することができなかったため、その詳細や要因等を以下に記す。

自己評価の詳細

2数値目標

①館内事業利用者数 (展示・行事)	利用者数の内訳を前年度（令和4年度）比でみると、常設展は56%、企画展・特集展は28%に減少し、行事については109%とやや増加した。企画展利用者数（18,180人）については、前年度のような実行委員会方式の大規模な企画展がなかったため大幅減となり、その影響は常設展の数字にも及んだと考えられる。常設展利用者数（50,114人）について、遡ってみると、コロナ禍前の令和元年度以前は、年間50,000人前後で推移しており、本年度は、その水準にほぼ戻ったとみることができる。なお、2月以後については、総合展示室閉室の影響も一部考慮する必要がある。
②館内事業利用者数 (特別プログラム)	利用者数の内訳をみると、前年度に比べて大きく減少したのは「学校団体体験学習（学習プログラム含む）」であり（令和4：4,440名→令和5：1,306名）、その他のプログラムは前年度並みであった。令和2年度以降、コロナ禍の対応として、学校団体の展示室への入場人数調整のため学習プログラムを積極的に実施してきたが、本年度はコロナ禍の終息にともない、入館方法をグループ入館に戻す学校が増えたため、利用者数は減少した。当館としては、今後も学校団体の希望に応じて、学習効果の高まるプログラムの紹介は継続していく。
ホームページ (アクセス件数)	アクセス件数は、令和4年度よりは少なく、令和3年度並みである。アクセス件数の増減は、展示・行事など館内事業利用者数の増減とほぼ比例している。企画展や催し物の情報は適宜更新し情報提供ツールとしては機能しているものの、積極的な情報発信は、おもにSNS等に注力して展開させるようにしているため、アクセス件数は横ばいで、当初設定した目標値までは達しなかった。
館外事業利用者数 (実行委員会・協議会 事業等)	本年度は、対象事業が磐梯山ジオパーク事業（136名）、ふくしまサイエンスぶらっとフォーム事業（101名）のみであったため、目標値には達しなかった。そもそも実行委員会方式の事業は、その性格により、参加者が多く見込めるものと見込めないものがあり、また補助事業であった場合、採択されない場合は事業自体を実施することができなくなるため、利用者数の増減に大きく影響してしまう。

4. 第3期中期目標の総括

1 重点目標の成果と課題

◆活動方針1 地域の文化遺産の収集と継承

重点目標①	実現方策
検索が楽しめるデータベースの構築と公開方法の改善	現データベースを基盤に、新たにテーマ型データベースを構築し、知的好奇心を喚起させるアクセスしやすい収蔵資料情報整備し、試行する。

〈目標設定の背景〉

現在の公開データベース（DB）は、博物館関係者や研究者が資料目録として使用するにはシンプルな検索システムであるが、一般のHP閲覧者にはやや敷居が高いと思われる。DB利用者のすそ野を拡大するため、検索が「楽しめる」DBを構築し、博物館資料の魅力を発信する。

【成果】

今期当初、当館では公式Webサイトの抜本的更新があり、コンテンツの取捨選択と新たな形での資料情報の発信・公開が求められた。このため、旧来の固定的ページ構成を廃し、先行公開された「収蔵資料情報データベース（以下、DB）」を改良、より洗練された形でのテーマ型DBの整備を進めた。今期、各分野の「学芸員のおすすめ資料」選定を経て試行的公開に至ったことは、デジタルミュージアム推進の一つの成果である。

【課題】

上記テーマ型DBは試行段階ではアクセス数やコンテンツ量の面で課題が残った。他方、広報普及事業とも関わるが、今期の大半を占めたコロナ禍は、図らずも各館のデジタルミュージアムの取り組みを促進し、当館もYouTube・SNS・個人端末での情報配信等、異なる利用者層へ多様な媒体での資料情報公開の契機になった。改正博物館法を踏まえ、今後も資料のデジタルアーカイブ化を推進してデータベースの充実を進め、コンテンツの利活用の機会を拡大していく必要がある。

重点目標②	実現方策
図書利用環境の整備	図書配架スペースを確保し、図書利用環境を整備する。図書データベースを一般公開し、運用ルールを策定した上で一般来館者の図書利用を試行する。

〈目標設定の背景〉

博物館活動適切化の一環として平成29年度に図書室・情報処理室の環境整備を実施した。さらなる環境整備のため、逼迫している図書配架スペースの課題を解決し、スムーズな図書閲覧環境を回復させるとともに、図書利用対象者を拡大させ来館者の学習ニーズに応える。

【成果】

令和2～3年度にかけて、書架の整理作業を集中的かつ大規模に実施し、山積する未配架図書や書庫の狭隘化といった問題について、状況を大幅に改善することができた。また、県内の他の図書館に比して当館図書室の持つ蔵書（報告書等）の強みを活かし、収蔵図書データベースの公開・図書の一般利用の門戸を開いたことは、より深く・より広く学びうる機会を多くの人に提供する取り組みとして、今後も推進されるべき成果である。

【課題】

一般来館者の図書利用を本格的に実施するためには、より一層の周知や、県内図書館横断検索への参加等により利便性を高める施策が望まれる。これにより利用実績を上げながら図書の出納や閲覧対応等にわたる人的な態勢の強化をしたい。

重点目標③	実現方策
資料の安全な保存	適切な情報取得と情報共有をもとに、適正な保存環境を維持する体制を確立する。 保存環境モニタリングの情報取得方法・内部共有システムをバージョンアップするとともに適正に運用する。

＜目標設定の背景＞

近年、空気環境（化学汚染物質）の清浄化技術に関する研究開発が進められており、指針が整備されつつある。当館が採用している監視方法では実態を正確に把握することが不十分な上、現状の空調設備と運用では空気清浄化を実現できない可能性がある。第1期-第2期中期目標では、生物被害防除（IPM）に重点を置いたので、この成果を継承しつつ、第3期中期目標では、空気環境の清浄化に重点を置きたい。

【成果】

今期は特に展示・収蔵環境のリスクアセスメントを推進した。環境調査・温湿度モニタリング・収蔵庫の定期清掃等IPM（Integrated Pest Management）を継続的に実施した。これにより定期的調査→分析→情報共有→改善策の実施→定期的調査の継続 というサイクルを確立した。開館以来40年近くを経て、老朽化による不具合は館内各所に生じつつあり、異常の早期発見、より適切な環境整備のための具体的な対策につなげられたことは大きな成果である。

【課題】

温湿度モニタリングについては、現在もアナログな温湿度記録計を多く使用している状況にある。デジタル化が必要であり、データロガーの台数増（追加購入）と合わせ、モニタリングのネットワーク化によりリアルタイムの把握と迅速な対応が可能な体制を構築したい。

◆活動方針2 最新の研究による新たな資料価値の発見

重点目標④	実現方策
多様な連携による新たな研究活動	地域の歴史・文化や自然遺産に関する学術研究を推進するため、多角的な視点と最新の研究手法が共有される新しい研究プロジェクトを自治体や大学・研究機関などの外部組織と立ち上げる。その中で主体的かつ連携を強化する役割を果たして効果的な研究活動を実践する。とくに新たに博物館資料に位置付けられた震災遺産の調査研究を推進し、博物館活動における災害史領域の普遍化を目指す。

＜目標設定の背景＞

当館学芸員はその専門性による地域の研究課題を各々推進している。研究は博物館で完結する研究、自治体との連携、大学や研究機関の特定研究課題に参画するものなどがあり研究規模や枠組みが多様である。この中で、多角的な研究視点や最新の研究方法に触れることができ、学際的な新たな研究の枠組みが更新される共同研究に参画する。その結果、研究成果とともに共同研究の枠組みが博物館にフィードバックされ館の研究基盤の強化につながる事が期待される。また新たな部門として立ち上げた災害史については震災遺産の調査研究を強化し、地域博物館における研究の地平を拓いていく。

【成果】

連携した共同研究の推進では、大学や博物館等と連携した各種研究プログラムに毎年参画し、学会発表や公開シンポジウム及び報告書等で研究成果を発表した。特に自然分野では国内外諸機関との協業による研究により、卓越した研究成果を挙げた。また地元会津大学とソフトウェアを開発する取り組みも行った。外部の研究費助成については、科研費の奨励研究・基盤研究（C）・若手研究で採択実績があった。

【課題】

研究費は僅かながら増加傾向にあるが、学芸員一人当たりでは小規模であることに変わりなく、研究基盤は依然として貧弱な状況にある。引き続き、外部資金に積極的に応募しつつ、科研費においては中型・大型の助成金獲得のための環境整備が必要である。

◆活動方針3 来るたびに発見がある展示・講座

重点目標⑤	実現方策
何度でも足を運びたくなる展示づくり	常設展の展示替えや魅力ある企画展の開催により、常に新しい発見のある展示室を構築し、リピーターの増加を目指す。

＜目標設定の背景＞

展示観覧者全体の増減は、毎回の企画展の内容に大きく左右される傾向がある。できるだけ魅力的な企画展を準備するとともに、常設展を含めて観覧者数の底上げをする必要がある。学校団体への取り組み以外に、新たに導入した年間パスポート等を活用しながら、何度も来館してもらえる工夫をしてリピーターを増やす取り組みが必要である。

【成果】

企画展観覧料金で常設展示観覧できることもあり、企画展の内容と関連したテーマ展やポイント展を実施することで館内の一体性と連動性を高め、本県の歴史・文化・自然の魅力に触れる機会を増やすとともに、研究成果を速報的に紹介するポイント展も増加した。また文化観光事業により展示効果を高める施設・設備の改修、分野別展示室の大幅なリニューアルや「三の丸アベニュー」の整備など新しいコンテンツの導入など来館者満足度につながる基盤整備を実施した。

コロナ禍において、観覧者に直接解説することができないため、対応として中テーマ解説パネルを増設した。またそれらをもとにインバウンド対応の多言語化を進め、デジタルサイネージにて表示している。多言語対応では、会津若松市国際交流協会や会津大学の留学生などの協力を得た。

また、展示室にWi-Fiを新設したことにより、Webを活用した展示観覧（令和5年度秋企画展）など実施した。

【課題】

デジタルサイネージで表示している多言語については、おおむね好評であるが、さらなる多言語（英語翻訳）を求める声はアンケートから読み取ることができる。

文化観光推進事業で整備したゲートウェイ展示等を外部と連携しながら活用し相互に魅力を発信できる仕組みを構築する必要がある。

重点目標⑥	実現方策
博物館の魅力が詰まった新しいスタイルの講座の開催	展示と有機的にリンクしたり、テーマ性をもった多様な魅力ある講座を開発・実施する。

＜目標設定の背景＞

これまで講座は各分野の判断でそれぞれ企画・運営してきた側面が強く、分野の個性が出る反面、館全体で見た場合には不統一感もあった。今後はアレンジを加え、展示がより楽しめる講座や、最新の研究を分かりやすく伝える講座、テーマ性があり分野横断的な総合講座などを開発・実施し、統一的な広報にもつなげたい。

【成果】

「ポイント展ミニ解説会」を開催することで、常設展の魅力発信につなげた。ポイント展は小規模な展示だが学芸員の日頃の研究・資料収集の成果を速報的に発表する場でもあり、館と学芸員の活動を伝える重要なコンテンツである。特に、学芸員が直接解説を行うことでリピーターや年間パスポート保持者の満足度を高めることにも繋がった。

また、期間中に新型コロナウイルス感染症の拡大があり、対面での講座やイベントを中止せざるを得ない状況があったが、館公式YouTubeで視聴できる新しいスタイルの講座開催と公開につなげることができた。加えて、新たに始まった「三の丸からプロジェクト」を軸にした分野横断型の連続講座「三の丸から講座」を開催することで、複数の分野が組むことによる話題の広がりや内容の充実を得ることができた。

【課題】

「ポイント展ミニ解説会」は平日の来館者増を目指し、平日に来館できる近隣在住のリピーターを対象としていた。一方で、やはり土日祝日に比べると参加者数が少ないため、担当学芸員からは来館者の多い休日に開催したいという意見も寄せられた。来館者と気軽に会話しながら解説をするという当初目指したスタイルとズレが生じたことで、継続が難しくなった面もあった。

また、行事実施数が多いこと、分野ごとに当該年度の事業計画があること、テーマ設定の難しさなどが、分野横断型講座を定期的に開催するためのハードルになっている。

重点目標⑦	実現方策
新しい展示ストーリーの検討	将来の展示室改修に備えて、新しい常設展の展示ストーリーを検討する。新設館など最新の情報を収集し、館外から意見を聴取する機会を設定し、常に最新の構想を準備しておく。

＜目標設定の背景＞

- 大規模な予算を伴うリニューアルの見通しが立たない状況の中でも、将来の展示室改修などを想定した準備を進めておく必要がある。展示の手法や技術は日々進歩しているので、常に最新の情報を収集しておくようにしながら、新しい展示ストーリーには利用者の視点も不可欠であり、館外からの意見を聴取する必要がある。

【成果】

当初の2年間は、新たな展示ストーリーを構築するために、博物館利用指導者研修会参加者や会津若松市国際交流協会を来館者モニターとして展示観覧後に外国語表示など今後の展示の在り方について意見交換を行った。また会津大学と連携し「鑑賞アプリ」の試験導入やモニタリングセンサー等を試験的に設置し、来館者の観覧動線の把握や展示観覧の印象を把握し展示構成にフィードバックできる情報技術の検討も行った。3年目からは、文化観光事業への参画に伴い、会津文化観光の3つの文化エリア周遊のゲートウェイとなる展示ストーリーを常設展示空間のバッファゾーンである展示ロビーにコア展示ゾーンとなる「三の丸アベニュー」として具体化した。

【課題】

新しい展示ストーリーの検討は「三の丸アベニュー」構想を実現させたが、常設展示の大部分はリニューアルに向けての動きはなく、文化観光事業による多言語化やデジタルサイネージの導入、観覧支援情報ビューワーの装備等はあるものの館

全体の常設展示ストーリーの見直しを含めた検討は進展が鈍いといえる。総合展示室における震災遺産の常設展示化などの検討や具体化については一定の進捗はあったが、今後も予算措置が伴わない中でも着実に県民のニーズに応じた対応をしていかねばならない。

◆活動方針 4 楽しめて出会いのある場の創出

重点目標⑧	実現方策
展示室以外の空間の有効活用	展示室以外の空間の活用案の検討と試行により、各フロアの魅力を引き出した、有機的な空間活用を実現する。来館者が行きたい、過ごしたいミュージアムならではの空間をつくり、運営する。

〈目標設定の背景〉

これまで展示室以外の空間をトータルで捉え、機能を再検討することは十分に行われてこなかった。展示室以外の空間の機能・役割を再設定することにより、利用者の来館メリットを増加させることが可能である。また当館のフロントにあたり来館者が当館に抱くイメージに影響するフロアであることから、各空間の有機的なデザインは当館のイメージ向上にも有効である。

【成果】

旧体験学習室、ティールームについて、班内協議、多様な立場の外部の方とのワークショップを経て活用案をまとめ、令和3年から三の丸からプロジェクトにより、雪国ものづくり広場「なんだべや」・雪国ものづくり食堂「つきない」として整備を開始し、乳幼児を連れた家族、障がいのある方も居心地よく楽しめる空間とした。また、内装に会津のものづくりをふんだんに取り入れることで、会津の文化に触れられるミュージアムならではの空間とした。

前庭・雁木下では令和3年より雪国ものづくりマルシェを開催し、ものづくりをテーマに「なんだべや」「つきない」と屋外を有機的につなぎ、会津の文化を発信する場とした。

他団体との連携協働により、屋外も含めた無料空間を未就学児向けプログラムや多様な体験活動の場として運用した。リピーターも増え、来館者にとって魅力ある空間を創出できたと言える。

【課題】

「なんだべや」「つきない」を、ものづくりを伝える空間としてリニューアルしたが、その内容や魅力を十分に発信できていたとは言えず、HP、SNS等を通して情報発信を行っていく必要がある。今後は協働団体の公募・登録制度の確立とともに、無料空間を協働団体の活動拠点として運用する仕組みを構築し、さらなる有機的な空間活用により、開かれた場としての魅力を高めていく必要がある。

重点目標⑨	実現方策
多様な利用者層に対応したプログラムの実施	人が出会い、学び合い、表現できる場をつくる。年度ごとに対象を定めて効果的なプログラムを計画・実施する。

〈目標設定の背景〉

さまざまな立場の方々がより利用しやすい博物館環境をつくるため、これまで行き届かなかった利用者層を対象としたプログラムを計画・実施し、定着させる。

【成果】

第3期中期目標以前は障がい者等多様な利用者層に対応したプログラムを実施できていなかったが、文化庁から助成を受けたライフミュージアムネットワーク事業、ポリフォニックミュージアム事業などを活用し、この5年間で多様な層に応じたプログラムを充実することができた。具体的にはこども園、支援学校、老人福祉施設、障がい者支援団体、適応指導教室等との連携により、未就学児、障がいのある児童生徒、高齢者、視聴覚障がいのある方、不登校等困難を抱えたこどもに向けたプログラム等を開始した。先進事例や専門家からの学びと実践、アーティストや芸能団体等との協働を通して、地域の文化や自然、人に出会うプログラムとして試行しながら内容の充実、定着をはかった。さらに文化観光事業で「触れる展示BOX」や「さわって観ようてんじカード」など、視覚障がい者向けの観覧支援システムを開発し、運用を通して効果を検証した。

【課題】

最終年には、会津に在住する海外の方とのプログラムも試行し、ニーズを把握したが、本格的な実施には至らなかった。今後は関係団体との連携を図りながら、さらなる多文化交流プログラムを展開していきたい。多様な利用者に向けたプログラムの開発、実施は端緒についたばかりであり、この5年間の学びと実践を活かしながら、関係団体で知見やノウハウを共有し、博物館が持つ地域を知るための豊富な素材を活かしたプログラムを展開していく。

◆活動方針 5 利用者との協働

重点目標⑩	実現方策
ボランティアとの協働	ボランティアに関する研修等を受けた館職員が窓口となり、受入体制を整えて、ボランティアを募集する。また博物館とボランティアが協働しつつ、新しい活動メニューを考案し、試行する。

〈目標設定の背景〉

現在、全国の様々な博物館ではボランティアの導入が進み、体験学習やイベントの補佐などをボランティアが担っている場合も少なくない。そこで当館においても資料整理に限定せずにボランティアを募集し、より多くの人に生涯学習の場を提供することとしたい。

【成果】

第3期中期目標設定当初、資料整理に加え、館内ガイドやイベント運営に携わることなども含めたボランティアを想定し、目標を立てていた。令和3年度にボランティアのあり方について協議を行うなかで、協働による新たな枠組みでの事業内容と差別化を図るために、ボランティアについては現行の資料整理ボランティアの性格を尊重し、その活動を支援する方向性をとることとした。

博物館友の会古文書愛好会メンバーに限っていた歴史分野の資料整理ボランティアは、令和4年度から一般の参加を試行的に受け入れるなど、分野それぞれに適した募集形態の検討を行った。

【課題】

各分野の資料整理ボランティアに適した募集形態や活動形態について検討を行ったが、いまだ十分に整理できていないため、今後も引き続き、各分野の資料整理ボランティアと協議し、各分野に適した募集形態を検討していく。また、資料整理ボランティアの学びの機会の充実や博物館との連携についてもヒアリングを行いながら検討を継続する。

重点目標⑪	実現方策
利用者の自主的な文化活動支援	博物館を活用した自主的な活動の受け皿をつくり、利用者の学ぶ意欲を促進する。

〈目標設定の背景〉

博物館友の会のサークルとして活動している化石鉱物探検隊・古文書愛好会のように、博物館という場を存分に活用し、自主的に学習を深める人々を支援する仕組みを作り、博物館ならではの方法で地域の文化活動を活性化したい。

【成果】

友の会サークルは既存サークルに加え、令和3年度に新たに「仏像に親しむ会」「考古学倶楽部」が立ち上がり、担当の学芸員の伴走のもと活発な活動を展開している。令和5年度には、サークル内から他分野サークルと連携したワークショップの提案がなされるなど、「みんなでつくるイベント」等との協働の可能性も見出された。

【課題】

現状、友の会会員がサークルに参加できるルールとなっており、サークル活動への参加が友の会入会の主要な目的ともなっている。一方で、友の会自体は高齢化が進み、運営に困難も生じている。今後は継続して友の会サークル活動を支援するとともに、友の会会員に限らないサークルの運営など、友の会自体のあり方とともに検討していく必要がある。

重点目標⑫	実現方策
協働による新たな事業運営の枠組みの構築	利用者との協働による事業運営体制について開かれた検討と試行を行い、共催、後援事業などを含む協働の多様な枠組みを設け、協働の層を厚くする。

〈目標設定の背景〉

これまで利用者との協働による事業運営体制について十分に検討されてこなかった。利用者の立場に立った協働の枠組みの検討は、使命実現のための必須事項の一つである。館内外の意見を広く共有する場を設け、協働のあり方を利用者とともに検討しながら、多様な枠組みを設けることで、協働の層を厚くしたい。

【成果】

館内外との議論を重ね、外部の団体との協働による事業運営の枠組みを検討した。令和4年度には試行的に他団体との協働による事業運営を開始し、運営協議会において協働団体・個人を公募により募る方向性について共有した。令和4年度から令和5年度には協働事業のあり方について、協働団体と丁寧に関わり、共有し、「みんなでつくるイベント」として各イベントを実施した。実施後は各団体と振り返りを行い、成果や課題について検証を重ね、関係性の構築を行うことができた。

イベントの他、会津支援学校との学習プログラムやゲストティーチャーに協働団体として参加いただくなど、イベントに限定しない協働のあり方も試行できた。

【課題】

従来の「依頼」という形から「協働」による事業運営にシフトしたことにより、軋轢が生じたこともあったが、その都度、協議しながら事業を進めてきた。今後も引き続き丁寧な関係性構築が必要となる。さらに、ニーズの把握と掘り起こしと併せ、協働団体の公募制度を構築して協働体制を強化し、多様な文化的プログラムやイベントを提供していきたい。それにより来場者の満足度を向上させるとともに、各団体の活動の周知や継承、自己実現につなげることで、来場者・協働団体双方にとって実りのある活動としていきたい。

◆活動方針6 博物館情報の公開と発信

重点目標⑬	実現方策
情報の効果的な周知	広報戦略の立案に基づき、当館発行の印刷物・WebおよびSNS・マスコミ・行政の広報媒体等、ツールの特徴を活かした広報により情報周知の徹底を図る。

〈目標設定の背景〉

広報力の弱さは長年、内外から指摘を受けている事項である。近年、新たな広報ツールの活用や他団体との連携による広報ルートの開拓を進めているが、それらを効果的に機能させるために、広報戦略の立案とそれにもとづく広報が必要である。

【成果】

X（旧Twitter）、Facebookについて、それぞれの特性を把握、投稿内容によって使い分けることで、効果的な情報の周知につなげることができた。大きな反響を得た投稿もあり、従来のホームページのみでは得られなかったSNSの拡散力やユーザーの反応を感じるとともに、新たなファン層の獲得にもつながった。加えて、SNSに反応があった後にホームページの閲覧数が伸びるなど、相互に関連性のあることがわかった。また、企画展だけではなく、研究成果の公表や三の丸からプロジェクトの成果といった館の事業についても報道各社への情報提供を頻繁に行うことで、良好な関係性を築くことができた。

【課題】

SNSについてはこの5年間で新たにInstagramが登場、人気を集めるといった隆盛があった。また教育庁のnoteなど新しい媒体も現れており、マンパワーの問題もあり広報ツールを増やし続けることができない中で、県公式SNS活用も含め当館にとって最も効果的な広報ツールを検討しつつける必要が生じている。予算としても大きな広報費がついているわけではないため、基本的には自前のツールを使用するしかない中で、広報活動をさらに展開していくという面においては限界も感じられる。

重点目標⑭	実現方策
親しみやすさと認知度の向上	広報物および掲示物、サインのデザイン精度を上げ、イメージの統一感を図る。様々な視点による多様な博物館紹介を試み、親しみやすさの向上を図る。

〈目標設定の背景〉

当館の認知度は、開館から30数年を経ても十分とは言えない。当館を知らない、訪れたことのない層へのアプローチ方策の検討と試行が必要である。また、当館への親近感を醸成することでリピーターやファンの獲得、事業運営の協働者の獲得へ繋げる効果があると考えられる。

【成果】

従来の『博物館だより』を『なじよな』としてリニューアルした。印刷形態を変更し、内容もよりくだけたものにする事で、博物館の敷居を下げ、親しみを感じてもらえる広報誌となった。加えて、ラジオ番組で学芸員が生声を届けたり、『なじよな』やYouTubeに「殿様」「南蛮先生」「忍者」といったキャラクターが登場するなど、様々な取り組みを行うことで親しみやすさと認知度を向上させてきた。また、シンボルマークの活用を意識づけたほか、三の丸からプロジェクトのロゴを制作・活用して掲示物や広報物の統一感を計ることで、認知度の向上につなげることができた。

【課題】

広報誌のリニューアルや様々なメディアの活用によって親しみやすさを向上させた一方、広報物や掲示物のデザイン統一については一定の成果に留まった。『なじよな』はデザインを踏襲することでイメージを固めていくことができたが、各分野の講座や各班担当のイベントのチラシ等については、イメージを統一するための明確な方針を打ち出すことができなかった。一方で、今期中にも当館の活動が従来よりも多岐にわたって展開されてきたことを受け、どこまでイメージの統一を図るべきか、多様なデザインで各事業の特色を打ち出す方がよいのではないかという議論もあった。

◆活動方針7 地域連携とネットワークの拠点

重点目標⑮	実現方策
県内の各機関・団体との連携による新たな文化活動の創造	当館が県内の文化ネットワークの拠点の一つとしてより効果的に機能することで、既存の連携の活性化や、新たなネットワークを構築する。それらを基盤に、博物館の文化資源を活用し、観光地・会津に立地する特性を活かして、新しい文化活動を創造する。

〈目標設定の背景〉

県内の文化施設間では、十分な連携体制の構築や事業の実施が行われているとは言えず、また観光団体等との新たな連携の構築も可能性として残されたままである。既存のネットワークの強化や、新たな枠組みの検討により、県内の文化的ネットワークの拠点たるべき当館の役割の実現が望まれる。連携の基盤の上にこそ、新たな文化活動の創造が可能であると考えられる。また、観光地・会津に立地する当館の特性を活かした取り組みも検討したい。

【成果】

当館が事務局をつとめる福島県博物館連絡協議会において、会員の研修など事業内容の充実に取り組み、連携を強化した。令和2年度には「会津の文化×地域振興プロジェクト」協議会（会津若松市、会津若松観光ビューロー、会津若松商工会議所、当館）を母体に、連携先に只見川電源流域振興協議会、福島県観光物産交流協会を加え「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」を策定、「三の丸からプロジェクト」をスタートし、博物館や地域の有する文化資源を観光資源として活用していく取り組みを始めた。三の丸からプロジェクトを基盤に、会津若松市内の歴史的建造物での連携展示やイベントの開催、博物館や史跡をユニークバニユーとして活用した事業など、これまでにない新しい文化活動を創出した。

【課題】

「会津の文化×地域振興プロジェクト」協議会はこれまで博物館の展示をベースとした観光事業との連携を中心として行

ってきたが、今後はこれまで連携できていなかった商工業、宿泊業、交通業との連携も視野に入れ、より地域振興に寄与できる体制を構築していく必要がある。三の丸からプロジェクトは共同申請者との協議のもと自走体制構築をめざす。

◆活動方針 8 震災遺産の保全・活用による東日本大震災の共有と継承

重点目標⑩	実現方策
震災遺産の展示公開と利活用	年間を通して観覧できるように、震災遺産を常設展示する。博物館資料「震災遺産類」の保存・活用に向けて、核となる職員を配置した新分野を確立する。

〈目標設定の背景〉

第2期中期目標においては、被災地域の博物館施設などと連携しながら震災遺産を2,000件以上収集し、大規模な新規資料収集を達成した。震災遺産は、既存の博物館資料（民俗資料類、歴史資料類、自然標本類）に分類されうる性格をもちつつも、「東日本大震災」に関連する震災遺産が多数収集されたため、他と区別するために博物館資料に「震災遺産類」が追加された。震災遺産の管理、収集、活用を主担当とする分野の設置には至らなかったが、核となる職員を採用した。

第3期中期目標では、震災経験の共有と継承を促進するために、分野確立、震災遺産の保全を継続しつつ活用に重点を置いて、常設展および企画展で公開する。

【成果】

令和3年度に災害分野をスタートさせた。企画展を実施し、調査研究の成果として図録を編集した。図録の内容は資料紹介だけでなく記録誌として利活用できるものとした。

震災遺産を活用しながらの防災講座は社会的なニーズと合致しゲストティーチャー事業等での対応に繋がっている。また、震災遺産をメタバース上で利用する共同研究も実施した。（国土交通省 国土地理院による公募「令和3年度3次元点群データ利活用に係る実証」）

運営協議会でたびたび指摘された館外での展示についても、博物館資料展示活用のアウトリーチ事業を整備し令和4年度には2会場で実施した。

【課題】

常設展示については、令和6年度の休館期間に行うこととして延期となった。また資料整理については、十分な作業ができていないとはいえず、収蔵場所も不確定のままとなっている。

◆活動方針 9 新たな博物館の役割・機能の創出

重点目標⑪	実現方策
地域社会の現状への貢献	これまでの博物館活動の蓄積、博物館の可能性を活かしながら、多様性に対応した博物館であることを意識した博物館活動により、博物館の新たな役割・機能を拡張する。博物館ならではの手法で、過疎化、高齢化等地域が抱える課題に向き合い、地域社会の未来に寄与する博物館活動を試行・実施する。

〈目標設定の背景〉

社会の多様性への対応が求められる中、博物館機能を社会に拓き、来館者に限らない様々な層の方が博物館を利活用できる仕組みづくりが必要である。

【成果】

ライフミュージアムネットワーク事業、ポリフォニックミュージアム事業を基盤に、ソーシャルインクルージョンをテーマとしたディスカッションやリサーチを重ね、障がいのある方によるミュージアムの利活用の課題を検証し、障がい者、高齢者などの博物館資料を活用したプログラムを実践した。地域の方、地域の文化施設、アーティストや研究者と連携し、地域が抱える社会的課題に向き合うプログラムや事業を、課題を検証しながら継続した。関係者がネットワークを形成し、それぞれの専門性を活かしながらノウハウを共有した。

令和4年の博物館法改正や第26回ICOM（国際博物館会議）大会によって、博物館は地域の社会課題に向き合い、包摂性をもった施設であることが定められたが、当館ではそれに先立ち活動してきた蓄積を活かし、近年新たに求められている博物館の役割に対応を続けている。

【課題】

実践を通してノウハウを得てきたが、地域が抱える社会課題に対しての知識や経験は不十分であり、今後も継続した学びの場を設けていく必要がある。地域社会への貢献は博物館単体ではなく、地域の多様な主体との協働が不可欠であり、協働体制の構築とともに、会津地域以外への横展開の連携協働もより強化していく必要がある。

◆活動方針10 管理運営

重点目標⑫	実現方策
施設の安全で快適な環境整備	入館者が安全で快適に利用できるように、施設・設備の点検結果に基づいて、危険箇所・不良箇所を改修するなど、適正な施設の維持管理に努める。バックヤードに耐震対策を施し、利用者及び職員の安全を確保する。

〈目標設定の背景〉

- ・現在の建物は、昭和61年3月の竣工から33年が経過し、施設・設備が老朽化しており、またバックヤードの耐震対策が十分に行われていないことから、入館者及び職員等の安全・安心を確保するため、目標を掲げて実現に向けた取り組みを行う。
- ・博物館のバックヤードでは、ボランティアの活動やバックヤードツアーへの参加等、通常一般に開放していない場所での活動が増えている現状がある。安全確保や安否確認の方法などの検討が必要である。

【成果】

地震災害時対応（緊急時の行動指針）を作成し、災害発生時に都度共有するようにしている。また館内の危険個所の把握も進め、事務室や研究室等の棚上等の整理を進め防災的な意識を持つようになった。図書室では書棚棚板に図書落下防止テープ等を貼り被害防止対応を始めた。ヘルメット等も収蔵庫扉付近等及び館内の常に目にできる場所に配置した。

【課題】

令和6年1月に発生した能登半島地震の場合のように、長期休暇中などと重なり災害対応が難しいケースも発生する。地震対応については対策が進められているが、優先順位等をつけながら集中的に課題解決に取り組む必要がある。また、令和6年2月に発生した総合展示室排煙窓の故障をできるだけ早く修復・復旧することが直面する課題であり、さらに館全体の総点検を実施し、長期的な展望に立った建物の修繕計画等を立てていく必要にも迫られている。

2 数値目標の成果と課題

区 分	令和元実績	令和2実績	令和3実績	令和4実績	令和5実績	合計(平均)
目標(人数)	90,000	90,000	90,000	105,500	116,500	492,000
年間利用者数(人数)	127,129	65,632	90,471	188,323	96,274	567,829 (113,565.8)

【成果】

目標値は、当初は年間9万人であったが、中間見直し（令和3年度）において、「福島県総合計画」等と整合させて変更した。実績値については、年度によって変動があり、とくに令和2年度以後はコロナ禍の影響を受けることが多かったが、5年間の合計は目標値の合計を上回ることになった。

また中間見直しにおいて利用者数の集計方法が変更され、「利用者」の内容を従来の展示の観覧者や行事の参加者のみに限定せず、近年の当館における活動の実情に合わせて、より幅広く捉えるようにし、当館の利用度を示す指標としてふさわしいものに近づけることになった。「三の丸からプロジェクト」や「博物館資料展示活用アウトリーチ事業」等の今期中に始まった事業による利用者についても一部反映させることができるようになった。

【課題】

利用者数の対象は広くなったものの、それぞれの事業において一定の利用者数を保ち続けることは、かわらず求められている。館全体の活動のバランスを保ちながら、個別の事業をそれぞれ充実させながら利用度を高めていくことが今後必要である。主要な柱のひとつである企画展については、かりに集客の人数だけを問題にするならば、実行委員会方式か否かによって結果の違いが大きく表れるケースが多いこと等をふまえて、各年あるいは数年を見通して利用者数がコンスタントに安定させられるような展示計画を組むことが課題である。

区 分	年間目標	令和元実績	令和2実績	令和3実績	令和4実績	令和5実績	合計(平均)
資料情報の公開(件数)	5,000	2,054	3,245	2,819	6,768	12,393	27,279 (5455.8)

【成果】

一次資料の登録データに基づき、広くWeb上での資料情報の公開を進めた。館として年間5,000件の登録件数目標は、前半では未達成が続いたものの4～5年目にかけて遅れを取り戻し、5年間でのWeb上での公開資料点数の総計27,279点（1年あたりの平均5,456件）と目標を達成した。

【課題】

資料情報公開の前提として、分野ごとの収蔵資料のデータベースI.B.Museum上での登録は必須であり、多忙化する学芸業務の中にあっても、資料の整理・登録をコンスタントに進めることの重要性は揺るがない。進捗管理を今後も行いつつ、広く県民の公的財産たる当館資料の情報公開を推進することが重要であり、不断の努力を要する。

区 分	年間目標	令和元実績	令和2実績	令和3実績	令和4実績	令和5実績	合計(平均)
研究成果の公表(件数)	30	32	15	34	28	30	139 (27.8)

【成果】

年間目標としての30件は、年度ごとの平均では目標に達しえなかった。これは特に令和2年度の実績の少なさによる。コロナ禍当初の緊急事態宣言等により、各学会で年次大会等の開催中止が相次ぎ、研究成果の発表機会が減少した結果と考えられる。なお、令和3年度以降はオンラインによる発表機会も増えたことから、令和2年度を除けば、平均として目標をほぼ達成している。

【課題】

資料情報の公開と同様に、多忙化する学芸業務の中にあっても地道な研究の蓄積は個々の学芸員の活動の基盤であり、研究成果の公表について不断の努力を要する。（※重点目標「④多様な連携による新たな研究活動」も参照）

区 分	年間目標	令和元実績	令和2実績	令和3実績	令和4実績	令和5実績	合計(平均)
行事の実施（回数）	100	130	77	111	137	108	563(112.6)

【成果】

行事の実施回数について、新型コロナウイルス感染症の流行が始まりイベントの実施が制限された令和2年を除いては、目標値の100回をクリアしている。各分野が多様なイベントを企画し実施したほか、三の丸からプロジェクトによる体験型事業など、今期中に新たにスタートしたイベントも来館者から認知され参加者を集めている。

【課題】

一方で、行事の実施希望日が夏から秋にかけての土日祝日に固まる傾向があり、行事数の増加とともに日程の調整が難しくなっている。年間の土日祝日数は年度にもよるが110～120日であり、一年を通じてほぼ全ての土日祝日に行事が入っている計算になる。学芸員の業務量の増加もあり、適切な行事実施回数を検討する必要も生じている。

区 分	年間目標	令和元実績	令和2実績	令和3実績	令和4実績	令和5実績	合計(平均)
ホームページ (アクセス件数)	430,000	391,990	304,261	368,789	485,372	359,790	1,910,202 (382,040.4)

【成果】

ホームページへのアクセス件数については、今期中に目標値を達成したのは令和2年度のみとなった。当該年度は夏の企画展として「新選組展2022」が開催されており入館者数も多かったことから、企画展への関心の高さがホームページのアクセス数につながったと考えられる。

【課題】

アクセス数の増減は実際の来館者数の増減と比例しており、館内事業利用者数から推定すると、利用者数目標値に対してホームページ目標値は370,000～380,000件程度が妥当と考えられる。今期の実績を踏まえて目標値を修正する必要があるが、ホームページ閲覧数は企画展の注目度や入館者数に左右されるため、単独で目標値を設定する必要があるのか検討すべきと考えられる。

区 分	年間目標	令和元実績	令和2実績	令和3実績	令和4実績	令和5実績	合計(平均)
館外事業利用者数 (実行委員会・協議会事業等)	500	547	59	231	150	237	1,224 (244.8)

【成果】

令和元年度はライフミュージアムネットワーク実行委員会の事業において、地域の社会課題等を考えるトークイベントを積極的に館外で行い、多くの方にご参加いただいた。令和2年、令和3年も継続してライフミュージアムネットワーク事業を行い、コロナ禍や事業内容の変化に伴い利用者数は減少したが、館外とのネットワークの構築により博物館機能の強化につながった。また、磐梯山ジオパーク事業、ふくしまサイエンスぷらっとフォーム事業においては、継続することによりコンスタントな利用者数を得ることができている。

【課題】

実行委員会事業は事業の性格により、参加者が多く見込めるものと見込めないものがある。また補助事業の場合、助成を得られない場合は事業自体を実施することができなくなるため、利用者数に大きく影響する。変動の可能性が高い事業に対して、5年間を通じた目標値を設定することに難しさがあり、目標の設定方法を再検討する必要があると感じる。

新型コロナウイルス感染拡大への対応

令和元年度末から全国的に拡大した新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月8日に5類感染症に移行したため、感染拡大防止に関する対策も、この時点で大きく変わることになった。当館では、4月27日の定例会議において、感染症対策緩和について協議し、移行後の5月9日から変更してコロナ以前に戻すことを原則としつつ、段階的に変更（再開等）する事項や、コロナ以後に変更したものを継続する事項などを検討し、以下のように対応した。

（1）おもな来館スペース

- 展示室等の人数制限は、原則として行わない。
- 展示室での解説会は、状況をみながら再開した。
- 展示室内のタッチパネル使用の使用停止は解除し、足踏み式ボタンの使用もやめた。ただし、スイッチの一部不具合などで完全に復旧できていないところもある。
- ビデオブースを再開しようとしたところ、休止期間中に機器類の一部が故障したため、休止中のままとっている。

- 相談コーナーの図書利用については、令和4年度中にコロナ以前に戻した。

（2）来館者対応

- 入館・入室の際のアルコール消毒は、消毒液の在庫に応じて継続する。
- 飲料用の冷水器・ゴミ箱は復旧させたが、冷水器は使用できなくなっていたため新しい機器に交換し、ゴミ箱も必要最小限の数に限定した。
- コロナ対応のホームページやSNSでの告知・掲示は取り下げた。
- 団体利用申請等の該当文言を削除した。
- バックヤード団体利用の時間制限・内容制限を解除した。
- 受付等のマイク・パーテーションの使用は、状況をみながら対応した。

（3）イベント

- イベントの時間制限は解除した。

（4）その他

- 職員の健康状況（検温）報告は廃止した。

令和5年度

月	日	曜	全国および福島県の動向	当館の対応
4	27 28 29	木 金 土		・会議（感染症対策緩和への対応） ・職員感染者1名 ・春の企画展「Go!Go! 5世紀」開幕
5	8	月	5類へ移行 日博協「5類感染症への移行に伴う博物館における感染予防の基本的方針」を公表 福島県対策本部廃止	

I 事業の概要

1. 資料収集事業

(1) 収集展示委員会

ア. 収集展示委員会委員

館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12人を委嘱している。

福島県立博物館収集展示委員会 委員名簿

氏 名	役 職 名	備 考
村川 友彦	福島県史学会会長、元福島県歴史資料館課長	委員長
岡田 清一	東北福祉大学名誉教授	副委員長
青野 友哉	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科准教授	委員
大石 雅之	岩手県立博物館研究協力員、東北大学総合学術博物館協力研究員	委員
奥村 弘	神戸大学理事・副学長	委員
加藤 幸治	武蔵野美術大学教養文化・学芸員課程教授	委員
北野 博司	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授	委員
角屋由美子	米沢市上杉博物館上杉文化研究室室長	委員
玉川 一郎	前福島県考古学会長	委員
原田 一敏	ふくやま美術館長	委員
三上 喜孝	国立歴史民俗博物館教授	委員
柳沢 秀行	公益財団法人大原美術館学芸統括	委員

イ. 会 議

開催日 令和5年7月26日(水)

議 題

- ① 今後3年間の展示計画について
- ② 令和6年度・令和7年度開催予定企画展等について
- ③ 購入予定資料について
- ④ 「博物館資料展示活用アウトリーチ事業」について
- ⑤ 「三の丸からプロジェクト」について
- ⑥ 震災遺産の常設展示化について

(2) 受贈・受託

ア. 歴史資料

(ア) 受 贈

軍事郵便等	1件	個人
個人家文書一括	1件	個人
掛け軸ほか	3件	個人
掛け軸（昭和天皇真影・勅語）	1件	個人
福島県郷土文化かるた	1件	個人

従軍関係資料一括	1件	個人
ふくしまDC記念乗車券ほか	1件	個人
御餞別受納帳并入営者 仙台市	1件	個人
図書資料	1件	個人
昭和22年度所得額申告書（控）ほか	7件	個人
個人家文書一括	1件	個人
個人家文書一括	1件	個人
従軍関係資料一括	1件	個人
槍（無銘）ほか	9件	個人
古文書ほか	2件	個人
個人家資料一括	1件	個人
河東町立河東第一小学校創立百二十周年記念誌ほか	4件	個人
少年消防の友1冊		個人
若松連隊記念碑建設基金領収証の送付についてほか	7件	
従軍関係資料一括	1件	個人
従軍関係資料一括	1件	個人
葉たばこ生産関係資料一括	1件	一般社団法人葉たばこ財団
陸軍軍人用コートほか	2件	個人
絵はがき帳	1件	個人
家庭用酒類購入切符ほか	2件	個人

(イ) 受 託

絵葉書（満州軍総司令部凱旋記念）

	1件	個人
会津藩家訓写真原版	1件	個人
山川健次郎座像ほか	3件	個人
算額	1件	個人 田村市船引町門鹿区
飯豊山火除札ほか	9件	個人

イ. 美術資料

(ア) 受 贈

朱塗稲架懸蒔絵盃（岩越線全通會津俵米展覧會紀年）ほか	3件	個人
大堀半仙筆「四時平晏図」ほか	6件	個人
秋草蒔絵盆ほか	20件	個人
図書資料	1件	個人
刀銘（表）陸奥大掾三善長道ほか	2件	個人
小檜山英澤筆「山水図」ほか	24件	個人
小川宇錢筆「飲中八仙図」	1件	個人
山内香雪「二行書」ほか	26件	個人
森脇宕岳「青緑山水図（夏雲出谷）」ほか	19件	個人

図書資料 1件 個人
染型紙一式 1件 個人
佐竹永海他筆「書画寄書」ほか 5件 個人
漆器ほか 6件 個人
年中行事図屏風6曲1隻 1件 個人
河野広中書「忠孝」(めくり)

1件 浪江町教育委員会

内裏雛 1件 個人
雛人形用御殿 8件 個人
石川桂堂筆「芦葉達磨図」ほか

19件 個人

脇差(表) 銘 奥州会津政長 1件 個人
湯田玉水筆「山水図」ほか 5件 個人
角田弘司作「寒朝」 1件 個人

(イ) 受 託

木造吉祥天立像ほか 3件 個人
山水図屏風(伝 雪村筆) 6曲1隻 1件 個人

永峰晴水「牧童図」ほか 4件 個人
刀銘(表) 義弘 1件 個人
金田実写真資料一式 1件 個人

ウ. 民俗資料

(ア) 受 贈

行李ほか 2件 個人
子ども用蚊帳 1件 個人
豆炭こたつ ほか 6件 個人
芋洗い棒ほか 3件 個人
子ども用ゲンペイ 1件 個人
御茶弁当入 1件 個人
釣り竿 1件 個人
会津唐人凧(べろくん出し) ほか

3件 個人

三宝嶋台ほか 2件 個人
稻荷神社掛軸ほか 3件 個人

皮箕ほか 10件 個人
鋳物師職免許状 1件 個人
図書資料ほか 10件 個人
綿入れ(男物) ほか 12件 個人
電気冷蔵庫ほか 46件 個人
小女凧ほか 2件 個人
会津唐人凧(べろくん出し) ほか

4件 個人

(イ) 受 託

映写機・フィルムほか 38件 個人
繭標本ほか 2件 個人
9.5mm動画カメラ 1件 個人

エ. 考古資料

(ア) 受 贈

須恵器 1件 個人

鬼瓦 1件 個人

(イ) 受 託

個人収集考古資料・古文書 41件 個人

オ. 自然資料

(ア) 受 贈

いわき市産白亜紀化石 1件 個人

(イ) 受 託

宮古層群産アンモナイト 1件 個人

カ. 災害資料

(ア) 受 贈

富岡は負けん! (横断幕) 1件 個人

(3) 購 入

ア. 美術資料

佐竹永海作「大黒天図」 1件

イ. 自然資料

恐竜類レプリカ 7件

ウ. 図書資料

(ア) 一般図書

自然分野1冊、民俗分野4冊、保存分野22冊、共通2冊

(イ) 定期刊行物

定期刊行物リスト

(令和6年3月31日現在)

	定期購読雑誌	分野
1	考古学研究	考古
2	宗教研究	民俗
3	民具研究	民俗
4	ナショナルジオグラフィック	共通
5	ヒストリア	歴史
6	考古学雑誌	考古
7	日本民俗学	民俗
8	信濃	共通
9	史林	共通
10	史学雑誌	歴史
11	歴史評論	歴史
12	地方史研究	歴史
13	日本史研究	歴史
14	日本歴史	歴史
15	歴史学研究	歴史
16	美術手帳	美術
17	芸術新潮	美術
18	国華	美術
19	古代文化	考古
20	文化財発掘出土情報	考古
21	考古学ジャーナル	考古
22	季刊考古学	考古
23	日経サイエンス	自然
24	科学	自然
25	化学	保存科学
26	海洋	自然
27	地球	自然

	定期購読雑誌	分野
28	月刊文化財	共通
29	たくさんのふしぎ	共通
30	ニュートン	共通

(4) 制作

ア. 民俗資料

「田島祇園祭の本膳」食品サンプルほか

5件

2. 保存管理事業

(1) 資料の収蔵

ア. 博物館資料

資料受入れ時点における収蔵資料件数の、
現在までの累計を示す。件数は概数であり、
「一括」で受け入れた資料も1件と数える。

収蔵資料数

(令和6年3月31日現在)

分野	件数	備考
考古	21,073	土器・石器・金属器ほか
民俗	14,275	生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか
歴史	22,718	書籍・文書資料ほか
美術	7,579	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自然	44,565	化石・岩石・鉱物ほか
震災遺産	637	被災遺物、文書資料、写真ほか
合計	110,847	

令和5年度収蔵指定文化財一覧

(令和6年3月31日現在)

連番	指定者	指定種別	資料種類	指定番号	資料名	点数	単位	備考
1	国	重要文化財	絵画	1903	絹本着色阿弥陀二十五菩薩来迎図	1	幅	館蔵
2	国	重要文化財	絵画	6	紙本着色蒲生氏郷像	1	幅	寄託
3	国	重要文化財	彫刻		木造吉祥天立像	1	軀	寄託
4	国	重要文化財	工芸品	2065	銅鉢	2	口	指定4口の中の2口寄託
5	国	重要文化財	工芸品	2187	椿彫木彩漆笈	1	背	館蔵
6	国	重要文化財	工芸品	981	白銅三鈷杵	1	点	寄託
7	国	重要文化財	工芸品	2055	刺繍阿弥陀名号掛幅	1	幅	寄託
8	国	重要文化財	考古資料	352	会津大塚山古墳出土品	一括		寄託
9	国	重要文化財	考古資料	652	荒屋敷遺跡出土品	一括		寄託
10	福島県	重要文化財	絵画	7	絹本着色仏涅槃図・如意輪観音像・愛染明王像	3	幅	寄託
11	福島県	重要文化財	絵画	10	絹本着色松平榮翁像	1	幅	館蔵
12	福島県	重要文化財	絵画	25	絹本着色達磨図	1	幅	寄託
13	福島県	重要文化財	絵画	26	絹本墨画著色寒山図・絹本墨画著色拾得図	2	幅	寄託
14	福島県	重要文化財	絵画	9	絹本着色十六善神像	1	幅	寄託
15	福島県	重要文化財	絵画	3	紙本着色千葉妙見寺縁起	2	巻	寄託
16	福島県	重要文化財	絵画	13	絹本着色名体不離阿弥陀画像	1	幅	寄託
17	福島県	重要文化財	絵画	27	絹本着色熊野曼陀羅図	1	幅	寄託
18	福島県	重要文化財	絵画	28	絹本着色普賢菩薩像	1	幅	寄託
19	福島県	重要文化財	絵画	2	紙本着色両界種子曼荼羅	2	幅	寄託
20	福島県	重要文化財	絵画	6	絹本着色土津神社霊神画像	1	幅	指定9幅中の1幅寄託
21	福島県	重要文化財	絵画		紙本墨画淡彩 瀟湘八景図帖 雪村周継筆	1	帖	館蔵
22	福島県	重要文化財	彫刻	4	木造大日如来坐像	1	軀	寄託
23	福島県	重要文化財	彫刻	29	木造地藏菩薩坐像	1	軀	寄託
24	福島県	重要文化財	彫刻	81	銅造聖観音菩薩立像(羽黒山湯上神社)	1	軀	寄託
25	福島県	重要文化財	彫刻	23	銅造聖観音菩薩立像(福聚寺)	1	軀	寄託
26	福島県	重要文化財	工芸品	58	銅鉢	1	口	寄託
27	福島県	重要文化財	工芸品	55	青磁牡丹唐草文大瓶	1	口	寄託
28	福島県	重要文化財	工芸品	18	鉄製釣燈籠	1	箇	寄託
29	福島県	重要文化財	工芸品	40	十一面観音版木	1	枚	寄託
30	福島県	重要文化財	工芸品	42	刺繍阿弥陀三尊来迎掛幅	1	幅	寄託
31	福島県	重要文化財	工芸品		法然上人像板木(裏面善導大師像板木)附 舟板六字名号板木ほか9枚	1	枚	寄託
32	福島県	重要文化財	工芸品	53	大名家婚礼調度等	47	件	寄託
33	福島県	重要文化財	書跡	8	紙本墨書猪苗代兼載書八代集秀逸	1	巻	寄託

連番	指定者	指定種別	資料種類	指定番号	資 料 名	点数	単位	備 考
34	福島県	重要文化財	書跡	10	相馬家系図	1	巻	寄託
35	福島県	重要文化財	典籍	3	家世実紀	277	冊	館蔵
36	福島県	重要文化財	古文書	10	築田家文書	一括		寄託
37	福島県	重要文化財	考古資料	35	流廃寺跡出土金銀象嵌鉄剣	1	口	寄託
38	福島県	重要文化財	考古資料	1	福島信夫山出土品	一括		館蔵
39	福島県	重要文化財	考古資料	14	金銅製双魚袋金具	2	枚	館蔵
40	福島県	重要文化財	考古資料	21	原山1号墳出土埴輪	一括		館蔵
41	福島県	重要文化財	考古資料	28	常世原田遺跡出土品	一括		館蔵
42	福島県	重要文化財	考古資料	2	田村山古墳出土品	一括		寄託
43	福島県	重要文化財	考古資料	46	相馬・双葉地方の弥生時代石器	一括		館蔵
44	福島県	重要文化財	考古資料	23	松野千光寺経塚出土品	一括		寄託
45	福島県	重要文化財	考古資料	20	五職神経塚出土銅製経筒 附 石製外容器 3口	3	口	寄託
46	福島県	重要文化財	考古資料	33	森北1号墳出土品	一括		寄託
47	福島県	重要文化財	考古資料	48	四穂田古墳出土品	一括		寄託
48	福島県	重要文化財	歴史資料	4	絹本著色恵日寺絵図	1	幅	寄託
49	福島県	重要文化財	歴史資料	5	陸奥国会津城絵図	1	鋪	館蔵
50	福島県	重要文化財	歴史資料	15	絹本著色飯豊山山道絵図	1	巻	寄託
51	福島県	有形民俗文化財		16	上行合人形	368	点	寄託
52	福島県	有形民俗文化財		3	(宇内薬師堂)古絵馬	3	面	指定6面中の3面寄託
53	福島県	有形民俗文化財		31	旧修験高橋家所蔵修験資料	241	点	寄託
54	福島県	有形民俗文化財		38	紙本著色野馬追図	2	鋪	寄託
55	福島県	天然記念物	化石	63	パレオパラドキシア化石梁川標本	1	体	館蔵

イ. 図書および映像資料

(ア) 収蔵図書数 (令和6年3月31日現在)

考古分野：30,069冊 民俗分野：5,171冊
 歴史分野：11,197冊 美術分野：4,985冊
 自然分野：17,987冊 保存分野：1,967冊
 震災遺産：207冊 その他：65,668冊
 合計：137,251冊

(イ) 図書利用環境の整備

第3期中期目標の「図書利用環境の整備」においては、博物館図書室における蔵書数の増加に対応して排架の体制を抜本的に更新することと、図書データベースを外部公開すると共に一般来館者に対して図書閲覧の便宜を図ることを目標とした。

令和5年度は、図書室蔵書の一般来館者への供用について、これに必要な図書利用要項を設け「発掘調査報告書」、「逐次刊行物／分野分類」、「地質図」の3部門に限り事前申込による閲覧を開始した。

(ウ) 収蔵映像資料数 (令和6年3月31日現在)

収蔵映像資料総数：1,920点

(2) 登録・整理

ア. 資料管理システムの運用

平成25年度中に、それまでのサーバークライアント方式による資料管理システムに換えて、新たにASP方式の博物館資料管理専用システムである早稲田システム開発株式会社製 I.B. Museum SaaS を導入した。県教育委員会のFACE を介してインターネットに接続した端末パソコンよりこの資料管理システムを使用中である。

イ. 資料の登録・資料情報の外部公開

整理が終了した資料のデータを資料管理システムに入力し、資料の登録を行った。表中の数値は登録済み資料の件数を示す。また、システムの資料情報公開機能を使用してインターネット上で外部に公開した情報の件数も併せて示す。

登録資料数・資料情報の外部公開数

(令和6年3月31日現在)

資料類別	登録資料 (令和5年度)	登録資料 (累計)	資料情報の外部公開 (令和5年度)	資料情報の外部公開 (累計)
考古資料類	238	12,829	82	4,526
民俗資料類	8,077	24,730	7,249	14,309
歴史資料類	0	47,036	2,529	20,801
美術工芸品類	397	7,586	0	194
自然標本類	3,051	29,877	2,533	19,146
合計	11,763	122,058	12,393	58,976

ウ. 資料整理計画

各分野の主な資料整理実績は以下のとおり。

(ア) 考古分野

中村コレクション整理・撮影（198件）、穴澤氏旧蔵図書整理、若松城三の丸試掘調査時撮影写真デジタルデータ化、収蔵庫整理など。

(イ) 民俗分野

「小滝清次郎民俗写真」の整理（アルバム全46冊の再附番、うち35mmネガアルバム（全23冊、7,249コマ）のデジタルデータ化）、館蔵資料の登録およびデータ公開（7249件）、第一収蔵庫内収蔵棚の清掃と整理（渡部つとむコレクション寄託資料の返還、および渡部寿子家信仰用具資料の配架）など。

(ウ) 歴史分野

笠間家文書の封筒書・写真撮影（86件）、齋藤（俊）家文書の封筒書（71件）、坂内（利）家文書の封筒書（442件）、年野家文書の封筒書（454件）・写真撮影（504件）、石井（健）家文書の撮影（504件）、館蔵資料データ公開（2530件）、収蔵庫整理など。

(エ) 美術分野

県立会津工業高校旧蔵型紙仕分け・箱詰め（約3000件）・整理およびデータ入力（約2000件）、作品・資料撮影、寄贈・購入資料の登録（397件）、収蔵庫等整理。

(オ) 自然分野

寄託資料整理（320件）、写真撮影（10件）、登録（516件）、公開（2200件）など。

(カ) 災害分野

新型コロナ関連資料・整理・リスト化・写真撮影（250件）、未整理資料リスト化・袋書き（87件）、写真撮影（97件）、収蔵庫整理など。

エ. ボランティア

博物館資料の整理のため、資料整理ボランティアを受け入れ、学芸員との協働によ

り資料整理作業を進めている。令和5年度は、のべ22名に資料整理ボランティアに登録いただいた。活動の詳細について、資料整理事業別に以下に記す。

(ア) 自然資料整理

竹谷陽二郎氏に資料整理ボランティアに登録いただき、主に相馬中村層群資料の整理をしていただいた。活動日数は延べ42日であった。

(イ) 古文書整理

13名に資料整理ボランティアに登録いただいた。秋山圭右氏、大場美弥子氏、大堀義子氏、栗原真帆氏、小関栄助氏、小柴正氏、小檜山裕二氏、鈴木清二氏、星弘明氏、森川敬寿氏、矢花洋恵氏のご協力により、歴史資料（坂内利子家文書）の整理作業（表題・年代・法量などのデータ採取）を行った。5月から令和6年3月まで、延べ11日活動した。

(ウ) 民俗資料整理

2名に資料整理ボランティアに登録いただいた。長島雄一氏には小滝清次郎民俗写真の整理作業（撮影地の同定や「奥会津ミュージアム」との連動）について、専門的見地からご助力をいただいた。

(エ) 考古資料整理

藤原妃敏氏に資料整理ボランティアに登録いただき、中村コレクション整理作業を行っていただいた。活動日数は延べ18日であった。

(オ) 美術資料整理

小関栄助氏に資料整理ボランティアに登録いただき、会津工業高校旧蔵型紙整理作業を行っていただいた。活動日数は延べ62日であった。

(3) 貸 出
ア. 博物館資料
貸出資料一覧

資 料 名	貸 出 先	貸 出 期 間	展 覧 会 名
郡山市熱海町出土ナウマンゾウ臼歯(レプリカ) 1点	大安場史跡公園	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	常設展
跡見塚古墳出土土玉類 318点	須賀川市立博物館	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	常設展
桜井遺跡出土土器ならびに石器 21点	南相馬市博物館	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	常設展
十二天図(慧日寺旧蔵)旧軸木 正徳6年銘 1点 十二天図(慧日寺旧蔵)旧軸木 文政9年銘 1点	磐梯町磐梯山慧日寺資料館	令和5年4月5日～ 12月1日	常設展
源氏物語図屏風 六曲一隻	新潟県立歴史博物館	令和5年6月～9月	企画展「NST開局55周年上杉景勝没後400年 上杉景勝その生涯」
張り子 32点 だるま木型 2点	とみおかアーカイブ・ミュージアム	令和5年6月28日～ 9月30日	企画展「ふくしまの張り子」
正直9号墳出土石製模造品 2点	大安場史跡公園	令和5年7月3日～ 9月15日	企画展「福島県における古墳出土石製祭祀遺物」
原山1号墳出土踊る埴輪1点、琴を弾く埴輪1点	東北歴史博物館	令和5年7月9日～ 10月8日	特別展「古墳をつくる人びとーはにわ工人、ハジベ君！ー」
谷文晁筆「八仙人図」三幅	栃木県立美術館	令和5年10月4日～ 12月26日	企画展「文晁と北斎」
黒釉鉢 1点 黒釉湯たんぽ(当館寄託) 1点 黒釉壺(当館寄託) 1点	いわき市立美術館	令和5年10月17日～ 12月22日	企画展「民藝 MINGEIー美は暮らしのなかにある」
菊漆絵堤重 1点 藤蒔絵堤重 1基 坂内青嵐筆「花見遊楽図」 1面	郡山市立美術館	令和5年10月27日～ 令和6年1月30日	企画展「酒と醸す美術展」
阿弥陀二十五菩薩来迎図(当館寄託) 1幅	府中市美術館	令和6年2月23日～ 5月28日	企画展「ほとけの国の美術」
刺繍阿弥陀名号 1幅	東京国立博物館 京都国立博物館	令和6年3月22日～ 12月末日	特別展「法然と極楽浄土」

- イ. 写真資料
総数：82件208点
考古：16件 48点 民俗：7件56点
歴史：34件 62点 美術：25件42点

(4) 保 存
収蔵資料を適切に保存するため、収蔵庫および展示室など主要箇所の保存環境の定期調査、新規収蔵資料の生物被害防除を実施している。

(ア) 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫(一時、第1～第6収蔵庫)、エントランスホール、体験学習室、講堂、事務室、会議室、研究室、図書室、空調機械室など主要なスペースの保存環境を6月と10月の年2回調査した。調査項目は、昆虫、空中浮遊菌、付着菌、空中浮遊塵埃数、空気環境、温度、湿度、照度、紫外線強度である。

また、令和6年2月19日に発生した総合

展示室内排煙窓の不具合による展示室や展示資料等への影響を調査するため「緊急保存環境調査」を3月6日に総合展示室内および展示ロビーにて実施した。調査項目は空中浮遊菌、付着菌、空中浮遊塵埃数、温度、湿度である。

(イ) 生物被害防除

7月7日から7月11日にかけてトラック3台を使用し、新収蔵資料などを対象にエキヒュームSを用いた文化財燻蒸を実施した。

3. 展示事業

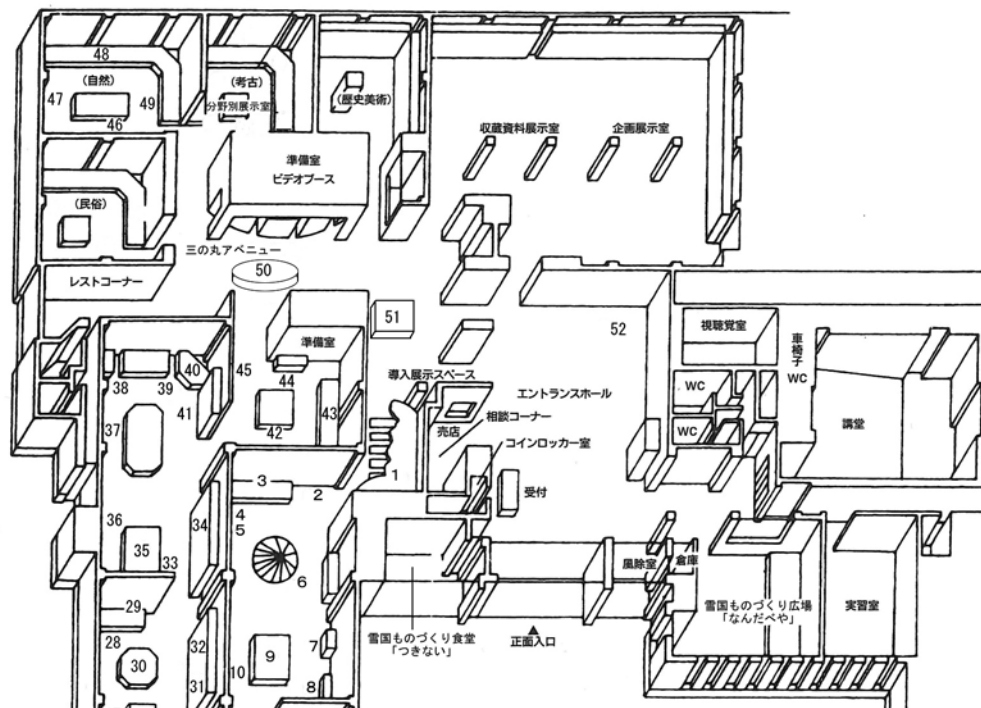
(1) 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々の暮らしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間

の6つのテーマで構成される。分野別の展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。常設展示室や展示ロビーにおいてテーマ展・ポイント展を実施している。

ア. 展示構成

福島県立博物館の展示構成



【総合展示室】

1 清戸迫横穴墓壁画

●原始

2 福島最古の人間

3 氷河時代の生活

4 最終氷期後半の環境

5 環境の変化と生業

6 縄文のムラ

7 縄文人

8 信仰と墓地

9 稲作の開始

10 再葬の墓

●古代

11 古墳時代のはじまり

12 原山1号墳の主

13 群集する古墳

14 ムラの暮らし

15 陸奥国の成立

16 公民の生活

17 在地の仏教

●中世

18 阿津賀志山の合戦

19 神仏習合の世界

20 好嶋庄の村むら

21 南党と北党

22 国人一揆

23 戦国の群雄

●近世

24 奥羽仕置と諸藩の成立

25 学問と文化

26 会津農書の世界

27 町のにぎわい

28 山国の神と人

29 産業の発達

30 海のなりわい

31 庶民の信仰

32 ゆれうごく封建社会

●近・現代

33 戊辰戦争

34 自由民権運動

35 福島県の成立

36 安積開拓事業

37 庶民の生活

38 日本の花形産業

39 15年戦争下の生活

40 戦後の生活

41 変わりゆく社会

●自然と人間

42 福島の盆地と平野

43 福島の鉱山

44 福島の火山と湖

45 福島の河川

【分野別展示室】

◆民俗（雪国・会津の暮らしとものづくり）

◆自然（県土の形成）

46 基盤形成の時代

47 海の時代

48 山脈形成の時代

49 段丘形成の時代

◆考古（よみがえる会津大塚山古墳

/ 三島町荒屋敷遺跡を考える）

◆歴史・美術（福島の美術）

■ロビー・エントランスホール

50 あいづスタジアム

51 白水阿弥陀堂模型

52 二本松提灯祭竹田町太鼓台

イ. 常設展示室内の改善

「三の丸からプロジェクト」におけるインバウンド対応として、分野別展示室の小テーマ解説・展示資料解説(キャプション)の多言語化を進めている。展示ロビーを「会津のSAMURAI文化」エリア周遊と「若松城下の商工文化」エリア周遊のゲートウェイ機能を持たせた「三の丸アベニュー」として整備した。三の丸アベニューには、あいづスタジアム、分野別展示室(民俗)入口にグラフィックマップ「いま・むかし奥会津めぐり」「町木戸模型」「鶴ヶ城・城下町年表」を設置した。

ウ. テーマ展

常設展示室内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として全7回開催した。

- ①「よみがえる会津大塚山古墳」
(分野別：考古展示室)
4月1日(土)～9月3日(日)
10月31日(火)～令和6年3月31日(日)
- ②「花をたずねて―会津ゆかりの漆芸家たち―」
(分野別：歴史・美術展示室)
4月15日(土)～6月11日(日)
- ③「会津唐人風の世界」
(展示ロビー)
4月25日(火)～6月25日(日)
- ④「けんぱくの宝―会津の絵画 寄贈作品を中心に―」
(分野別：歴史・美術展示室)
6月17日(土)～8月27日(日)
- ⑤「祈りのふくしま7―会津の神様 小平瀧天神と土津神君―」
(分野別：歴史・美術展示室)
9月2日(土)～11月26日(日)
- ⑥「三島町荒屋敷遺跡を考える」
(分野別：考古展示室)
9月9日(土)～10月22日(日)
- ⑦「地域に生きた民間宗教者」
(展示ロビー)
10月31日(火)～12月17日(日)
- ⑧「四季のうつろい」
(分野別：歴史・美術展示室)
12月2日(土)～令和6年1月28日(日)
- ⑨「手仕事が生む花―ふくしまの彼岸花―」
(展示ロビー)
令和6年1月30日(火)～3月31日(日)
- ⑩「美しき刃たち」
(分野別：歴史・美術展示室)
令和6年2月10日(土)～4月4日(木)

エ. ポイント展

常設展示室内及びエントランスホールにおいて、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として全16回開催した。

- ①「これは何の化石？」
(部門：自然展示室前)
前年度～5月10日(水)
- ②「伝える―新型コロナウイルス感染症関連資料―」
(展示ロビー)
4月22日(土)～5月21日(日)
- ③「猪苗代城絵図」
(総合：近世展示室)
6月21日(水)～8月21日(月)
- ④「ニワトリの中の恐竜」
(部門：自然展示室前)
7月7日(金)～9月6日(水)
- ⑤「慧日寺の宝物」
(総合：中世展示室)
7月22日(土)～9月24日(日)
- ⑥「軍事郵便がつないだ絆」
(総合：近現代展示室)
8月5日(土)～10月13日(金)
- ⑦「都々古別神社の宝物」
(総合：中世展示室)
7月22日(土)～9月24日(日)
- ⑧「みんなの震災遺産」
(展示ロビー)
8月10日(木)～10月15日(日)
- ⑨「山川艶―会津藩家老・山川家を支えた女性―」
(総合：近現代展示室)
9月16日(土)～11月17日(金)
- ⑩「写真でみる関東大震災」
(総合：近現代展示室)
8月26日(土)～12月17日(日)
- ⑪「古代官道をゆく」
(総合：古代展示室)
9月30日(土)～11月26日(日)
- ⑫「若松が大変！城下町と災害」
(総合：近世展示室)
9月30日(土)～11月26日(日)
- ⑬「民具が伝える災害の記憶」
(総合：近現代展示室)
10月7日(土)～12月17日(日)
- ⑭「山頂の前期古墳―会津若松市堂ヶ作山古墳―」
(総合：古代展示室)
10月7日(土)～12月17日(日)
- ⑮「発見！日本初の種類のオウムガイ類化石」

(エントランスホール)

令和6年2月1日(木)～3月1日(金)

⑩「いいたてミュージアム」

(エントランスホール)

令和6年2月3日(土)～3月31日(日)

⑪「震災遺産を考える」

(企画展示室)

令和6年3月2日(土)～3月17日(日)

(2) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然・災害の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、期間を限定して開催している。令和5年度は、3本の企画展示と1本の特集展示を開催した。

ア. 春の企画展「Go!Go! 5世紀 ー東北地方中・南部の古墳文化ー」

(ア) 会 期

令和5年4月29日(土)～7月2日(日)

開館日数：55日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 主 催 福島県立博物館

(エ) 入館者数 6,035人

(オ) 担当学芸員 考古分野 平澤慎

(カ) 趣 旨

5世紀とは古墳時代中期とも呼ばれており、世界遺産「大山古墳（仁徳天皇陵）」をはじめ古墳の大きさが最大になるほか、東アジアの国々との交流が本格化してくるなど激動の時代であった。この時期の東北に目を向ければ、当館所蔵資料の灰塚山古墳出土品や、当館寄託資料の中島村四穂田古墳出土短甲など、福島県内でも5世紀に関する資料が多く出土しており、東北地方という広い範囲で見ると、東北地方南部に集中している。本企画展は、激動の5世紀という時代のなかで東北に生きた人々に迫る内容とした。

埴輪や鉄製品といった古墳から出土した資料のほか、集落遺跡から出土した土器や農具など当時の農耕や手工業に関わる資料も展示して、5世紀という時期について想像できる企画展を目指した。

展示資料 674点（本宮市天王壇古墳出土形象埴輪、秋田県横手市一本杉遺跡出土土器ほか）

(キ) 展示構成

1. 古墳時代中期のはじまり
2. 王者のすがたー古墳文化の拡大ー

3. 開拓するームラをつくる、ひろげるー

4. くらしを支えた道具たちーつくる・つかう・いのるー

(ク) 関連事業

・展示解説会

日時：4月29日(土・祝)・5月13日(土)・5月20日(土)・6月18日(日)・7月2日(日)
各日とも13:30～14:30

講師：平澤慎(当館学芸員)

場所：企画展示室

・「古墳時代のヨロイを着てみよう」

日時：5月5日(金・祝)13:30～14:30

講師：平澤慎・山本俊（当館学芸員）

会場：雪国ものづくり広場 なんだべや

・記念講演会「埴輪からわかる東北の5世紀」

日時：5月14日(日)13:30～15:00

講師：藤澤敦(東北大学総合学術博物館教授)

会場：講堂

・「まじないの道具 石製模造品をつくろう」

日時：6月3日(土)13:30～15:00

講師：平澤慎（当館学芸員）

会場：実習室

(ケ) 成果と課題

展示した人物や動物の埴輪が印象に残ったという記述が最も多く、ほかにも人骨から復元された豪族のイメージ映像についての記述もみられた。

改善点として、専門的な用語や遺跡の位置が分からない、イメージしにくいといった内容が多くあり、来館者の理解を助ける工夫が至らなかった。

展示埴輪をモデルにしたポップなデザインを用いたポスターリーフをデザイナーに制作してもらい、県内各施設にポスターの掲示、リーフレットの配架を行った。目を引くデザインだったことから各所で見かけたとのお声を多く頂けたほか、これまで博物館のポスターに注目したことがなかったが、このポスターは気になったので博物館へ来たという家族連れのお声も頂いた。一方で、ポスターリーフの注目度の高さが入館に結びついたかは疑問が残る結果となった。ポスターリーフ以外の広報戦略に余地があると思われる。



「Go!Go!5世紀」展リーフレット



展示解説会

イ. 夏の企画展「仕事の仕事をしている仕事—福島のものづくりと民藝—」

(ア) 会 期

令和5年7月15日(土)～9月24日(日)

開館日数：62日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 主 催 福島県立博物館

(エ) 入館者数 4,565人

(オ) 担当学芸員

美術分野 塚本麻衣子・原恵理子／

民俗分野 山口 拓

(カ) 趣 旨

本県には手仕事によるものづくりの文化が根付いており、生活の中で受け継がれてきた。こうした暮らしの中の手仕事の魅力を紹介することを通じて、地域の文化を再発見すること、持続可能な社会のあり方を発信することを目指した。

こうした手仕事を評価する動きの一つとして、大正時代に興った柳宗悦を中心とした民藝運動が挙げられる。実際に柳をはじめ民藝運動の同人は福島県内を訪れており、手仕事に対する評価を行ってきた。本展では、民藝運動によって「発見」された手仕事の数々を取り上げ、どのような評価がされたのかを概観した。一方、特定の産地や職人によるものではないがゆえに取り上げられることのなかった、市井の人々が暮らしの必要性の中で作り出した手仕事を展示することで、作り手にとっての「うつくしき」や「よろこび」の価値を考えた。

これによって、手仕事の価値を考え、現代の生活のあり方について考えるきっかけとなる展覧会を目指した。

(キ) 展示構成

1. 仕事の仕事をしている仕事
2. 民藝と民具
3. 民藝とは何か
4. 手仕事のうつくしき

展示資料 54件(「黒釉泥刷毛目茶碗」河井寛次郎 日本民藝館所蔵、「青釉黒白流描大鉢」濱田庄司 益子陶芸美術館所蔵他)

(ク) 関連事業

・展示解説会

日時：7月15日(土)、8月12日(土)、8月27日(日)、9月23日(土)

各日とも13:30～14:00

講師：塚本麻衣子・山口拓(当館学芸員)

会場：企画展示室

・講演会「作るのではなく、生まれる」

日時：8月19日(土)13:30～15:00

講師：鞍田崇(哲学者／明治大学准教授)

会場：雪国ものづくり広場「なんだべや」

・ワークショップ「ほうきをつくろう」

日時：9月9日(土)13:30～16:00、

9月10日(日)9:30～12:00

講師：宮原克人(筑波大学准教授)

会場：雪国ものづくり広場「なんだべや」

・からむし織体験生30周年記念事業

(令和5年度福島県地域創生総合支援事業)

「からむしと仕事道具、作品展」

会期：8月26日(土)～9月10日(日)

会場：雪国ものづくり広場「なんだべや」

主催：昭和村

共催：福島県立博物館

(ケ) 成果と課題

従来の民藝に関わる展示では扱われてこ

なかった資料を含みこんだこと、民藝運動の紹介にとどまらず、民具や博物館活動そのものとの接点を探った内容は、ミュージアム関係者や研究者、ものづくりに携わる方々から高い評価をいただいた。また、近年は民藝や地域に根差したものづくりへ関心を寄せる方々が増えつつあることもあり、展示の内容を深く理解した上で観覧いただいている来場者が多くみられた。アンケートや解説会でのやり取りでも、こうした方々に高い満足度を提供できたことは感じられた。

一方で、展示資料やテーマの一般的な認知度がやや低く、関心の高い層と低い層の二極化の傾向がみられた。中間層へのアピールが不足したために、全体として入場者数が伸び悩んだものと考えている。今後はこうしたテーマの魅力を様々な形で、かつ継続的に発信していくことで、本県の手仕事文化を伝えていく必要があると考える。



講演会「作るのではなく、生まれる」



展示室風景

ウ. 秋の企画展「伝える―災害の記憶―」

(ア) 会 期

令和5年10月7日(土)～12月17日(日)

開館日数：61日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 主 催：福島県立博物館

後 援：NHK福島放送局

企画協力：NHK財団

協 力：あいおいニッセイ同和損保株式会社、会津若松地方広域市町村圏整備組合、日本赤十字社福島県支部、国土交通省北陸地方整備局阿賀川河川事務所、福島県危機管理課

(エ) 入館者数 2,878人

(オ) 担当学芸員

災害分野：筑波匡介・鈴木弥生

(カ) 趣 旨

関東大震災から100年の節目の年に、大正後期から戦前期にかけ同和火災海上保険(現あいおいニッセイ同和損保株式会社)の廣瀬鍼太郎氏が収集したあいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料の紹介。対象として、18世紀から20世紀初頭に全国で発生した火災・台風・地震・疫病などによる各災害をほぼ網羅したもの。これらの記録は、現代の災害と地域的に一致するものもあり、災害の生々しい状況を伝えるとともに、災害を擬人化して笑い飛ばそうとする態度が見られることもこのコレクションの特徴のひとつ。過去の人々がどのように災害と向き合い、災害を伝えようとしていたのか、災害が頻発する現代においても、防災・減災に繋がるヒントを見つける機会とした。ふくしまの経験として「震災遺産」の紹介も行う。

(キ) 展示構成

1. 京都・大坂の災害史
2. 江戸の災厄と絵画
3. 諸国の災害と復興
4. 近代の災害とメディア
5. 疫病との向き合い方
6. 震災遺産を考える

展示資料 166件(あいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料、震災遺産)

(ク) 関連事業

- ・防災イベント「消防車と煙体験」

日時：10月7日(土)10:00～14:00

講師：会津若松地方広域市町村圏整備組合
会津若松消防署

場所：前庭

- ・防災イベント「その時君はどうする？」

日時：10月7日(土)10:00～14:00

講師：日本赤十字社福島県支部

場所：エントランスホール

- ・防災イベント「降雨体験」

日時：10月21日(土)10:00～14:00

講師：国土交通省北陸地方整備局阿賀川河川事務所

場所：前庭

- ・防災イベント「マイ避難推進講座」

日時：10月21日(土)10:00～15:00

講師：福島県危機管理課

場所：エントランスホール

- ・防災イベント「そなえる・ふくしま出前講座」

日時：11月18日(土)10:00～12:00

講師：福島県危機管理課

場所：エントランスホール

- ・企画展関連講座「川と人の物語」

日時：11月5日(日)13:30～15:00

講師：鈴木克彦(元当館学芸員)

- ・震災遺産講座「災害とミュージアム」

日時：11月11日(土)13:30～15:00

講師：内山大介(淑徳大学教授)、
筑波匡介(当館学芸員)

場所：講堂

- ・展示解説会

日時：11月3日(金・祝)13:30～14:00

講師：筑波匡介 鈴木弥生(当館学芸員)

場所：企画展示室

(ケ) 成果と課題

巡回展として実施。当館が最終会場であったが、他館で実施しなかったQRコード読み取りによる音声ガイドは概ね好評であった。企画展としてWi-fiを活用した展示を行うことができた。集客に苦戦し、9月の関東大震災の発生から100年目をうまく取り込めなかった。コロナ禍以後、10月から市内各地でイベントが再開され、どこも人の取り合いになっていたようだ。マスコミも、直接の依頼をしても他所のイベント等で取材対応が後回しになってしまうことが多かった。アンケートでは震災遺産が高評価であったため、震災遺産を前面に出した広報を手段とするべきだったかもしれない。

ただし、その後、3月11日に向けた特集など、この展示をきっかけに取材があり、教育普及では中学校、高校での授業等で震災遺産を題材に授業相談が増えている。



展示解説会



防災イベント「消防車と煙体験」

(3) 特集展示

特集展は、新しく収蔵した寄贈・寄託資料を中心に、特定のテーマに基づいて一定の期間開催する展示会である。令和5年度は1本の特集展示を開催した。

ア. 特集展「古い道具と昔の暮らし～今の生活と比べてみよう～」

(ア) 会 期

令和6年1月13日(土)～3月31日(日)

開館日数：67日間

(イ) 会 場 収蔵資料展示室

(ウ) 主 催 福島県立博物館

(エ) 入館者数 4,702人

(オ) 担当学芸員 民俗分野：山口 拓

(カ) 趣 旨

小学校3、4年生の社会科単元に昔のくらしや道具に関する学習が含まれていたことから、長年全国の博物館や郷土資料館において関連する展示や学習プログラムが開催されてきた。しかし、学習指導要領の改訂等に伴い、こうした学習に関する需要にも変化がみられるようになってきている。本特集展は、これまで当館が開催してきた

「古い道具と昔の暮らし」に関する小展示の成果をまとめるとともに、これらの資料をどのような学習に活用することができるかという可能性を提示するものとして開催した。

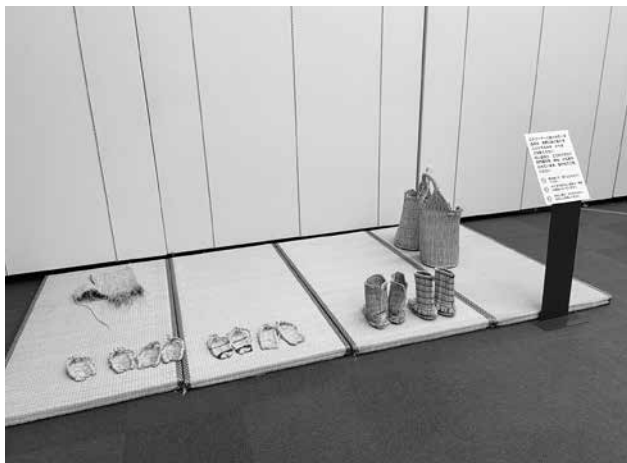
(キ) 展示構成

展示資料 53件(氷冷蔵庫、羽釜、洗濯板、タライ、炭火アイロン等)

(ク) 成果と課題

資料の新たな活用方法を考える中で、SDGsやエネルギー問題などを考えるような問いかけを展示中に用意した。「昔の道具」が現代的な問題を考える上で重要な視点を与えてくれることを示すとともに、これまでとは異なる視点で博物館資料を見直すことの必要性を示すことができたと思う。見学に訪れた学校団体に実施したアンケートでも非常に高い評価をいただいた。「石臼は国語の教科書にも登場するので、国語の学習にも有効だった」という感想もあり、こちらでは把握していなかった学習効果を知ることができた。

これまでの蓄積を変わりゆく学校現場のニーズとどのようにすり合わせていくか、現代的な視点をどのように組み込んでいくかという点が今後の資料活用のための課題だと考える。



ハンズオンコーナー



通い徳利とペットボトルの比較展示

(4) 博物館資料展示活用アウトリーチ事業

広大な福島県では、当館まで頻繁には足を運べない県民が存在する。そのために当館では、県内各地の博物館・資料館等と協働し、資料を活かした展示を企画する。それにより、多くの県民に対して博物館資料の鑑賞機会を増加させることをめざす。

そして未来づくりへとつながるよう文化理解、歴史理解を深めるために博物館資料展示活用アウトリーチ事業を実施する。当初予定したとおり博物館から距離がある浜通りでの開催を行うことができています。

令和5年度は以下の事業を実施した。

- ・とみおかアーカイブ・ミュージアム「震災遺産を考える2023～完全再現・災害対策本部～」
会期：令和5年3月4日(土)～6月4日(日)
- ・南相馬市博物館「アンモナイト合戦in南相馬」
会期：4月22日(土)～6月11日(日)
- ・新地町文化交流センター 観海ホール「三貫地貝塚出土品里帰り展」
会期：10月14日(土)～10月22日(日)

(5) 指定文化財の公開

令和5年度の展示で以下の指定文化財の公開を行った(館蔵・寄託品などは除く)。

ア. 国指定

〈重要文化財〉

- (1) 磐城榎葉天神原遺跡出土品のうち2点
榎葉町教育委員会(福島県)
(総合展示室：原始にて展示公開)

イ. 県指定(福島県指定)

〈重要文化財〉

- (1) 関和久官衙遺跡出土品のうち 墨書土器
4点 福島県
- (2) 根岸官衙遺跡出土品のうち 軒丸瓦 1

点 いわき市

- (3) 夏井廃寺跡出土品のうち 軒丸瓦 2点
いわき市

(以上3件は、総合展示室：古代にて展示公開)

- (4) 天王壇古墳出土品のうち 形象埴輪13点
本宮市

(企画展「Go!Go! 5世紀」にて展示公開)

(6) 展示解説

ア. 展示解説員

平成20年代初頭の大幅な人員削減以来、展示解説員は13名で業務を行っている。令和5年度も常設展示室内に監視員2名、企画展開催中には展示予算による監視員1名を予算化した。展示解説員自体の人員不足は恒常的となっている。展示解説員の主な仕事は展示の解説業務に加えて、展示室内の巡視や設備等の状況把握、チケットや刊行物等の販売業務を含めた受付・案内、団体対応など幅広い。組織としては、研修係、資料係、交流係の3つに分かれ、それぞれが全体に共通する業務と係の仕事を進めている。

研修係は、企画展・テーマ展等の展示担当学芸員が行う解説研修のほか、新人解説員の研修や、スキルアップのための閑散期研修などの研修計画の策定、企画展開催時に人数不足を補うための学芸員の「立番」の準備などを行っている。資料係は刊行物や展示室内における配布資料の管理のほか、受付・展示室などにおける掲示物や物品等の管理を担当する。交流係は着付け衣装の管理のほか、SNSでの情報発信や、メッセージボードの準備などを行っている。それぞれの係には班長・副班長を置き、特に3名の班長は班長会議の実施などを通じた学芸課・総務課との連絡調整業務を担当している。

イ. 展示解説員の新型コロナウイルス感染症対策

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴い拡大状況に応じた対策を行いながら、展示解説員としての対応を検討してきた。総合受付・売店およびモギリのアクリルパーテーションなども段階的に撤収を行っている。

ウ. 学芸員

企画展および特集展の開催中は展示解説のために職員を配置する場が増える。展示解説員だけでは対応できない状況にあるため、学

芸員が代わって展示室に立つことで補っている。原則は1コマを基本45分として、令和5年度は年間165回となった。2月以降は総合展示室が閉室となっており、展示資料の保全等について対応を行っている。

(7) リニューアルの検討

当期中期目標における重点目標「新しい展示ストーリーの検討」の対象に、現在進行中の文化観光推進事業「三の丸からプロジェクト」の中で博物館が周遊を促すゲートウェイ機能を果たすための展示強化事業を令和3年度から組み込むこととした。

展示強化は常設展示室内の展示ロビーをリニューアルし、ゲートウェイ展示のコアゾーン「三の丸アベニュー」として整備した。「三の丸アベニュー」には、江戸時代末期頃の若松城下の範囲をほぼ収めた約6m×4m大の縮尺ジオラマを造形し、ジオラマ上に会津の地形や戊辰戦争への理解を深めるプロジェクションマッピングを投影するほか、若松城下の歴史や文化的な営みを来館者が理解することができる情報端末を設けた。

(8) 総合展示室の閉室

ア. 閉室に至った経緯

令和6年2月19日に館内設備の定期点検を行った際、総合展示室の天井付近にある排煙窓が閉じなくなる不具合が発生し、展示資料を外気から守る応急措置として、排煙窓を金具で強制的に固定せざるをえない状況となった。

この状況では、総合展示室で万が一火災が発生した場合に排煙窓を開くことができず、建築基準法の排煙設備の規定に不適合であるため、やむなく総合展示室を閉室、観覧休止とした。

2月22日 展示室の観覧休止（展示室以外のスペースは利用可）

3月2日 総合展示室以外の展示室等の観覧を再開（特集展・テーマ展は予定の会期を一部変更（延長）した）

イ. 総合展示室の観覧休止の影響

当館の総合展示室は、原始から現代までの福島県の歴史や人々の暮らしを紹介する資料を数多く展示している。観覧休止によって、当館の主要な展示目的が達成できなくなり、特に学校教育活動に大きな影響を与えてしまった。

総合展示室は、例年、会津地域をはじめ、県内外の多くの小中学校などに教育旅行や授業で利用いただいていたので、学校からの問い合わせ

せの際に事情を説明し、御理解いただいたうえで総合展示室以外の展示観覧を勧めることにした。

観覧休止に関する広報は即時に開始したが、上記の理由による突然の休止であったため周知が行き渡らず、知らずに来館された方もおられ、御迷惑をおかけしてしまった。

総合展示室以外の展示室は観覧可能なので、観覧休止の間に購入いただいた常設展チケットの半券は、観覧再開後に再度利用いただける対応を取った。

ウ. 再開の見通し

観覧再開に向け、排煙設備を早期に改修するため、対応策（工事の方法・工期や補正予算など）について教育庁と協議を重ねている（令和6年3月末現在）。



排煙窓開扉状況

4. 調査研究事業

(1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向けて、新たな研究成果と展示資料の収集のため、考古・歴史・民俗・美術・自然・保存科学・災害の各分野がテーマを設定して調査を実施している。令和5年度は、以下の7テーマの調査を実施した。

ア. 考古資料による原始・古代の画期の再検討

(ア) 分野 考古

(イ) 趣 旨

I 縄文時代後半期から弥生時代初頭とII 古墳時代終末期から奈良時代（6世紀末～8世紀）の2つの時期を取り上げ、当館収蔵の当該期の考古資料を中心に上げ、資料の有する社会的背景を考察し、本県における原始・古代の時代変遷の画期を検討し考古地域史の確立を目指すものである。

(ウ) 調査概要

新地町教育委員会所蔵三貫地貝塚出土製塩土器の内容確認調査と、当館所蔵土偶の内部構造調査を実施した。

イ. 会津地方の仏像・仏画の調査研究

(ア) 分野 美術

(イ) 趣 旨

会津地方は仏教美術の宝庫だが、その一方で、調査がなされず存在が知られていない仏像・仏画、かつて調査されたものの十分な認知がされていない仏像・仏画も多数ある。また、多くの寺院・堂が無住となり、地域の世帯で管理していることも少なくない。今後の管理体制に不安を抱える地域もあり、仏像・仏画の現状の確認は急務と言える。調査はより広い見地からの検証、修復の緊急性の判断等のため、大学等研究機関研究者および仏像彫刻修復家と共同で調査研究を行う。それらの成果をもとに、会津の仏教文化を紹介する講座・展覧会を開催するとともに、今後の保全体制の基盤づくりにつなげる。

(ウ) 調査概要

会津地方の中央エリア・北エリアを中心に調査を行った。喜多方市万勝寺・弁財天像は、調査結果に基づいて喜多方市の文化財指定を受け、将来的な保存に向けた動きにつながった。柳津町では正徳寺薬師堂薬師如来像など2件の仏像調査を行い、現状

の保存状態を確認するとともに、地域の方に保存体制の確認を行った。

ウ. 災害史の学際的研究と災害史展示の構築

(ア) 分野 災害・民俗・考古・歴史・自然・美術

(イ) 趣 旨

東日本大震災の発生以来、災害史の研究はこれまで以上に盛んに行われるようになった。これまで当館では、慶長大地震や磐梯山噴火などに関する資料の収集や会津藩の社倉制の研究、山口弥一郎資料の研究など多様な災害に関わる調査研究を進めてきたが、いずれも個々の分野が断片的に行ってきた活動であった。東日本大震災や原発事故のような大規模災害の経験を後世に語り継いでいくためには、自然史や歴史、民俗、考古、保存科学等の分野が総合的に資料を調査研究していく必要があり、また学際的な見地から歴史上の災害を整理し直し、資料調査を進めたうえで展示に反映していくことも求められる。本研究では東日本大震災と災害史に関する資料の収集や調査研究を分野横断的なチームで進め、将来的な常設展示のリニューアルにおいてそれらを福島県の歴史として位置づけることを目指す。

(ウ) 調査概要

震災遺産の常設展での展示に向けて、学芸員との意見交換を通じて、来館者に求められる内容の検討や、今後展示に必要な資料等の確認を行った。他施設の学芸員とも現代史の捉え方や関連資料に関して意見交換を行った。第二次世界大戦後から県土の開発や産業の変遷などを軸とした現代史の展示として東日本大震災までを検討範囲としている。また震災遺産を用いた教育普及活動を通じて、問いを活用した講座やワークショップを実施し、災害伝承の持続可能性の獲得についても検討を行った。特に高校における授業を教員と共に実施することができた。またその成果の一部を研究紀要に掲載した。

エ. 福島県内の食文化の伝承に関する研究

(ア) 分野 民俗

(イ) 趣 旨

学校教育での「食育」の重視、また「和食」のユネスコ無形文化遺産への登録など、日本各地の食文化の重要性は高まっている。また本県ではいわゆる「伝統野菜」の見直しや、全国新種鑑評会金賞数9回連続日本一（平成24年酒造年度～令和3年酒造年度）を誇る「ふくしまの酒」のブランド化といった動きもあり、本県食文化への社会的注目度や興味関心は高い。こうした状況を背景に県内の主要市立博物館等では、関連展示も相次いで開催されている。

本事業を通して体系的に県内各地の行事食・保存食・発酵食（酒造業含む）等に関する資料の調査収集や成果公開を行うことで、本県食文化の歴史性や奥深さを県民自身が再発見できるとともに、対外的には本県食文化の魅力発信および観光振興等にも寄与できる。

（ウ）調査概要

令和5年度は、田島祇園会館の協力を得て、伝統的な保存食の一つである「つと豆腐」や田島祇園祭おとうや行事において作られる「どぶろく」や「本膳料理」について祭礼の様子や製作の流れを撮影・調査するとともに、食品サンプルを製作し、展示資料の充実に資した。

オ. 国宝・白水阿弥陀堂の維持修理に関する基礎研究

（ア）分野 保存科学

（イ）趣 旨

明治35年、古社寺保存法により特別保護建造物・阿弥陀堂（白水阿弥陀堂）の修理が計画されると、内務省より委嘱された亀岡末吉の監督により翌36年から37年に復元修理工事が行われた。同時期に、国宝・阿弥陀如来及両脇侍が美術院により仏像修理が行われている。令和6年に明治時代の修理より120年を迎えるため、この機を節目として調査を実施している。

（ウ）調査概要

いわき市所有行政資料、国立歴史民俗博物館所蔵資料の熟覧を行った。

カ. 福島県の恐竜化石産地の研究

（ア）分野 自然

（イ）趣 旨

県内では浜通りに恐竜が生息していた中生代（約2億5000万年前～約6600万年前）の地層が分布している。これらの地層のか

らは恐竜化石が産することが知られている。

しかし、これらの恐竜化石の中には詳細な研究のされていないものが多数含まれていることから、現地調査とともに鑑定を行い、成果を論文として記録・公表する。企画展などでそうした恐竜化石や共産化石を展示する機会を設ける。

（ウ）調査概要

恐竜化石産地の現地調査を行い、新たに中生代大型化石を採取した。いわき市、広野町、南相馬市での調査研究を中心に調査をすすめた。

キ. 近世・近代絵地図の研究

（ア）分野 歴史

（イ）趣 旨

日本では近世から近代にかけて、紙の普及や識字率の向上によって、膨大な量の古文書・古記録が作成された。それらの資料とあわせて、絵地図も作成されてきた。近世であれば藩領絵図、村絵図、裁許絵図、用水普請絵図など、作成者の身分・状況・目的に応じて多様な種類の絵図が生み出された。絵地図の作成は近代も続き、短期間しか存在しなかった若松県や磐前県の絵図や行政区画割を図示した地図が作成された。これらの絵地図は、研究のうえでは古文書や古記録の理解を助ける好材料となる。また展示した場合には、文字資料よりも視覚的に伝えやすいという長所がある。本事業では、近世・近代の絵地図を調査・研究し、展示活用に繋げたい。

（ウ）調査概要

令和5年度は、主に福島県立図書館、福島県歴史資料館、会津若松市立会津図書館、防衛研究所戦史研究センター史料室所蔵の絵図・地図等の資料を調査した。成果の一部は、ポイント展「猪苗代城絵図」として公表した。

（2）その他の調査研究事業

ア. 古文書整理事業

古文書類の調査・研究は、福島県の歴史をさぐるために欠かせない。しかし古文書を歴史資料として活用するためには、1点ずつ整理を行い、表題・年代・形態・法量・状態などのデータを採取した上で、博物館資料として登録する必要がある。このため、購入・寄贈・寄託などにより当館で受け入れた古文書の整理・登録作業を行っている。また古文書

原本を状態よく保存し後世に伝えていくため、古文書をマイクロ撮影し、原本のかわりに閲覧用に提供している。

令和5年度は、坂内（利）家・年野家・高橋（恵）家の資料整理を行い、このうち高橋（恵）家資料については登録まで終了した。また登録済みだが、未公開であった諸家資料を公開した。マイクロ撮影は、前年度に引き続き「松崎達夫家寄贈資料」の撮影を行った。

（3）職員の研究活動

ア. 研究成果の公表（職員の氏名あいうえお順）

（ア）印刷物（単行本・自治体史・図録・報告書・紀要・学術雑誌）

唐沢與希・鈴木颯一郎・西夏輝・二上文彦・猪瀬弘瑛 2024.1「相馬中村層群（中部ジュラ系～下部白亜系）産出の絶滅オウムガイ類2属」『日本古生物学会第173回例会講演要旨集』

猪瀬弘瑛 2024.3「アウセリナ」「アンモライト」「カルピオネラ」「コンボウガキ」「単板類」「浮動軌道周期年代」「メガロドン」「メガロドン石灰岩」「竜骨群集」『最新地学事典』

猪瀬弘瑛・塚本麻衣子・小林めぐみ・川延安直・西尾祥子・小林美夏 2024.3「実践報告「孔雀石での岩絵の具づくり講座」」『福島県立博物館紀要』第38号

猪瀬弘瑛・自見直人 2024.3「福島県南会津郡只見町に分布する中新統布沢層から産した多毛類化石について」『福島県立博物館紀要』第38号

猪瀬弘瑛・橋本海瑠 2024.3「福島県伊達市に分布する中新統梁川層から産した *Aturia cubaensis*」『福島県立博物館紀要』第38号

猪瀬弘瑛・歌川史哲・相場大佑・村宮悠介 2024.3「福島県いわき市に分布する上部白亜系双葉層群足沢層から得られた *Tongoboryceras kawashitai*（アンモノイド）について」『福島県立博物館紀要』第38号

栗原祐斗 2024.3「陸軍歩兵第二十九連隊資料『内務参考書綴』附『若松衛戍勤務規則』」『福島県立博物館紀要』第38号

高橋充 2023.11「中世の社会と信仰・宗教」『相馬市史』第一巻 通史編1 原始・古代・中世 福島県相馬市 642-685頁

高橋充 2024.3「資料紹介 会津三十三所順礼記」『福島県立博物館紀要』第38号 29-48頁

高橋満 2024.3「東北地方南部における縄文中期末の人体文・狩猟文土器」『土偶研究の新展開～資源利用史と土偶祭祀～』明治大学資源利用史研究クラスター研究成果公開シンポジウム予稿集 pp11-16

高橋満 2024.3「製塩土器を観察する一階上町内出土の縄文時代晩期の事例一」『はしかみ』八十号. 階上町教育委員会 pp18-21

塚本麻衣子 2024.3「馬頭観音堂 木造馬頭観音立像解説」『会津坂下町仏像等悉皆調査報告書』上巻 会津坂下町教育委員会

筑波匡介 2023.5「東日本大震災の震災遺産からの「気づき」とこれから」『非常時の記録保存と記憶化 戦争・災害・感染症と地域社会』地方史研究協議会編 岩田書院
筑波匡介 2023.11.15「地域資源に関わる博物館—デジタル、仕事、協働」『文化資源の保全と図書館・博物館』LRG2023秋号45号

関谷央子 筑波匡介 2024.3「実践報告「震災遺産と問い」」『福島県立博物館紀要』第38号

筑波匡介 2024.3「実践報告「博物館における防災教育」」『福島県立博物館紀要』第38号

平澤慎・高橋満・山本俊・田中敏 2023.4『Go! Go! 5世紀 東北地方中・南部の古墳文化』福島県立博物館

山口拓・塚本麻衣子・原恵理子 2023.7『仕事の仕事をしている仕事—福島のものづくりと民藝—』福島県立博物館

Chinzorig, T., Takasaki, R., Yoshida, J., Buyantegsh, B., Mainbayar, B., Tucker, R., Tsogtbaatar, K., Zanno, L. E. 2023. The oldest pachycephalosaur (ornithischia: marginocephalia) from the Lower Cretaceous Huhteg Formation at Khuren Dukh locality in southeastern Mongolia. Abstract book for 83rd Annual meeting of Society of Vertebrate Paleontology, Cincinnati, USA

（イ）学会発表

唐沢與希・鈴木颯一郎・西夏輝・二上文彦・猪瀬弘瑛 2024.1.27「相馬中村層群（中部ジュラ系～下部白亜系）産出の絶滅オウムガイ類2属」日本古生物学会第173回例会 於：東北大学

杉崎佐保恵 2023.10.22「風土記の丘展示施

設における窒素ガス供給式展示ケースの運用実態—金錯銘鉄剣及び銀錯銘銀装円頭大刀の展示環境の維持管理—」日本文化財科学会第40回記念大会 於：なら歴史芸術文化村

高橋満 2023. 5. 14「震災遺構『富岡町災害対策本部跡』を考える」とみおかアーカイブミュージアム『震災遺産を語る2023』於：富岡町文化交流センター

高橋満 2024. 3. 2「東北地方南部における縄文中期末の人体文・狩猟文土器」明治大学資源利用史研究クラスター研究成果公開シンポジウム『土偶研究の新展開～資源利用史と土偶祭祀～』於明治大学

関谷央子 筑波匡介 2024. 3. 19「震災遺産と問い」東日本大震災・原子力災害第2回学術研究集会 於：コラッセふくしま多目的ホール

筑波匡介 2024. 3. 20「博物館の防災講座—震災遺産を活用した防災教育について—」東日本大震災・原子力災害第2回学術研究集会 於：コラッセふくしま多目的ホール

平澤慎 2023. 7. 15・16「東北における方墳の展開」関東・東北前方後円墳研究会第26回研究大会シンポジウム『東北・関東における方墳の展開』 於：早稲田大学本庄キャンパス

吉田純輝 2023. 12. 3「福島県立博物館から最新の恐竜研究」丹波竜フェスタシンポジウム『ここがすごい！最新恐竜化石調査～次世代古生物学者が語る～』 於：兵庫県丹波市やまなみホール

Chinzorig, T., Takasaki, R., Yoshida, J., Buyantegsh, B., Mainbayar, B., Tucker, R., Tsogtbaatar, K., Zanno, L. E. 2023. The oldest pachycephalosaur (ornithischia: marginocephalia) from the Lower Cretaceous Huhteeg Formation at Khuren Dukh locality in southeastern Mongolia. 83rd Annual meeting of Society of Vertebrate Paleontology, Cincinnati, USA

Yoshida, J. 2023. Hear the Past: The first discovery of dinosaur larynx. Dinosaurs: New Discoveries. A Conference honoring Dr. Mark A. Norell in American Museum of Natural History, New York, USA.

Kondo, M., Tanaka, K., Utagawa, F., Yoshida, J. 2023. A possible ornithopod

sternal from the Upper Cretaceous Ashizawa Formation of the Futaba Group in Iwaki City, Fukushima Prefecture, Japan. 2nd Asian Palaeontological Congress, Tokyo, Japan.

イ. 多様な連携による新たな研究活動

高橋充 科研費・基盤研究(C)「中世近世移行期における南東北地方の基礎的研究」(代表：淑徳大学 遠藤ゆり子)研究協力者

高橋充 会津大学「スマートデザイン研究クラスター」

高橋満 科研費・基盤研究(A)「日本列島における製塩技術史の解明」(代表：明治大学 阿部芳郎)研究分担者

筑波匡介 南国Rスタジオ「震災遺産デジタルアーカイブと遠隔コミュニケーション」共同研究

平澤慎 科研費 学術変革領域研究(A)公募研究「本州島北部における狩猟採集から農耕への移行過程の実態解明」(代表：福島大学 菊地芳朗)研究協力者

栗原祐斗 科研費・基盤研究(B)「江戸時代の東北地方における死亡危機の要因分析システムの構築」(代表：帝塚山大学 川口洋)研究協力者

ウ. 他団体による委嘱等

・猪瀬弘瑛

ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携コーディネーター

第42回福島県高等学校総合文化祭自然科学部門 審査委員

第36回福島県高等学校生徒理科研究発表会 審査委員

最新 地学事典 項目選定協力者

・大里正樹

須賀川市文化財保護審議会委員 須賀川市

文化庁 調査員(文化財第一課) 文化庁文化財第一課

福島大学 非常勤講師

福島県立医科大学 非常勤講師

・川延安直

福島芸術計画運営委員会委員 福島県

会津漆器技術後継者訓練校講師 会津漆器協同組合

喜多方市美術館収集委員会委員 喜多方市教育委員会

「ふるさとの風景展」審査員 喜多方市

美術館

いわき市文化財保護審議委員会委員 いわき市教育委員会

白河市文化財保護審議委員会委員 白河市教育委員会

福島県文学賞エッセー・ノンフィクション部門審査委員

福島大学芸術による地域創造研究所研究員 福島大学

やないづ町立斎藤清美術館運営協議会委員

• 栗原祐斗

熊谷市史編集委員(近代・現代専門部会特別調査員)

郡山市文化財保護審議会委員 郡山市教育委員会

福島県立医科大学 非常勤講師

• 小林めぐみ

福島芸術計画運営委員会委員 福島県

会津漆器技術後継者訓練校講師 会津漆器協同組合

やないづ町立斎藤清美術館運営協議会委員 柳津町

只見町ユネスコエコパーク支援委員会委員 只見町ユネスコエコパーク推進協議会

只見町ぶなと川のミュージアム運営委員会委員 只見町

福島大学芸術による地域創造研究所研究員 福島大学

無形文化財(工芸技術)の公開・活用に関する検討会委員 文化庁

福島市文化財保護審議会委員 福島市 須賀川市文化財保護審議会委員 須賀川市

いわき芸術文化交流館アドバイザー いわき市

福島大学非常勤講師 福島大学

• 高橋 充

二本松城跡整備検討委員会委員 二本松市教育委員会

向羽黒山城跡調査整備委員会委員 会津美里町教育委員会

相馬市史編さん専門委員 相馬市教育委員会

会津藩主松平家墓所及び名勝会津松平氏庭園整備指導会議委員 会津若松市教育委員会

神指城跡調査指導委員会委員 会津若松市教育委員会

阿津賀志山防塁調査・整備指導委員会委員 国見町教育委員会

棚倉町中世城館等調査指導委員会委員 棚倉町教育委員会

高寺山遺跡調査指導委員会委員 会津坂下町教育委員会

北塩原村城館等保存・整備・活用検討委員会委員 北塩原村教育委員会

小峰城跡石垣検討委員会委員 白河市 堂後遺跡及び勝常寺跡調査指導委員会委員 湯川村教育委員会

只見町文化財調査委員 只見町教育委員会

福島県立医科大学 非常勤講師

会津若松市郷土研究奨励金審査委員会委員 会津若松市教育委員会

会津若松市文化財保存活用地域計画協議会委員 会津若松市教育委員会

喜多方市美術館運営協議会委員 喜多方市教育委員会

史跡慧日寺跡調査・保存・整備指導委員会委員 磐梯町教育委員会

• 高橋 満

資源利用史研究クラスター研究推進員 明治大学

• 田中 敏

会津坂下町史編さん委員 会津坂下町教育委員会

御三階復元検討委員会委員 会津若松市教育委員会

会津藩主松平家墓所整備指導会議委員

会津若松市教育委員会

会津藩主松平家墓所保存整備委員会委員 猪苗代町

• 塚本麻衣子

喜多方市文化財保護審議委員 喜多方市教育委員会

会津坂下町仏像等悉皆調査委員会委員

会津坂下町教育委員会

• 筑波匡介

磐梯山ジオパーク協議会運営委員

公害資料館連携フォーラムin福島実行委員

南国Rスタジオ共同研究員

福島大学 非常勤講師

• 原恵理子

大堀相馬焼伝統工芸産地委員会委員 大堀相馬焼協同組合

大堀相馬焼記録・保存事業委員 大堀相馬焼協同組合

- 山口 拡
会津若松市文化のまちづくり事業委員会
委員 公益財団法人会津若松文化振興財
団
- 吉田 純輝
北海道大学総合博物館 資料部研究員
東京大学大学院理学系研究科 客員共同
研究員

エ. 研究助成金等

(ア) 科研費奨励研究

高橋 満：科研費・基盤研究(C)「霞ヶ浦沿岸
における縄文時代土器製塩史復元のための
基礎的研究」研究代表者

吉田 純輝：科研費・若手研究「鳥類固有の発
声器の発生学的研究～「鳴管」の形態形成
機構と起源の解明～」研究代表者

5. 教育普及事業

(1) 講座・講演会

当館では学芸員による各種講座を開催しているが、そのほかにも、外部に講師を依頼しさまざまな講座・講演会等を実施している。令和5

年度の各講座開催数は108、総参加者数は8,435人であった。以下は個別講座・講演等の一覧である。

令和5年度講座・講演会等の回数と参加者数

テ　　マ	回数	参加者数
(1) 特別講座	3	191
(2) 考古学講座	5	87
(3) 民俗講座	8	153
(4) 歴史講座	4	84
(5) 自然史講座	2	50
(6) 保存科学講座	1	6
(7) 美術講座	7	193
(8) 災害分野講座	1	10
(9) 企画展関連行事（講演会・講座・展示解説等）	27	700
(10) 博物館講座	7	331
(11) みんなでつくるイベント	4	425
(12) 子育て世代対応事業	13	811
(13) 実技講座	2	93
(14) 三の丸からプロジェクト	12	4,315
(15) 共催事業	3	353
(16) 後援事業	7	509
(17) 友の会事業	2	124
計	108	8,435

令和5年度講座・講演会等行事一覧

(1) 特別講座

テ　　マ	講師・所属等	期　日	参加人数
特別講座「詩人のいる博物館① まず撮る、まず書く」	和合亮一（詩人） 初沢亜利（写真家）	9月2日（土）	32
特別講座「詩人のいる博物館② 書を捨てよ、博物館へ行こう」	和合亮一（詩人） 佐々木英明（三沢市寺山修司記念館館長）	12月23日（土）	65
特別講座「詩人のいる博物館③ 時を経て、書く、今」	和合亮一（詩人） 佐藤厚志（小説家）	2月17日（土）	94

(2) 考古学講座

テ　　マ	講師・所属等	期　日	参加人数
縄文土器をつくろう	高橋満・山本俊（学芸員）	7月29日（土） 30日（日）	21
縄文土器の野焼き	高橋満・山本俊（学芸員）	10月8日（日）	20
会津大塚山古墳をつくろう	平澤慎（学芸員）	11月12日（日）	12
歩いて学ぶ会津大塚山古墳	平澤慎（学芸員）	11月23日（木）	19
勾玉・ガラス玉をつくろう	平澤慎（学芸員）	3月17日（日）	15

(3) 民俗講座

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
リニューアル記念 部門展示室（民俗） 展示解説会	大里正樹・山口 拓（学芸員）	4月23日（日）	46
テーマ展「会津唐人風の世界」解説会	大里正樹（学芸員）	5月13日（土）	11
記録映像で見るふくしまの暮らし1		8月27日（日）	8
記録映像で見るふくしまの暮らし2		9月24日（日）	20
記録映像で見るふくしまの暮らし3		10月22日（日）	14
テーマ展「地域に生きた民間宗教者」解説会	山口 拓（学芸員）	11月5日（日）	9
集まれ彼岸獅子！シシのお面をつくろう！	山口 拓（学芸員）	2月24日（土）	16
テーマ展「手仕事が生む花-ふくしまの彼岸花-」解説会	大里正樹（学芸員）	3月16日（土）	29

(4) 歴史講座

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
はじめてさんの古文書講座①	栗原祐斗（学芸員）	2月3日（土）	22
はじめてさんの古文書講座②	栗原祐斗（学芸員）	2月12日（月）	20
かじったさんの古文書講座①「会津藩の家世実紀を読んでみよう」	高橋 充（副館長）	3月9日（土）	19
かじったさんの古文書講座②「会津の三十三観音順礼記を読んでみよう」	高橋 充（副館長）	3月16日（土）	23

(5) 自然史講座

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
自然史講座「新種の見つけ方」	猪瀬弘瑛・吉田純輝（学芸員）	5月4日（木）	13
自然史講座「恐竜の科学」	吉田純輝（学芸員）	7月17日（月）	37

(6) 保存科学講座

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
古代の紙について学ぼう！	杉崎佐保恵（学芸員）	7月9日（日）	6

(7) 美術講座

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
美術放談第1回「工芸的絵画と絵画的工芸」	小林めぐみ・塚本麻衣子（学芸員）・川延安直（専門員）	5月27日（土）	27
美術放談第2回「会津の絵画」	小林めぐみ・塚本麻衣子（学芸員）・川延安直（専門員）	8月5日（土）	38
神になった人々 菅原道真と保科正之	佐藤弘夫（東北大学名誉教授）	10月1日（日）	28
美術放談第3回「神様と殿様」	小林めぐみ・塚本麻衣子（学芸員）・川延安直（専門員）	10月28日（土）	27
美術放談第4回「自然の表象（イメージ）」	小林めぐみ・塚本麻衣子（学芸員）・川延安直（専門員）	1月13日（土）	27
美術放談第5回「託した思い」	小林めぐみ・塚本麻衣子（学芸員）・川延安直（専門員）	2月24日（土）	23
未来の記憶のために	港千尋（写真家・著述家・多摩美術大学教授）	3月10日（日）	23

(8) 災害分野講座

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
伝える～楽しいそなえ	鈴木弥生・筑波匡介（学芸員）	9月1日（金）	10

(9) 企画展関連行事

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
企画展「Go!Go!5世紀」内覧会（友の会・報道向け）		4月28日（金）	12
展示解説会	平澤慎（学芸員）	4月29日（土）	13
古墳時代のヨロイを着てみよう	平澤慎（学芸員）	5月5日（金）	25
展示解説会	平澤慎（学芸員）	5月13日（土）	11
講演会「埴輪からわかる東北の5世紀」	藤澤 敦（東北大学総合学術博物館教授）	5月14日（日）	47
展示解説会	平澤慎（学芸員）	5月20日（土）	8
まじないの道具 石製模造品をつくろう	平澤慎（学芸員）	6月3日（土）	20
展示解説会	平澤慎（学芸員）	6月18日（日）	20
展示解説会	平澤慎（学芸員）	7月2日（日）	40
企画展「仕事の仕事をしている仕事」内覧会（友の会・報道向け）		7月14日（金）	17
展示解説会	山口 拓・塚本麻衣子（学芸員）	7月15日（土）	9
展示解説会	山口 拓・塚本麻衣子（学芸員）	7月22日（土）	9
展示解説会	山口 拓・塚本麻衣子（学芸員）	8月12日（土）	7
講演会「作るのではなく、生まれる」	鞍田 崇（哲学者/明治大学准教授）	8月19日（土）	67
展示解説会	山口 拓・塚本麻衣子（学芸員）	8月27日（日）	21
ワークショップ「ほうきをつくろう」	宮原克人（筑波大学准教授）	9月9日（土）	15
		9月10日（日）	15
展示解説会	山口 拓/塚本麻衣子	9月23日（土）	12
企画展「伝える 災害の記憶」内覧会（友の会・報道向け）		10月6日（金）	16
防災イベント「消防車と煙体験」	会津若松地方広域市町村圏整備組合 会津若松消防署のみなさん	10月7日（土）	123
防災イベント「その時、君はどうする」	日本赤十字社福島県支部のみなさん	10月7日（土）	43
防災イベント「降雨体験」	国土交通省北陸地方整備局阿賀川河川事務所のみなさん	10月21日（土）	60
防災イベント「マイ避難推進講座」	福島県危機管理課のみなさん	10月21日（土）	36
展示解説会	鈴木弥生（学芸員）	11月3日（金）	12
講座「川と人の物語」	鈴木克彦（当館元学芸員）・筑波匡介（学芸員）	11月5日（日）	8
震災遺産講座「災害とミュージアム」	内山大介（淑徳大学教授）・筑波匡介（学芸員）	11月11日（土）	19
防災イベント「そなえる・ふくしま出前講座」	福島県危機管理課のみなさん	11月18日（土）	15

(10) 博物館講座

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
ナイトミュージアム		8月19日（土）	75
親子で探検！博物館のウラ側		8月20日（日）	17
三の丸から講座①「三の丸誕生」	高橋 充（副館長）	10月22日（日）	39
三の丸から講座②「文化の華開く若松城」	高橋 充（副館長）・小林めぐみ（学芸員）・川延安直（専門員）	11月25日（土）	34
三の丸から講座③「知られざる三の丸の昔と今」	藤原妃敏（当館元学芸課長）・高橋 充（副館長）・栗原祐斗（学芸員）	12月9日（土）	37
三の丸から講座 特別講演会「会津鶴ヶ城に刻まれた時代の移り変わり」	齋藤 慎一（公益財団法人東京都歴史文化財団江戸東京博物館分館江戸東京たてもの園）	1月21日（日）	115
親子で探検！博物館のウラ側		2月4日（日）	14

(11) みんなでつくるイベント

テ　　マ	出演・講師	期　　日	参加人数
津軽三味線と各地の民謡	玄如節顕彰会	6月17日(土)	83
会津磐梯山市民盆踊り	会津磐梯山盆踊り保存会	8月15日(火)	151
けんぱくクリスマスコンサート	酒蔵オペラ合唱団 with friends	12月24日(日)	103
会津の彼岸獅子	本瀧澤獅子舞保存会	3月3日(日)	88

(12) 子育て世代対応事業

テ　　マ	講　　師	期　　日	参加人数
こどもミニミニはくぶつかん	会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科葉山ゼミ・会津大学短期大学部あそびサークル	5月3日(水)～ 5月5日(金)	439
博物館でもよみきかせ	心に虹のおはなし会	5月13日(土)	11
博物館でもよみきかせ	ハーモニー	6月10日(土)	8
博物館でもよみきかせ	会津大学短期大学部あそびサークル	7月8日(土)	9
会津短大生とあそぼう	会津大学短期大学部あそびサークルのみなさん	7月29日(土)	21
博物館でもよみきかせ こどもミニミニはくぶつかん お盆	会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科葉山ゼミ・会津大学短期大学部あそびサークル	8月12日(土)	182
博物館でもよみきかせ	マザーグース	9月9日(土)	8
会津短大生とあそぼう	会津大学短期大学部あそびサークルのみなさん	10月1日(日)	22
博物館でもよみきかせ	坂下読み聞かせの会	10月14日(土)	5
博物館でもよみきかせ	ハーモニー	11月11日(土)	30
博物館でもよみきかせ	博物館職員	12月9日(土)	8
会津短大生とあそぼう	会津大学短期大学部あそびサークルのみなさん	12月9日(土)	8
こどもミニミニはくぶつかん～ものづくりとICTで遊ぼう～	会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科/会津大学コンピューター理工学部	1月27日(土)	60

(13) 実技講座

テ　　マ	講　　師	期　　日	参加人数
ワークショップ 会津唐人和風作り	大里正樹(学芸員)	5月3日(水)	71
葉に親しむワークショップ～楽しく学ぼうわら細工	大里正樹・山口 弘・西尾祥子(学芸員)	12月2日(土)	22

(14) 三の丸からプロジェクト

テ　　マ	講　　師	期　　日	参加人数
雪国ものづくりマルシェ 2023春		5月20日(土) 21日(日)	2091
雪国ものづくりマルシェ 2023秋		9月16日(土) 17日(日)	2069
武家文化体験「武士が愛したかそけき音色・七弦琴に触れる」	飛田立史(琴士)	10月9日(月)	15
武家文化体験「刀剣取扱い講座」	藤安将平(将平鍛刀場 刀匠)	11月4日(土)	17
武家文化体験「松平家の茶道を見る、飲む、楽しむ」	茶道石州流宗家会津支部のみなさん	11月19日(日)	36
武家文化体験「見て触れて、能を体験してみよう」	会津能楽会のみなさん	11月26日(日)	10
ものづくり体験「カラムシの繊維でコースターを織ろう！」	奥会津昭和村振興公社のみなさん	12月10日(日)	13
ものづくり体験「会津木綿でブックカバーとしおりをつくらう」	田崎薫(株式会社はらっぱ)	12月16日(土)	11

(14) 三の丸からプロジェクト

テ　　マ	講　　師	期　　日	参加人数
ものづくり体験「会津本郷焼の器をつくろう」	宗像利訓（宗像窯9代目）	1月14日（日）	15
ものづくり文化体験「錫粉蒔絵に挑戦！～ミニトレーマは盃の絵付け体験～」	八木由紀子さん・佐藤淳さん（蒔絵師）	1月28日（日）	16
ものづくり文化体験「ヒゴからつくるコースターづくり～またたび細工」	菅家豊（編み組細工職人）	2月11日（日）	17
ものづくり体験「六ッ目ザルをつくろう～またたび細工」	菅家豊（編み組細工職人）	2月25日（日）	5

(15) 共催事業

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
ふくしまの城・城址巡り会津三城ものがたり歴史講演会 & パネルディスカッション	千田嘉博（城郭考古学者）ほか	6月24日（土）	200
実技講座「鉱物標本をつくろう」	博物館友の会化石鉱物探検隊のみなさん	8月6日（日）	21
会津史学会歴史文化講演会「幕末会津藩の国事周旋」	白石烈（宮内庁書陵部主任研究官）	11月12日（日）	132

(16) 後援事業

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
歴史春秋出版・講演会「法相宗徳一の教化ー会津と常陸を語るー」	内山純子	4月22日（土）	106
福島県民俗学会大会		6月4日（日）	20
雪と氷のワークショップ in 福島	中谷宇吉郎雪の科学館友の会	8月11日（金）	68
蒲生氏郷講演・シンポジウム		9月3日（日）	150
学校法人同志社大学創立150周年記念講演会「新島八重さんの贈り物ー心の和きものその人は地を嗣がむー」	山下智子（同志社大学 教授）	9月23日（土）	84
会津若松観光ルネッサンス主催 講演会「蒲生氏郷の部屋で学ぶ」	庄司裕（会津史学会）・宮崎宗伊（会津茶道会）・高橋充（副館長）	3月17日（日）	19
会津民俗研究会講演会		3月31日（日）	62

(17) 友の会事業

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
博物館友の会講演会「平安時代の会津の仏像」	若林繁（元東京家政大学教授）	4月9日（日）	73
博物館友の会講演会「恐竜の声が聞こえる？～福島県博から恐竜研究の最前線へ～」	吉田純輝（学芸員）	12月17日（日）	51

(2) みんなでつくるイベント

気軽な雰囲気の中で福島の文化に触れていただくイベント。また、県民の皆様にも博物館を身近に感じていただく機会となるよう、今まで博物館に縁遠かった人々を含め様々な人の集う空間になるよう企画し、4件実施した。

ア. 津軽三味線と各地の民謡

- (ア) 日 時 令和5年6月17日（土）
13時30分～15時00分
(イ) 会 場 福島県立博物館 講堂
(ウ) 出 演 玄如節頭彰会のみなさん
(エ) 参加者数 83人

イ. 会津磐梯山市民盆踊り

- (ア) 日 時 令和5年8月15日（火）
19時～20時
(イ) 会 場 福島県立博物館 前庭
(ウ) 出 演 会津磐梯山盆踊り保存会のみなさん
(エ) 参加者数 151人

ウ. けんぱくクリスマスコンサート

- (ア) 日 時 令和5年12月24日（日）
14時～15時
(イ) 会 場 福島県立博物館 エントランスホール
(ウ) 出 演 酒蔵オペラ合唱団 with friends
(エ) 参加者数 103人

エ. 会津の彼岸獅子

- (ア) 日 時 令和6年3月3日(日)
13時30分～15時
- (イ) 会 場 福島県立博物館 講堂
- (ウ) 出 演 本瀧澤獅子舞保存会のみなさん
- (エ) 参加者数 参加者数 88人

オ. こどもミニミニはくぶつかん

- ① (ア) 日 時 令和5年5月3日(水・祝)
～5日(金・祝)
10:30～15:30
- (イ) 会 場 雪国ものづくり広場なんだ
べや
- (ウ) 講 師 会津大学短期大学部幼児教育学科・福祉学科葉山ゼミ
のみなさん、同短期大学部
あそびサークルのみなさん、当館学芸員
- (エ) 参加者数 439名
- ② (ア) 日 時 令和5年8月12日(土)
10:30～15:30
- (イ) 会 場 雪国ものづくり広場なんだ
べや
- (ウ) 講 師 会津大学短期大学部幼児教育学科・福祉学科葉山ゼミ
のみなさん、同短期大学部
あそびサークルのみなさん
- (エ) 参加人数 182名
- ③ (ア) 日 時 令和6年1月27日(土)
10:30～15:30
- (イ) 会 場 雪国ものづくり広場なんだ
べや
- (ウ) 講 師 会津大学短期大学部幼児教育学科・福祉学科葉山ゼミ
のみなさん、会津大学コンピュータ理工学部
のみなさん
- (エ) 参加人数 60名

カ. 博物館でもよみきかせ

- ① (ア) 日 時 令和5年5月13日(土)
10時30分～11時30分
- (イ) 会 場 雪国ものづくり広場なんだ
べや
- (ウ) よみきかせ団体 心に虹のおはなし
会
- (エ) 参加者数 11人
- ② (ア) 日 時 令和5年6月10日(土)
10時30分～11時30分
- (イ) 会 場 雪国ものづくり広場なんだ

べや

- (ウ) よみきかせ団体 ハーモニー
- (エ) 参加者数 8人
- ③ (ア) 日 時 令和5年7月8日(土)
10時30分～11時30分
- (イ) 会 場 雪国ものづくり広場なんだ
べや
- (ウ) よみきかせ団体 会津大学短期大学部あそびサークル
のみなさん
- (エ) 参加者数 9人
- ④ (ア) 日 時 令和5年8月12日(土)
10時30分～11時30分
- (イ) 会 場 雪国ものづくり広場なんだ
べや
- (ウ) よみきかせ団体 会津大学短期大学部あそびサークル
のみなさん
- (エ) 参加者数 50人
- ⑤ (ア) 日 時 令和5年9月9日(土)
10時30分～11時30分
- (イ) 会 場 雪国ものづくり広場なんだ
べや
- (ウ) よみきかせ団体 マザーグース
- (エ) 参加者数 8人
- ⑥ (ア) 日 時 令和5年10月14日(土)
10時30分～11時30分
- (イ) 会 場 雪国ものづくり広場なんだ
べや
- (ウ) よみきかせ団体 坂下読み聞かせの
会
- (エ) 参加者数 5人
- ⑦ (ア) 日 時 令和5年11月11日(土)
10時30分～11時30分
- (イ) 会 場 雪国ものづくり広場なんだ
べや
- (ウ) よみきかせ団体 ハーモニー
- (エ) 参加者数 30人
- ⑧ (ア) 日 時 令和5年12月9日(土)
10時30分～11時30分
- (イ) 会 場 雪国ものづくり広場なんだ
べや
- (ウ) よみきかせ団体 博物館職員
- (エ) 参加者数 8人

(3) 雪国ものづくり広場 なんだべや

エントランスホール隣の無料空間に位置し、さまざまな体験を提供する場として設置されたスペース。令和4年度に「三の丸からプロジェクト」により、ものづくり文化を体験・学ぶことのできるスペースへとリニューアルし、令和5年度は同プロジェクト体験型プログラム（武家文化体験、ものづくり体験）や、雪国ものづくりマルシェのワークショップを開催した。また、ものづくりの制作者の滞在制作も実施し、ものづくり文化に触れられる空間として充実をはかった。その他、可変性を活かしてトークイベントやワークショップ等を開催し、なんだべやの多様な活用につなげた。

また、「こどもミニミニはくぶつかん」「博物館でもよみきかせ」「会津短大生とあそぼう」など未就学児向けの事業を定期的に開催した。リピーターも見られ、未就学児や家族が気兼ねなく安心して過ごせる空間として定着してきていると言える。

(4) 学校・文化施設等との連携

県内外の学校団体や文化施設主催団体との連携をはかり、次の事業を実施している。

ア. 展示室での自主学習（しおり・ワークシート）

感染症拡大防止のため、展示室での密集を避けて常設展示室を各自のペースで見学できるワークシート（「キミだけの「たからもの」をさがそう！」）を当館ホームページで公開、ダウンロードしていただけるようにしている。親子で来館された利用者向けに、令和3年度文化庁地域と共働した博物館創造活動支援事業ポリフォニックミュージアムアートワークショップ「博物館部」で作成したワークシート（「博物館でどうぶつさがし」）を常設展入口だけでなく、雪国ものづくり広場なんだべやに設置している。ご家族で来館される利用者だけでなく、公民館主催事業等で来館「博物館でどうぶつさがし」を利用して展示資料を探し、発見して楽しむ団体も見られた。

イ. 学習プログラム

学校団体に対し、常設展示の見どころ解説や通し解説、体験と展示をつなげた学習講座を多数開催した。修学旅行の学校団体に対しては、訪問する場所の歴史や文化について触れながら展示解説をするなど先生方に要望を伺いながら学習プログラムを実施した。

公民館等の地域団体の利用については、大人向けの学習プログラムとして、「企画展見どころ解説」のプログラムを多くご利用いただいた。また、支援学校や未就学児の教育・保育施設（幼稚園・こども園等）の団体に対しては、事前に先生方との打合せの時間を十分にとり、園児・児童・生徒の理解や興味関心などの実態を把握したうえで、さわれる資料の提示や関連するワークショップを行うなど、楽しみながら学びにつながる独自のプログラムを提案、実施した。



学習プログラム

令和5年度学習プログラム実施状況

No.	実施日	団 体 名	内 容	滞在時間(分)	参加者人数
1	4月26日	福島県立医科大学	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」(歴史・民俗)	180	151
2	4月27日	会津若松市立湊中学校	体験学習プログラム「化石にさわってみよう」(自然)	50	20
3	5月2日	会津若松市立神指小学校	常設企画展対話型鑑賞+ワークショップ「缶バッチをつくろう」(連携協働)	50	37
4	5月10日	会津慈光こども園	季節のワークショップ「新緑であそぶ」(連携協働)	60	53
5	5月10日	家庭教育放送セミナー	企画展解説「Go! Go! Go! 5世紀」	60	8
6	5月12日	慈光第二こども園	季節のワークショップ「新緑であそぶ」(連携協働)	60	41
7	5月25日	会津若松市立一箕小学校	総合展示室通し解説(解説員)	150	105
8	5月25日	福島県立会津支援学校	独自学習プログラム「常設展資料のVRづくりのための観覧」(連携協働)	55	11
9	5月25日	喜多方市立会北中学校	総合展示室通し解説(解説員)	60	10
10	5月30日	会津坂下町立坂下東小学校	企画展解説「Go! Go! Go! 5世紀」	90	48
11	5月31日	会津若松市適応指導教室	ワークショップ「いろみずづくり」(連携協働)	75	10
12	6月3日	東北芸術工科大学 芸術学部 歴史遺産学科	独自学習プログラム「福島県立博物館の概要説明」(考古)	90	38
13	6月7日	燕市立吉田小学校	総合展示室通し解説(解説員)	60	74
14	6月9日	小千谷市立東小千谷小学校	総合展示室通し解説+学習講座「地域の歴史」(連携協働)	30	18
15	6月9日	桑折町立釀芳小学校	テーマ別学習講座(災害)	60	45
16	6月14日	喜多方市山都公民館山都で学び隊	企画展解説「Go! Go! Go! 5世紀」+テーマ別学習講座「泉福寺大日如来像についての解説」(美術)	150	31
17	6月15日	会津若松市立湊小学校	企画展解説「Go! Go! Go! 5世紀」	70	16
18	6月16日	北塩原村立さくら学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」(歴史)	90	14
19	6月17日	福島大学行政政策学類	博物館学芸員課程に関わるバックヤード見学+学習講座「福島県立博物館の概要説明」(考古・民俗・自然)	240	4
20	6月20日	磐梯町立第一小学校	体験学習プログラム「昔のおもちゃ遊び」(連携協働)	75	45
21	6月21日	伊達市立保原小学校	テーマ別学習講座「防災教育」(災害)	100	104
22	6月21日	会津慈光こども園	体験学習プログラム「石で絵を描こう」+部門別展示室観覧(自然)	90	53
23	6月22日	田村市立船引小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」(考古)	150	118
24	6月23日	慈光第二子ども園	体験学習プログラム「石で絵を描こう」+部門別展示室観覧(自然)	90	38
25	6月23日	福島県立会津支援学校竹田校	独自学習プログラム「鉄砲伝来による社会の変化について」(歴史)	60	3
26	6月28日	福島県立会津支援学校	企画展解説「Go! Go! Go! 5世紀」+体験学習プログラム「埴輪づくり・埴輪鑑賞・色水づくり」(考古・連携協働)	60	4
27	6月28日	会津若松市立北会津中学校	テーマ別学習講座「会津の歴史・食文化・民芸品の歴史」(歴史・美術・民俗)	90	66
28	6月29日	認定こども園子どもの森	企画展解説「Go! Go! Go! 5世紀」+体験学習プログラム「埴輪に触ろう」(考古・連携協働)	120	55
29	6月29日	仙台市立鹿野小学校 前団	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」(連携協働)	75	37

No.	実施日	団 体 名	内 容	滞在時間(分)	参加者人数
30	6月29日	仙台市立鹿野小学校 後団	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」 (連携協働)	70	36
31	6月30日	会津坂下町広瀬コミュニティセンター	企画展解説「Go! Go! Go! 5世紀」	80	17
32	6月30日	会津若松市適応指導教室	企画展解説「Go! Go! Go! 5世紀」+ワークショップ「七夕飾りをつくろう」(考古・連携協働)	90	13
33	7月12日	福島県立会津支援学校竹田校	分野別展示室自然観覧+学習講座「進化に関する話」(自然)	60	4
34	7月15日	会津若松市河東公民館	体験学習プログラム「勾玉づくり」(考古)	180	8
35	7月20日	慈光第二こども園	常設展観覧(カード使用)(連携協働)	60	42
36	7月20日	会津慈光こども園	常設展観覧(カード使用)(連携協働)	60	52
37	7月21日	障害者の明日を考える会	常設展観覧(カード、触れる資料使用) (連携協働)	90	15
38	7月23日	ふくしまネクストクリエイタズチャレンジ	総合展示室通し解説(解説員)	150	0
39	7月27日	あおい学園	企画展解説「仕事の仕事をしている仕事」	120	20
40	7月28日	小教研社会科部会北会津支部	常設展示室解説(歴史・民俗)+学習プログラム紹介(普及発信)	390	20
41	8月10日	会津史談会	企画展解説「仕事の仕事をしている仕事」	90	15
42	8月11日	成城大学	分野別展示室解説(民俗)	105	35
43	9月1日	白河市大信公民館大人の学び教室	企画展解説「仕事の仕事をしている仕事」	90	16
44	9月3日	三島町文化協会	企画展解説「仕事の仕事をしている仕事」 +分野別展示室解説(民俗)	90	15
45	9月3日	東北生活文化大学	博物館学芸員課程に関わるバックヤード 見学+独自プログラム「災害分野WS、 学芸員の仕事紹介」(美術・災害)	90	17
46	9月6日	福島県立会津支援学校小学部	常設展観覧(カード使用)+体験学習プログラム「シンのお面作り・昔のおもちゃ遊び」(民俗・連携協働)	235	53
47	9月7日	登米市立津山小学校	体験学習プログラム「勾玉づくり」(考古)	120	15
48	9月13日	本宮市立糠沢小学校	テーマ別学習講座「震災と防災を考える」 (災害)	150	47
49	9月13日	茨城キリスト教大学	博物館学芸員課程に関わるバックヤード 見学+企画展解説「仕事の仕事をしている仕事」(考古・民俗・災害)	90	12
50	9月14日	喜多方市立第一中学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」 (連携協働)	90	100
51	9月15日	福島県立聴覚支援学校中学部1年	総合展示室通し解説+企画展解説「仕事 が仕事をしている仕事」+体験プログラム 「麻ひもでコースターを織ろう」(民俗)	120	9
52	9月20日	会津若松市立第三中学校	テーマ別学習講座「会津の偉人と白虎隊 について」(歴史)	90	6
53	9月20日	会津若松市適応指導教室	企画展解説「仕事の仕事をしている仕事」 +体験プログラム「麻ひもでコースター を織ろう・水鉄砲づくり」(民俗・連携協 働)	90	15
54	9月26日	二本松市渋川公民館	独自学習プログラム「戊辰戦争について」 (歴史)	50	11
55	9月29日	郡山市立高瀬小学校	テーマ別学習講座「安積疎水」(歴史)	90	48
56	10月1日	全国だるまの会	分野別展示室解説(民俗)	90	21
57	10月3日	三島町交流センター山びこ	分野別展示室解説(考古)	90	5
58	10月3日	福島県立会津支援学校竹田校	独自学習プログラム「遠隔地観覧のため の事前学習」(連携協働)	60	3
59	10月6日	郡山市立守山小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」 (考古)	80	65

No.	実施日	団 体 名	内 容	滞在時間(分)	参加者人数
60	10月11日	会津報徳幼稚園	体験学習プログラム「稲刈り」+総合展示室通し解説(民俗・連携協働)	60	22
61	10月13日	福島県立郡山支援学校高等部	総合展示室通し解説+体験プログラム「読み聞かせ」(解説員・連携協働)	90	46
62	10月14日	会津大学コンピュータ理工学部・課外プロジェクト「社会調査とICTによる地域サポートプロジェクト」受講生	独自学習プログラム「協働イベントのための資料調査」(連携協働)	120	6
63	10月15日	全会津語りの会	分野別展示室解説(民俗)	60	19
64	10月17日	桜の聖母学院小学校	体験学習プログラム「化石にさわってみよう」(自然)	90	28
65	10月19日	郡山市立日和田小学校	総合展示室通し解説(解説員)	100	65
66	10月27日	福島県立会津支援学校竹田校	独自学習プログラム「遠隔地観覧のための事前学習」(連携協働)	60	3
67	10月27日	会津若松ザベリオ学園小学校	企画展解説「伝える 災害の記憶」	100	27
68	10月27日	会津若松市適応指導教室	企画展解説「伝える 災害の記憶」+体験学習プログラム「お札づくり」	75	18
69	10月31日	会津若松市立小金井小学校	分野別展示室解説(歴史)	120	99
70	11月7日	福島県立会津支援学校竹田校	独自学習プログラム「遠隔地観覧のための事前学習」(連携協働)	60	3
71	11月8日	西郷村老人クラブ連合会	企画展解説「伝える 災害の記憶」	100	19
72	11月8日	アルパイン寿会	総合展示室通し解説(解説員)	50	20
73	11月9日	会津若松市立東山小学校	テーマ別学習講座「会津の伝統的工芸品について」(美術)	120	30
74	11月11日	郡山女子大学短期大学部 地域創成学科	博物館学芸員課程におけるバックヤード見学(民俗・考古・災害)	140	25
75	11月12日	極上の会津のプロジェクト協議会	独自学習プログラム「会津の三十三観音めぐりについて」(歴史)	150	17
76	11月14日	福島県立会津支援学校竹田校	独自学習プログラム「遠隔地観覧のための事前準備」+体験学習プログラム「着付け体験」(連携協働・解説員)	60	3
77	11月14日	JR東日本びゅうツーリズム&セールス	独自学習プログラム「収蔵品の特別観覧」(美術)	65	31
78	11月15日	昭和村遺族会	企画展解説「伝える 災害の記憶」	60	16
79	11月16日	会津史談会	企画展解説「伝える 災害の記憶」	60	15
80	11月17日	福島県立会津支援学校竹田校	独自学習プログラム「遠隔地観覧 総合展示室観覧」(連携協働)	90	3
81	11月17日	会津若松市適応指導教室	ワークショップ「いろみずづくり」(連携協働)	105	17
82	11月18日	福島県立南会津高等学校	企画展解説「伝える 災害の記憶」	150	4
83	11月21日	東京大学人文社会系研究室	総合展示室通し解説(解説員)	60	50
84	12月1日	会津若松市適応指導教室	分野別展示室解説(民俗)+体験学習プログラム「わらのワークショップ(民俗)」	75	17
85	12月6日	喜多方市松山公民館	企画展解説「伝える 災害の記憶」	60	21
86	12月8日	会津方部高等学校地理歴史・公民科研究会	企画展解説「伝える 災害の記憶」	140	16
87	12月10日	福島県立会津大学短期大学部	企画展解説「伝える 災害の記憶」+テーマ別学習講座(災害)	120	6
88	12月10日	いきいき人生塾	分野別展示室解説(民俗)	120	28
89	12月15日	どんぐりやまこども園	総合展示室通し解説(カード使用)(連携協働)	60	26
90	1月16日	あいづわくわく学園(会津若松市高齢福祉課)	総合展示室通し解説(解説員)+テーマ別学習講座「会津の歴史」(歴史)	120	14
91	1月19日	認定こども園子どもの森	独自学習プログラム「連携報告展観覧」+分野別展示室解説(考古)	120	54

No.	実施日	団体名	内 容	滞在時間(分)	参加者人数
92	1月31日	福島県立会津大学短期大学部産業情報学科	独自学習プログラム「漆工関連の収蔵品特別観覧と解説」(美術)	210	13
93	1月31日	会津若松市立第二中学校	独自学習プログラム「博物館の役割と仕事を知る」(歴史・自然・民俗)	100	98
94	2月2日	福島県立会津支援学校竹田校	特集展解説「古い道具と昔の暮らし」+独自プログラム「遠隔地観覧のための事前確認」(連携協働)	60	3
95	2月6日	会津若松市立湊小学校	特集展解説「古い道具と昔の暮らし」+体験学習プログラム「昔の道具」(民俗)	100	15
96	2月7日	会津若松市立鶴城小学校	特集展解説「古い道具と昔の暮らし」+体験学習プログラム「昔の道具」(民俗)	90	54
97	2月16日	会津若松市立一箕小学校	特集展解説「古い道具と昔の暮らし」+体験学習プログラム「昔の道具」(民俗)	90	107
98	2月21日	会津坂下町立坂下東小学校	特集展解説「古い道具と昔の暮らし」+体験学習プログラム「昔の道具」(民俗)	120	46
99	2月21日	福島県立会津支援学校竹田校	特集展解説「古い道具と昔の暮らし」+体験学習プログラム「昔の道具」(民俗)	60	3
100	2月22日	会津若松市立行仁小学校	特集展解説「古い道具と昔の暮らし」+体験学習プログラム「昔の道具」(民俗)	110	46
101	2月27日	福島県立会津支援学校竹田校	テーマ展解説「美しき刃たち」(美術)	90	3
102	2月29日	福島県立会津支援学校竹田校	独自学習プログラム「遠隔地観覧・古い道具と昔の暮らし」(連携協働・民俗)	90	3
103	3月5日	福島県立聴覚支援学校会津校	独自学習プログラム「特集展解説(民俗)と体験「はにわをみてみようわら・シンのお面づくり」(民俗・考古)」	120	14
104	3月6日	会津若松市適応指導教室	ポイント展観覧+体験学習プログラム「つみコップ」(連携協働)	90	17
105	3月7日	会津若松ザベリオ学園小学校	特集展解説「古い道具と昔の暮らし」+体験学習プログラム「昔の道具」(民俗)	90	31
106	3月14日	会津史談会	特集展解説「古い道具と昔の暮らし」+体験学習プログラム「昔の道具」(民俗)	90	15
107	3月16日	昭和村公民館千歳学級	特集展解説「古い道具と昔の暮らし」(民俗)	90	21

ウ. 未就学児団体連携事業

令和4年度までの取り組みの振り返りをもとに、「会津慈光こども園」「慈光第二こども園」とは通年で学習プログラムを実施した。季節のワークショップでは「緑画」を取り入れるなど、新たな試みも実施することができた。また、「認定こども園こどもの森」とは、「ハニワ」をテーマに春の企画展観覧以降、通年でゲストティーチャーと学習プログラムを組み合わせた連携事業を行った。また、これらの連携事業を紹介することで、博物館の事業やめざす姿を知っていただく場にするため、1月13日(土)～1月26日(金)の期間に「子ども園と福島県博の連携事業の事業報告展」として、連携事業により制作した作品の展示を行った。



未就学児団体連携事業

エ. 障がい者支援団体連携事業

福島県立会津支援学校（竹田校を含む）と連携し、ゲストティーチャー、来館時の学習プログラム提供、職場体験、テレプレゼンスロボットによる遠隔観覧など様々な形で実施した。先生方と事前の打合せを行い、授業のねらい、児童・生徒の障がいや興味関心などの実態把握をしたうえで、会津支援学校本校とは16回、竹田校とは6回実施した。また、これらの連携事業を紹介し、博物館の事業やめざす姿を知っていただくため、2月20日（火）～3月10日（日）の期間に「アートによる新生ふくしま交流事業『アートで広げる子どもの未来プロジェクト』福島芸術計画2023』の成果展とあわせ、「福島県博の連携事業の事業報告展」として、連携事業により制作した作品等の展示を行った。

オ. 指導者向け研修

「博物館を活用した教育プログラム研修会」と題し、当館が学校や公民館等の団体向けに提供してきたプログラムや協働の事例を紹介した。また、実際に総合学習に関する授業で当館のプログラムを利用した教員の方をお招きし、博物館を利用するに至った意図やその効果についての報告をいただいた。博物館のもつ多様な学習プログラムをお伝えすると同時に、利用者とともに振り返る報告を交え、当館の学校や公民館における活用の推進を図った。令和6年2月6日（火）に6名の参加者を得て開催した。

カ. 学習用具・教材等の貸出

学校での授業づくりや生涯教育関連施設における活動等を支援するため、考古・歴史・民俗・自然の各分野で貸出用の学習用具・教材等を準備している。新型コロナウイルス感染症の予防のため貸出事業の停止となった期間に各分野にて貸出用具・教材の準備を整えたが、今年度の貸出は考古分野の舞いざり式発火具セットの貸出1件に止まった。

キ. ゲストティーチャー

学芸員がもつ専門知識や経験を館外で有効に活用してもらうため、学校等教育機関の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を担当している。令和5年度の実施回数は62回で、参加者は3,956人であった。



ゲストティーチャー

令和5年度

博物館を活用した教育プログラム研修会

時 間	内 容
10:30～10:40	開会挨拶
10:40～11:15	講座Ⅰ「博物館を利用した授業づくり～防災講座を事例に～」
11:15～12:00	実践報告Ⅰ「講座「縄文土器をつくろう」の展開について」
－ 昼 食 ・ 休 憩 －	
13:00～13:35	実践報告Ⅱ「こどもたちのサードプレイスをめざして 適応指導教室「ひまわり」との連携報告」
13:35～14:15	展示解説「特集展「古い道具と昔の暮らし～今の生活と比べてみよう～」
14:15～14:55	実践報告Ⅲ「博物館を利用した授業づくり」
14:55	閉会

定員30名

ゲストティーチャー実施一覧

No.	月日	講師	分野	演題・内容等	実施先	対象	受講者数
1	4月17日	筑波	災害	震災遺産に関する講話	東京学館新潟高等学校 (会場：国立磐梯青少年交流の家)	1年生	168
2	4月18日	筑波	災害	震災講話	東京学館新潟高等学校 (会場：国立磐梯青少年交流の家)	1年生	210
3	5月19日	栗原	歴史	「史跡と文化をとおして会津の歴史を知る」	会津坂下町立坂下中学校	1年生	137
4	5月23日	筑波	災害	震災講話	会津若松市立鶴城小学校 (会場：福島県会津自然の家)	4年生	49
5	5月25日	鈴木	災害	自然災害に対する心構えについて	会津若松市立一箕小学校 (会場：福島県会津自然の家)	4年生	122
6	6月2日	筑波	災害	講義「防災・減災についての基礎・基本」	福島県立猪苗代高等学校 (会場：国立磐梯青少年交流の家)	全校生徒	56
7	6月13日	筑波	災害	震災から学ぶ学習	喜多方市立第二小学校 (会場：福島県会津自然の家)	5年生	54
8	6月14日	高橋満・山本	考古	①講演『ディープな縄文土器の世界』 ②縄文土器制作体験	福島県立猪苗代高等学校	3年1組生徒	19
9	6月15日	筑波	災害	自然災害に対する心構えについて	福島市立月輪小学校 (会場：福島県会津自然の家)	5年生	18
10	6月20日	栗原	歴史	黒川城と湯川について	会津若松市立謹教小学校	5年生	31
11	6月21日	吉田	自然	恐竜の喉化石に関する研究	福島県立福島高等学校（オンライン講演）	1年生 スーパーサイエンス部	69
12	6月22日	山本・平澤	考古	四穂田古墳出土に伴う体験学習	中島村立滑津小学校 中島村立吉子川小学校 (中島村生涯学習センター輝ら里)	6年生（滑津小31名・吉子川小20名）	51
13	6月23日	栗原	歴史	会津の歴史や産業の話「郷土理解」	会津若松市立第四中学校	1年生	166
14	6月28日	筑波	災害	震災遺産に関する講話	福島市立鳥川小学校 (磐梯青少年交流の家)	5年生	63
15	6月29日	筑波	災害	自然災害に対する心構え	福島市立第一小学校 (会場：福島県会津自然の家)	4年生 5年生	35
16	7月5日	西尾・川延 小林めぐみ	民俗	竹に関するお話し 七夕飾りづくり	福島県立会津支援学校	小学部1年生 小学部5年生	26
17	7月7日	高橋充	職業	職業講話「地域から学ぶ」 学芸員の仕事の内容と楽しさ、仕事を通しての職業観について	会津若松市立第三中学校	2年生	91
18	7月11日	高橋満・山本	考古	①講演『ディープな縄文土器の世界』 ②縄文土器制作体験	福島県立猪苗代高等学校	3年1組生徒	18
19	7月14日	筑波・鈴木	災害	震災遺産に関する講話	会津若松市立門田小学校	5年生	65
20	7月14日	筑波・鈴木	災害	震災遺産に関する講話	福島市立蓬莱東小学校	5年生	33
21	8月29日	平澤・西尾・川延	考古	野焼き用の粘土づくり ハニワづくり	認定こども園こどもの森	年長児（2クラス）	43
22	9月4日	高橋満	考古	三貫地貝塚について（「総合的な探究の時間」学習の一環）	新地町立駒ヶ嶺小学校 (オンラインで実施)	6年生	18
23	9月7日	筑波	災害	震災講話	会津若松市立大戸小学校 (会場：国立磐梯青少年交流の家)	3・4・5年生	26
24	9月7日	筑波	災害	震災講話	郡山市立片平小学校 (会場：国立磐梯青少年交流の家)	4・5年生	39
25	9月8日	筑波	災害	震災に関する話、ワークショップ	喜多方市立松山小学校 (会場：国立磐梯青少年交流の家)	4年生	23

No.	月日	講師	分野	演題・内容等	実施先	対象	受講者数
26	9月12日	高橋満・山本	考古	縄文土器野焼き	福島県立猪苗代高等学校	3年1組生徒	18
27	9月15日	筑波	災害	博物館・学芸員・防災教育による未来の地域づくりについて	福島県立葵高等学校	1年生	8
28	9月15日	山本・西尾	考古	縄文土器をつくろうの事前学習	福島県立会津支援学校（常設展総合展示室原始・古代の展示室のオンライン観覧）	小学部6年4組、6年5組生徒	7
29	9月21日	筑波	災害	震災を学ぶ	会津若松市立日新小学校	4年生	59
30	9月22日	筑波	災害	福島の今・未来 私たちにできる防災とは	福島市立岡山小学校	5年生	69
31	9月27日	平澤・西尾・川延	考古	ハニワの野焼き	認定こども園こどもの森	年長児（2クラス）	44
32	9月29日	山本・西尾	考古	縄文土器をつくろう	福島県立会津支援学校	小学部6年4・5組	7
33	10月10日	筑波	災害	防災学習	会津若松市立第四中学校	全校生	539
34	10月18日	相田	自然	大地のつくり 変わり続ける大地 講話	会津美里町立高田小学校	6年生	43
35	10月19日	鈴木	災害	自然災害に対する心構えについて～これからの生活に活かす	郡山市立大成小学校（会場：国立磐梯青少年交流の家）	5年生	98
36	10月19日	猪瀬・鈴木	自然	環境教育～自然に学ぶ～	会津慈光こども園	年長児	42
37	10月19日	猪瀬・鈴木	自然	環境教育～自然に学ぶ～	慈光第二こども園	年長児	29
38	10月25日	猪瀬	自然	大地のつくり 変わり続ける大地 講話	喜多方市立第二小学校	6年生	37
39	11月8日	鈴木	災害	水害避難に関する学習 田付川氾濫に備えた避難所設営	喜多方市立第一中学校	全校生徒 教職員 地域住民	275
40	11月10日	高橋満	考古	三貫地貝塚について	新地町立駒ヶ嶺小学校	6年生	8
41	11月13日	大里・西尾	民俗	姿を変える大豆（大豆の脱穀・選別、大豆の加工品食品を知る）	福島県立会津支援学校	小学部5年生	5
42	11月15日	山口・西尾	民俗	会津木綿についての歴史や文化についての講話、体験	会津若松市立城西小学校	3年生	81
43	11月16日	西尾	民俗	みんなで演奏しよう/協働（太鼓：磐梯山盆踊り保存会）	福島県立会津支援学校	小学部6年生	7
44	11月22日	西尾	民俗	昔ばなし、ダルマのはなし/協働（読み聞かせ：お話の部屋）	福島県立会津支援学校	小学部1年生	11
45	11月23日	筑波	災害	「震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業」に係る校外研修	福島県立南会津高等学校（会場：新潟県長岡市山古志地区）	2年生	5
46	11月24日	小林・西尾	美術	むかしのくらし（衣装体験）	福島県立会津支援学校	小学部5年生	12
47	11月28日	西尾	民俗	みんなで演奏しよう/協働（太鼓：磐梯山盆踊り保存会）	福島県立会津支援学校	小学部6年生	7
48	12月6日	西尾	民俗	みんなで演奏しよう/協働（太鼓：磐梯山盆踊り保存会）	福島県立会津支援学校	小学部6年生	7
49	12月8日	大里・西尾	民俗	ワラ細工	福島県立会津支援学校	小学部6年生	6
50	12月11日	大里・山口・西尾	民俗	ワラ細工	福島県立会津支援学校	高等部1年生	6
51	12月13日	筑波	災害	なぜ、県立博物館が震災資料の収集に取り組むのか	福島県立南会津高等学校（田島）	1年生	46
52	12月18日	吉田	自然	いわき市アンモナイトセンター主催講演会「恐竜は鳴く～なぞの骨の正体を探る～」	いわき市立久乃浜中学校 いわき市立久乃浜第一小学校 いわき市立久乃浜第二小学校 その他、一般市民（いわき市立久之浜中学校）	（中学校）1年生（第一小）6年生（第二小）5・6年生	59

No.	月日	講師	分野	演題・内容等	実施先	対象	受講者数
53	1月12日	大里・山口・西尾	民俗	会津の食文化	福島県立会津支援学校	高等部3年生	12
54	1月22日	大里・西尾	民俗	姿を変える大豆 (大豆を石臼で挽いて黄粉をつくる)	福島県立会津支援学校	小学部5年生	4
55	1月24日	吉田	自然	地学基礎「地球の歴史」単元の内容深化、研究者からの話によるキャリア学習	福島県立南会津高等学校(南郷校舎)	2年生	16
56	2月2日	筑波・鈴木	災害	自然と防災 自然災害への備え	福島県立小高産業技術高等学校	2年生	118
57	2月9日	筑波・鈴木	災害	防災教育講座	猪苗代町立猪苗代中学校	2年生	109
58	2月20日	筑波	災害	「震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業」トークセッション	福島県立南会津高等学校	1・2年生	96
59	2月20日	筑波・鈴木	災害	防災教育講座	会津若松市立北会津中学校	2年生	49
60	2月27日	筑波・鈴木	災害	防災教育講座	会津若松市立第五中学校	2年生	134
61	2月28日	西尾	民俗	読み聞かせ/協働(読み聞かせ:お話の部屋)お雛様づくり	福島県立会津支援学校	小学部1年生	12
62	3月15日	筑波・鈴木	災害	防災教育講座	会津若松市立第二中学校	2年生・3年生・保護者	241
受講者合計							3,956

ク. 職場体験

児童・生徒の進路意識の向上や職業観・勤労観の育成に寄与すべく、職場体験を受け入れている。令和5年度は7校からの要請があり、当館における業務を幅広く体験してもらった。また、福島県立会津支援学校高等部生徒については、清掃員・清掃会社の協力のもと清掃業務の体験をした。

○受け入れ実績(生徒のみ)

- ・福島県立会津西陵高等学校
(2年生:1名) 2日間
- ・会津若松市立大戸中学校
(2年生:1名) 1日間
- ・福島県立若松商業高等学校
(2年生:3名) 3日間
- ・会津若松市立北会津中学校
(2年生:1名) 2日間
- ・金山町立金山中学校
(3年生:1名) 1日間
- ・会津若松市立若松第三中学校
(2年生:3名) 2日間
- ・福島県立会津支援学校
(高等部:10名) 1日間×2回

ケ. 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習を実施している。実習の受入対象者の条件は、従前の(1)県内所在の大学に在籍する学生、(2)福島県出身の学生に加え、令和3年度より

(3)(1)・(2)以外で当館の使命に共感し当館での実習を強く希望する学生という条件を新規に設けた。令和5年度は(2)、(3)の条件に当てはまる学生8名を受け入れた。演習では、「福島県立博物館で現代を展示すること」について考え、「福島県立博物館の来館者に現在や未来に向かい合う場となる展示室を企画し、展示模型を制作する。」というテーマで展示模型を作成した。また、グループごとに作成した展示模型をもとに、展示室の企画の意図や工夫点をまとめ当館の学芸員に向けプレゼンテーションを実施した。

実習期間 8月29日(火)～9月3日(日)

実習生所属大学一覧

No.	大 学 名	人数
1	新潟大学	1
2	米沢女子短期大学	1
3	大正大学	1
4	駒沢大学	1
5	都留文科大学	1
6	富山大学	1
7	同志社大学	1
8	石巻専修大学	1
合 計		8

福島県立博物館 令和5年度博物館実習日程・内容

月日	時 間	内 容	担 当	場 所
8月 29日 (火)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	実習担当	第2会議室
	9:00～ 9:10	実習生紹介	実習担当	事務室
	9:10～ 9:40	オリエンテーション	実習担当	第2会議室
	9:50～10:30	福島県立博物館の概要	副館長心得兼学芸課長	第2会議室
	10:40～11:10	博物館の企画運営・展示	展示企画班	第2会議室
	11:10～11:40	博物館資料の収集と保管・調査研究	資料情報班	第2会議室
	11:40～12:00	常設展・企画展の見学	実習担当	展示室
	— 昼 食 —			
	13:00～13:30	博物館の広報・情報発信について	普及発信班	第2会議室
	13:40～14:10	新たな博物館の役割・機能について	連携協働班	第2会議室
	14:20～15:10	震災遺産について	災害分野（筑波・鈴木）・震災遺産T	第2会議室
	15:20～16:30	演習	実習担当	第2会議室
	16:40～17:00	実習日誌の作成・提出	実習担当	第2会議室
30日 (水)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	実習担当	第2会議室
	9:10～10:00	施設・設備（バックヤード等）の見学	実習担当	バックヤード
	10:10～12:00	資料の保存	保存科学分野（杉崎）	実習室
	— 昼 食 —			
	12:00～13:00			
	13:00～15:00	美術資料の取り扱い	美術分野（小林めぐみ・塚本・川延・小林美夏）	第2会議室
	15:10～16:30	演習	実習担当	第2会議室
31日 (木)	16:40～17:00	実習日誌の作成提出	実習担当	第2会議室
	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	実習担当	第2会議室
	9:10～10:00	図書資料の取り扱い	長澤・相田	図書室
	10:10～12:00	自然資料の取り扱い	自然分野（猪瀬・吉田・相田）	実習室
	— 昼 食 —			
	12:00～13:00			
	13:00～15:00	考古資料の取り扱い	考古分野（高橋満・山本・平澤・田中）	第2収蔵庫・写真室
9月 1日 (金)	15:10～16:30	演習	実習担当	第2会議室
	16:40～17:00	実習日誌の作成提出	実習担当	第2会議室
	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	実習担当	第2会議室
	9:00～11:00	民俗資料の取り扱い	民俗分野（大里・山口・西尾）	荷解き場・第1収蔵庫
	11:10～12:00	演習	実習担当	第2会議室
	— 昼 食 —			
	12:00～13:00			
2日 (土)	13:00～15:00	歴史資料の取り扱い	歴史分野（栗原・渡邊・副館長）	第2会議室
	15:10～16:30	演習	実習担当	第2会議室
	16:40～17:00	実習日誌の作成提出	実習担当	第2会議室
	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	実習担当	第2会議室
	9:10～12:00	演習	実習担当	第2会議室
	— 昼 食 —			
	12:00～13:00			
3日 (日)	13:00～16:30	演習	実習担当	第2会議室
	16:40～17:00	実習日誌の作成提出	実習担当	第2会議室
	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	実習担当	第2会議室
	9:10～12:00	演習	実習担当	第2会議室
	— 昼 食 —			
	12:00～13:00			
	13:00～16:00	まとめ ※15:30～16:00発表予定	実習担当・筑波・栗原・参加可能な学芸員	第2会議室
	16:00～16:30	講評	実習担当	第2会議室
	16:40～17:00	実習日誌の作成提出	実習担当	第2会議室

(5) 生涯学習・研究支援・家庭教育

ア. 図書コーナー

図書コーナー(旧相談コーナー)は、エントランスホールの一隅に設置され展示図録・報告書・紀要など当館の出版物、および博物館資料に関連した図書を排架している。図書は図鑑・事典類、調べ学習への対応、見て楽しむ本の3項目を重視して選定し、来館者が自由に閲覧できる。また学芸員が来館者からの質問や相談に答えたり、来館者が自発的に学習したりするためのスペースとしている。

イ. 資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、博物館資料の閲覧や撮影を許可し、実施している。

分野別特別観覧件数：

考古：11件22点 歴史：17件 198点
民俗：5件66点 美術：3件 10点
自然：1件 1点 計 37件 297点

ウ. 講師派遣

大学や公民館、研究団体などからの依頼に応じて、学芸員を講演会や講座に講師として

派遣している。

令和5年度の派遣回数は17回で、参加者は655人であった。

エ. 子育て世代対応事業

子育て世代に安心して博物館を利用していただけるよう、親子で参加できるプログラム「博物館でもよみきかせ」「こどもミニミニはくぶつかん」を開催している。令和5年度は本事業を他団体との協働による事業として実施した。協働の団体として、地域の読み聞かせの団体の会員、連携している会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科の先生と学生、会津大学コンピューター理工学部 of 先生・学生と事前の打合せと事後の振り返りの時間を確保し、丁寧に意見交換をしながら実施にあたった。

「博物館でもよみきかせ」は5月から12月までに8回実施し、参加者はのべ123人であった。

「こどもミニミニはくぶつかん」は5月、8月、1月に3回5日間実施し、参加者はのべ634人であった。

講師派遣一覧

No.	月 日	講 師	分野	演 題 ・ 内 容 等	主 催	参加者
1	5月14日	高橋満	災害	震災遺構「富岡町災害対策本部跡」を考える	とみおかアーカイブミュージアム	44
2	5月28日	猪瀬	自然	ワークショップ「アンモナイトの名前をあてよう！入門編」	南相馬市博物館	8
3	6月10日	筑波匡介	災害	コア・アクティブ科目講義	福島大学	17
4	7月8日	筑波匡介	災害	コア・アクティブ科目講義	福島大学	19
5	8月26日	筑波匡介	災害	第3期防災教育コーディネーター養成塾	公益社団法人中越防災安全推進機構 地域防災力センター	16
6	8月31日	高橋充	歴史	教養部研修会「鶴ヶ城について」	会津若松市区長会	16
7	9月1日	高橋充	歴史	三十三観音霊場へのあこがれ	極上の会津プロジェクト協議会	46
8	9月1日	高橋充	歴史	江戸時代の猪苗代	猪苗代町教育委員会	30
9	9月8日	高橋充	歴史	蒲生氏郷の人物像とまちづくりについて・神田万世橋教室	会津若松市ルネッサンス協議会・大人の休日倶楽部	40
10	10月14日	高橋満	考古	三貫地貝塚里帰り展展示解説	新地町	82
11	10月19日	高橋充	歴史	中近世の二本松城について	福島県教育委員会・公益財団法人福島県文化振興財団	81
12	10月24日	筑波匡介	災害	防災ワークショップ	猪苗代町ボランティア連絡協議会	36
13	11月4日	高橋充	歴史	中世の会津ーそこにはいつも戦いがあったー	会津坂下町教育委員会	40
14	12月3日	吉田純輝	自然	丹波竜フェスタ2023「次世代古生物学者が語る！地域の恐竜化石調査・研究」	丹波市	60
15	12月6日	吉田純輝	自然	「恐竜博士になろう」(会津若松市生涯学習センター)	会津若松市生涯学習総合センター	30
16	12月18日	吉田純輝	自然	「恐竜は鳴く？～なぞの骨の正体を探る～」	いわき市アンモナイトセンター	59
17	1月27日	山本俊	考古	文化講演会「縄文時代からの遺物採集家の生涯ー好古の人・丹野狄仙ー」	相馬郷土研究会	31
参加者数合計						655

(6) 動画の制作と配信

前年度に引き続き、自宅でも楽しみながら学べる機会を提供しようという狙いのもと動画の制作を行い、YouTube公式チャンネルにアップロードし、WebサイトやSNSで公開情報を発信した。

特別講座「詩人のいる博物館」の記録動画では、詩人である和合亮一さんをホストに、写真家・詩人・小説家と様々なジャンルのゲストをお招きし実施した対談を収録し、公開した。そのほか、「三の丸からプロジェクト 若松城下まちなか連携事業」会津ものづくりイベント（作成：文化庁）を公開した。

YouTube当館公式チャンネルでは、令和5年度中に5本の動画を公開、チャンネル登録数は年度末までに461人、令和5年度の合計視聴回数は12,591回であった。

(7) 博物館友の会活動への支援

当館は、福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して広報紙「なじよな」の送付、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等、研究活動の支援などを行っている。

ア. 友の会の概要

①発足 平成元年3月10日

②設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

③総会の開催

会計年度の期間が変更されたことにより、令和5年度の事業・会計決算報告と令和6年度の事業・予算案を審議する総会は、令和6年4月14日(日)に開催されることとなった。

④令和5年度会員数

個人会員：137 家族会員：34

高校生会員：0 賛助会員：3 合計：174

イ. 令和5年度事業概要

(ア) 講演会等の開催

○講演会の開催

①演 題：「平安時代の会津の仏像」

日 時：令和5年4月9日(日)

13:30～15:30

講 師：若林繁（元東京家政大学教授）

会 場：博物館講堂

来場者：73名

②演 題：「恐竜の声がかきこえる? ～福島県博から恐竜研究の最前線へ～」

日 時：令和5年12月17日(日)

13:30～15:30

講 師：吉田純輝（当館学芸員）

会 場：博物館講堂

来場者：51名

(イ) 研修旅行

今年度の研修旅行の実施は見送られた。

(ウ) 会報の発行

友の会会報第130号・第131号を発行し会員に配布した。総会の総括、企画展内覧会に参加された会員からの感想、サークルの紹介等を掲載した。また、講演会では時間の都合もあり寄せられた質問全てに答えることができなかったため、前年度に引き続き誌上での回答を行った。

(エ) 博物館事業への協力

○博物館展示観覧

○友の会会員向け企画展内覧会への参加

4月28日(金)「Go! Go! 5世紀－東北地方中・南部の古墳文化－」 12名参加

7月14日(金)「仕事の仕事をしている仕事－福島のものづくりと民藝－」 17名参加

10月6日(金)「伝える 災害の記憶－あいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料－」

16名参加

○博物館講座への協力

博物館の各種講座へ多くの会員が参加した。

ウ. サークル活動

化石・鉱物探検隊、古文書愛好会、考古学倶楽部、仏像に親しむ会の4サークルが、それぞれの目的に向かって積極的に活動している。サークルごとに主体的に計画し、自立した活動を行っている。

1. 化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークルで、自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成11年に設立された。会員数40名。野外での巡検や化石・鉱物の採集、研修会等の活動を行っており、博物館の行事にも随時協力している。

令和5年度は全6回の野外活動（化石・鉱物の観察活動）のほか、「化石標本をつくろう」といったイベントを博物館で開催するなど、館と連携した活動を精力的に行った。

2. 古文書愛好会

平成14年度に発足した古文書愛好会は随時13名が参加し、A～Dの4班編制で古文書の解説・考察にあたり、順番に発表を行う形で学習活動が続けてきた。テキストは当初から県指定文化財の築田家文書（福島県立博物館寄託）を用いている。築田家は江戸時代に若松城下の検断（町役人）を務めた家で、伝来した文書は城下の様子を伝える良質な資料であるため、解説を通して少しずつ会津藩の歴史についての知見が深めている。

令和5年度は前年度から引き続き「大町に関する書上」の解説を行った。活動は月1回・第二土曜日の午前中に開催し、班ごとに順番に発表を行い、毎回最後に文字・内容の確認を行った。

て、博物館での展示見学や関連する美術講座への参加、会員各自の興味関心や学習成果を発表する勉強会を組み合わせる形で活動を行った。

3. 考古学倶楽部

本会は、考古学に興味をもつ友の会会員が集うサークルで、研修会や遺跡の見学会、考古学関連の展覧会の見学などの事業をとおし、会員相互の親睦を図るとともに、博物館事業にも協力することを目的に、令和3年4月に発足した。

令和5年度に実施した主な事業は以下のとおりである。

- ・5月6日 企画展「Go! Go! 5世紀」展示解説会
- ・10月20日 山形県立博物館、山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館見学
- ・11月4日 展覧会「奥会津の縄文（三島町会場）」見学
- ・10月1日 やないづ縄文館・三島町交流センター山びこ・埋もれ木出土地見学
- ・11月18日 研修会「考古学入門 ようこそ考古学の世界へ」学芸員による講話
- ・11月19日 常設展考古学展示の解説・質疑応答
- ・12月16日 研修会「考古学から探るふくしまの歴史 古墳時代編」学芸員による講話
- ・令和6年3月9日 総会

4. 仏像に親しむ会

県内の仏教文化、特に仏像に関心をもつ会員によって、令和3年度から活動を開始。令和5年度の会員は11名。会津地域を中心に寺院を訪れての仏像見学を全6回行う。併せ

6. 広報公聴活動および出版事業

(1) 広報活動

ア. 広報用印刷物

博物館の広報を目的とする印刷物として次のものを発行している。

令和5年度は、広報紙「なじよな」について、特別号、4～6月号(15号)、7～9月号(16号)、10～12月号(17号)、1～3月号(18号)を発行した。年度当初の特別号では、イベン

トについての年間案内とした。通常号では、展示やイベントの案内の他、子ども向けの連載など、より親しみやすい紙面をめざした。

年間催し物案内は、令和5年度企画展の注目される資料をワンポイントとしてあしらい、目を引き、かつ見やすいデザインを心掛けた。

福島県立博物館 令和5年度 広報用印刷物の印刷部数と送付先

種 類	サイズ	印 刷 数	主な送付先
ポスター	B2	企画展「仕事の仕事をしている仕事ー福島のものづくりと民藝ー」 2,500枚 企画展「伝える 災害の記憶ーあいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料ー」 2,600枚 次年度企画展幕末明治の浮世絵百年ー大江戸の賑わいー」 2,500枚	県内小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 博物館友の会会員(町貼り協力者) 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
リーフレット	A4	企画展「仕事の仕事をしている仕事ー福島のものづくりと民藝ー」 35,000枚 企画展「伝える 災害の記憶ーあいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料ー」 64,000枚 次年度企画展「幕末明治の浮世絵百年ー大江戸の賑わいー」 40,000枚	仕事の仕事をしている仕事ー福島のものづくりと民藝ー」 35,000枚 企画展「伝える 災害の記憶ーあいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料ー」 64,000枚 次年度企画展「幕末明治の浮世絵百年ー大江戸の賑わいー」 40,000枚
新広報物『なじよな』16号～19号・2024特別号	A2 4つ折り	20,000枚×5回=100,000枚	県内の放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内私立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
年間催し物案内	22.0×40.0cm 観音折り	45,000枚×1回=45,000枚	県内の放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内私立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
プレス・リリース(企画展の記者発表などマスコミ向けイベント情報の提供)	A4 (館内印刷)	随時	県内新聞社・放送局・タウン情報誌 場合により近県のマスコミに提供 県政記者クラブ 会津若松市記者クラブ

イ. 広 告

特に企画展等の広報を目的とする広告を次のとおり実施した。

広告掲載一覧

展示会	看板（駅前・博物館周り）	新 聞・その他
春の企画展「Go! Go! 5世紀―東北地方中・南部の古墳文化―」	○	—
夏の企画展「仕事の仕事をしている仕事―福島のものづくりと民藝―」	○	—
秋の企画展「伝える 災害の記憶―あいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料―」	○	—
次年度春の企画展「幕末明治の浮世絵百年―大江戸の賑わい―」	—	福島民報、福島民友（R6, 3/27）

ウ. マスコミ向け広報活動

記者クラブへの投げ込みと、マスコミ関係の希望者に向けたニュースメール配信を不定期で行っている。

記者クラブへの投げ込みでは、会津若松市記者クラブ加盟社のほか、県教育委員会（教育庁）社会教育課と連携して県政記者クラブ加盟社に向けた情報発信を行っている。ニュースメールでは、新聞やテレビ等マスコミ関係の配信希望者約35名に情報メールを配信している。

内容は、企画展の内覧会情報やイベント開催情報をはじめ、学芸員の研究成果の周知等であり、記者会見も1回実施した。

令和5年度は投げ込みを6回、ニュースメール配信を5回行い、ほぼ毎回新聞やテレビ等の取材につながっている。

数は67回（前年度より347件減少）、フォロワー数は1,458件（同39件増加）であった。Twitterの投稿件数は156件（前年度より202件減少）、フォロワー数は2,915件（同218件増加）であった。

カ. 記事・放映

当館では、令和元年7月より、喜多方シティーエフエム株式会社との協力によりラジオ番組「けんぱく徒然語り」を放送。毎週日曜日9時～9時30分の30分番組として、福島県立博物館からのおすすめの情報、福島に関することなどを学芸員やテーマに応じた特別ゲストとご紹介している。令和5年度は、85回の放送を行った。

また、新聞・雑誌・テレビ・ラジオ・インターネット等の取材に基づいた記事・放映等は次のとおりである。

エ. ホームページ

当館ではホームページ（<https://general-museum.fcs.ed.jp/>）を開設し、館の紹介をはじめ、展示やイベントなどの各種情報、出版物の案内などを発信している。

オ. ソーシャル・ネットワーキング・サービス

当館ではより身近で親しみやすいかたちでの広報活動を目指し、ソーシャル・ネットワーキング・サービスを活用した広報を行っている。平成27年度末（3月25日）より「Facebook（フェイスブック）」の公式ページ（<https://www.facebook.com/fukushimamuseum/>）を公開しているほか、平成30年7月4日から「Twitter（ツイッター）」の公式ページ（<https://twitter.com/fukushimamuseum>）を公開した。

令和5年度末時点でのFacebookの投稿件

（ア）春の企画展「Go! Go! 5世紀―東北地方中・南部の古墳文化―」関連

- ・福島民報／「東北の古墳文化」きょうから企画展 県立博物館（4月29日記事）
- ・福島民友／東北の古墳文化紹介 県立博物館 春の企画展（4月30日記事）
- ・NHK／会津若松の県立博物館 古墳文化を紹介する企画展（5月9日放映）
- ・ラジオ福島／レディ・オン内コーナー「おらが町のふるさとリポーター」（5月26日放送）

（イ）夏の企画展「仕事の仕事をしている仕事―福島のものづくりと民藝―」関連

- ・NHK／地方ニュース（7月22日放映）
- ・河北新報／ものづくり手仕事の美 福島県立博物館 9月24日まで企画展（7月30日記事）
- ・読売新聞／地方版「民芸運動の日用品展示

会津若松 手仕事の魅力伝える」(8月18日記事)

(ウ) 秋の企画展「伝える 災害の記憶ーあいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料ー」関連

- 河北新報／災厄の歴史と教訓学ぶ (10月19日記事)
- 河北新報／東北の美術館・博物館 (10月26日記事)
- 福島民報／災害の記憶わが事に 錦絵、コロナ資料並ぶ (10月29日記事)

(エ) 冬の特集展「古い道具と昔の暮らし～今の生活と比べてみよう～」関連

- 福島民報／昔の冷蔵庫や電話並ぶ 県立博物館が冬の特集展 (1月16日記事)
- 福島民友／生活道具の変遷紹介 県立博物館「冬の特集展」(1月23日記事)
- 読売新聞／会津若松で生活道具紹介 高度成長期前 暮らし知る (1月23日記事)

(オ) 移動展「アンモナイト合戦in南相馬」関連

- 福島民友／アンモナイトの謎と魅力紹介 南相馬で県立博物館移動展 (4月23日記事)
- 福島民報／アンモナイトの生態知って 南相馬 県立博物館移動展が開幕 (4月23日記事)
- 読売新聞／地方版「世界のアンモナイト集合」(4月25日記事)
- NHK／地元で見つかったアンモナイトの化石などの企画展 南相馬 (5月7日放映)

(カ) 調査研究

- 福島民友／社説 県立博物館の研究 (4月19日記事)
- Focus (伊メディア)／世界初！恐竜の喉化石 (6月記事)
- テレビ朝日／サンドウィッチマンと芦田愛菜の博士ちゃん (7月29日放映)
- BSフジ／ガリレオX 第229回「骨の声を聞く」(9月24日放映)
- 全国学童保育連絡協議会／月刊「日本の学童ほいく」4月号
- 毎日新聞／地方版「国内初のオウムガイ類」(2月1日記事)
- テレビユー福島／Nスタ (2月1日放映)
- 読売新聞／地方版「オウムガイ2種 日本初」(2月1日記事)

- 福島民報／国内初オウムガイ化石 (2月1日記事)
- 福島民友／南相馬にオウムガイ化石 (2月1日記事)
- 福島民友／若松と南相馬で展示開始 (2月2日記事)
- 河北新報／南相馬で発掘のオウムガイ化石2種 太平洋西部で初発見 (2月2日記事)
- 福島中央テレビ／ゴジテレChu (2月2日放映)
- 毎日小学生新聞／1億4500万年前のオウムガイ2種類を発見 (2月3日記事)
- NHK／国内最大級 オウムガイの化石 福島 南相馬で見つかる (2月7日記事)

(キ) その他

- 福島中央テレビ／ゴジテレChu告知コーナー (5月11日放映)
- 福島民報／資料から見る震災対応 (5月16日記事)
- 福島民友／会津ものづくり文化発信 県立博物館マルシェ (5月22日記事)
- 福島民報／会津磐梯山盆踊り参加を (8月11日記事)
- 福島民友／地域ワイド イベント告知コーナー (8月13日記事)
- 福島民報／夏の風物詩楽しむ 若松で磐梯山盆踊り (8月18日記事)
- 読売新聞／イベント紹介 (12月21日記事)
- 福島民報／園児制作の埴輪や絵並ぶ 県立博物館 26日まで作品展 (1月19日記事)
- 読売新聞／イベント紹介 (1月25日記事)
- 福島民友／どこいこ (1月26日記事)
- 福島民友／感性光る作品並ぶ 会津支援学校成果展 (2月22日記事)
- 福島民報／ワークショップ2つの成果展示 来月10日まで県博 (2月23日記事)
- NHK／「はまなかあいづtoday」被災した経験はないけれど、震災の伝承に取り組む教師 (3月4日放映)
- 河北新報／災害を伝えるカタチ 震災13年・東北の文化人 防災教育に遺産を活用 (3月12日記事)

(2) 公聴活動

常設展アンケートは、前年度の調査をもとに三の丸プロジェクト・まちなか連携事業と関連する項目を新設し、企画展アンケートを統合して実施している。年間を通じての項目ごとの傾向分析のほか、自由記述欄についてはテキスト

マイニングなどを参考に結果を分析し、事業の改善に努めている。また、外国からの来館者からも英語表記のシートを用意しアンケート調査を行った。また、各分野で行う講座・それぞれのイベント等でもアンケートを行いより良い運営のための参考としている。

令和5年度 アンケート実施事業一覧

常 設 展	
企 画 展	Go! Go! 5 世紀
	仕事が仕事をしている仕事
	伝えるー災害の記憶ー
講 座	特別講座
	歴史講座
	保存科学講座
	美術講座
	自然史講座

(3) 出版事業

令和5年度は次の出版物を刊行した。

ア. 企画展図録

Go! Go! 5 世紀 1,500冊
仕事が仕事をしている仕事 1,200冊

イ. 紀要

福島県立博物館紀要 第36号 500冊

ウ. 年報

福島県立博物館年報 第37号 400冊

7. 福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業「三の丸からプロジェクト」

福島県立博物館では、文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律に基づき、福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業「三の丸からプロジェクト」に取り組んでいる。

(1) 事業の概要

ア. 事業の趣旨・経緯

令和2年5月1日に施行された文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律に基づき、文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光を推進する拠点計画及び地域計画の認定が行われた。当館では、共同申請者と共に「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」を策定、申請し、令和2年11月18日に認定を受けた。同計画は、「会津のSAMURAI文化エリア（若松城跡）」「若松城下の商工文化エリア（会津若松市街地）」「雪国のくらしとものづくり文化エリア（奥会津）」の3つのエリア周遊を実現することにより、質の高い文化観光を提供しようとするものである。同計画の実現のため、令和2年度から5ヶ年にわたって「福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業『三の丸からプロジェクト』」を実施することとなった。

イ. 組織

1. 申請者：福島県（福島県立博物館）
2. 共同申請者：
会津若松市、一般財団法人会津若松観光ビューロー、公益財団法人福島県観光物産交流協会（地域連携DMO）、会津若松商工会議所、只見川電源流域振興協議会

ウ. 助成

令和5年度文化芸術振興費補助金（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業）

(2) 事業内容

ア. 文化資源磨き上げ事業

3エリア周遊のための文化資源の調査・撮影等調査を実施した。撮影については、当館が収蔵する文化資源の撮影（デジタル化）を「若松城下絵図・追鳥狩図屏風」「大川・只見川図巻」（国重文）を対象に実施した。

また、当館がかつての若松城三の丸に建っていることを来訪者が実感し、本事業の目的である若松城址の周遊へ誘う動機付けとするために、地中に眠る若松城堀跡の堀幅の広さ

が際立つような外構展示の設置を計画し、外構展示のための基礎データ収集のため、地中レーダー探査を実施した。

イ. 体験型プログラム提供事業

武家文化を鑑賞・体験する4つのプログラム（七絃琴、茶道、刀剣取り扱い、能楽）を実施した。今年度は新たに会津藩にゆかりのある浦上玉堂や会津藩士がこよなく愛した七絃琴の実演・演奏体験を取り入れることで、より会津に特色ある武家文化体験とすることができた。体験の内容に合わせて博物館収蔵品を活用した展示や空間演出を行い、博物館ならではの体験を提供した。

ウ. 若松城下まちなか連携事業

令和4年度に整備した分野別展示室（民俗）「雪国のくらしとものづくり」、夏の企画展「仕事が仕事をしている仕事」と連動し、会津若松市街地に点在する商工文化を伝える歴史的建造物で連携展示（4～5月と7～8月に開催、共通テーマ「雪国のくらしとものづくり」）及び連携イベント（8月開催、共通テーマ「会津ものづくりめぐり」）を各会場で開催した。4～5月の連携展示は末廣酒造嘉永蔵、会津塗伝承館鈴善漆器店、竹藤（いずれも国登録有形文化財）を、7～8月の連携展示は福西本店、会津塗伝承館鈴善漆器店を会場とした。4～5月の連携展示ではスタンプラリーを実施し、周遊を促進するとともに周遊効果の検証を行った。連携イベントは末廣酒造嘉永蔵、竹藤を会場とし、開催後も会津を訪れる動機付けとなるよう動画を作成し福島県立博物館のYoutubeで公開した。

また、会津のものづくり（会津木綿、会津本郷焼、会津塗、野鍛冶）を博物館ならではの視点で紹介する冊子を作成した。ものづくりの歴史や背景、作り手の思いを親しみやすく紹介し、読者に会津のものづくりの魅力や文化的価値を伝えるとともに、それぞれの工房への周遊を促す内容とした。

エ. 多言語化事業

分野別展示室の展示解説の多言語化、英語、中国語（簡体字・繁体字）原稿作成を行った。多言語化の実施は令和3年度以降と同じく観光庁の「HowTo多言語解説文整備」

に基づき、執筆・編集・校正・監修の各段階を別々のネイティブライター等専門人材を配置して行った。資料キャプションや資料解説が単純な翻訳にならないようにするため、ライターの現地取材時には、学芸員が小テーマ解説と資料キャプションの階層性を意識したレクチャーも行い、インバウンドを含む外国語ユーザーへの分かりやすい多言語解説を提供した。多言語化したデータは情報通信環境整備で活用した。

また、インバウンドや国内に居住する外国語ユーザーへの体験型プログラムの提供により三つの周遊エリアへの周遊を促すため、パンフレット用の原稿整備を進めた。今年度は、3エリアのうち「会津のSAMURAI文化エリア」、「雪国のくらしとものづくり文化エリア」および「三の丸からプロジェクト概要」「福島県立博物館の基本情報」「周遊エリア地図（地図への記載事項）」について、英語、中国語（簡体字・繁体字）の3言語で多言語解説文を整備した。整備した原稿は、令和6年度以降WEBでの活用・公開を予定している。

オ. ツアー造成事業

「雪国のくらしとものづくり」「会津のSAMURAI文化」をテーマにツアーコンテンツを開発し、共同申請者である一般財団法人会津若松観光ビューローから旅行商品として販売を行った。「ものづくり」では、雪国ものづくりマルシェと市内の工房めぐりをコンテンツとしたが、最小催行人数に達しなかったため実現に至らなかった。「SAMURAI文化」では、当館と共同申請者が名勝「会津松平氏庭園（御薬園）」を活用するコンテンツを開発した。当館では、県内文化施設の協力のもと閉館後にチェンバロコンサートを開催。収蔵絵画の前での演奏と、学芸員による解説を行い、桃山時代に親しまれた音楽と絵画を味わう特別な時間を創出した。「会津松平氏庭園（御薬園）」でも閉園後のライトアップされた空間で、建物・庭園の歴史的・文化的価値、魅力を引き出すダンスパフォーマンスを実施した。

実効性と継続性の高い3エリア周遊のためのツアーコンテンツ開発、運用、拠点整備のために、共同申請者及び周遊拠点の担い手とともに文化観光に取り組む他地域の先進事例である富山県南砺市の「Bed and Craft」、長野県木曽・奈良井の取り組みを視察した。また、両者を会津若松に招き、共同申請者、も

のづくりに携わる関係者、宿泊施設・飲食店等の運営者参加のもと勉強会を実施し、コンセプトや運営方法を学んだ。

また、3エリア周遊の促進のため、各エリアの特色や魅力、文化財・史跡等の活用のイメージを共有・定着するためのツアープロモーション映像を作成した。



チェンバロコンサート

カ. 利便性向上事業

（ア）情報通信環境整備

一般的なWebブラウザで閲覧できる情報ビューワー「VRナビゲーションけんぱくん」を整備した。来館者の個人端末（スマートフォン・タブレット等）上でVRによる展示観覧を可能とし、見たい資料の多言語（※日本語・英語・中国語（簡体字、繁体字）の4言語）解説文へ、感覚的な操作でアクセスすることができる。また、言語での伝達のみにとどまらず、道具の使用方法のバントマイム動画（非言語的手段）による解説など、よりユニバーサルな利用を想定したコンテンツを試行的に組み込んだ。あわせて、福島県立博物館を代表する資料（人物埴輪等）数点について3D画像コンテンツを実装し、ビューワー上で360度全方向からの鑑賞を可能とした。このシステムは常設展示室内（有料空間）のみで閲覧できる仕様とし、専用アクセスポイントの整備作業を行った。

（イ）環境整備

福島県立視覚支援学校と福島県点字図書館、視覚障がい者団体に令和4年度に作成した視覚支援カード「さわって観るてんじカード」を利用いただき、そこで出た意見をもとに令和5年度に拡充するカード3枚の内容、形式を検討し、令和4年度に作成した6枚と連続性を保ちつつさらに効果の

高いものに仕上げる事ができた。また、カードによる解説と触れる資料との組み合わせによる理解向上をめざし、令和4年度に作成したカードを補強するハンズオン資料（アームストロング砲の縮尺模型と砲筒模型）を作成した。

令和4年度までの試行の改善点を踏まえ、来館が困難な層の観覧や海外・県外からの観光への導入を目的に、テレプレゼンスロボットによる遠隔観覧を実施し、常置した場合の運用方法や有料化する際の制度設計について検討を行った。

視聴覚障がい者の観覧をサポートするために、学芸員・解説員など障がい者に接する機会がある者を対象に視聴覚障がいへの理解を深める研修を実施した。

キ. 周遊促進事業

(ア) レストラン

令和3年度・4年度に行った展示空間・販売ブースの整備、会津のものづくりの歴史、伝統的技術や素材、工程がわかるカタログや器の整備、会津の食材や伝統食に精通した識者によるメニュー（動物性製品使用メニュー、ヴィーガンメニュー）の考案結果の活用実走として、7月下旬に「雪国ものづくり食堂 つきない」としてリニューアルオープンし、空間全体が食を通して「若松城下のものづくり」「雪国のものづくり」を体感できる場として提供を開始した。

また、「雪国ものづくり食堂 つきない」に設けた物販コーナーの活用促進のため、博物館活動の成果を活かした「食」と「ものづくり」のオリジナルグッズの開発を行った。文化観光コーチングにより「若松城下のものづくり」「雪国のものづくり」に関わる製造事業者、当館職員・学芸員を参加者とするワークショップを実施し、販売するのに適した商品のアイデアを集めた。その結果を受け協議を重ね、三の丸からプロジェクトで取材撮影した「若松城下のものづくり」「雪国のものづくり」のものづくりの手と「食」に関わる館蔵資料「蔬果図」（室町時代、雪村周継筆）を会津ゆかりのアーティストがリデザインした「オリジナルカップ」と「オリジナルふきん」の試作を行った。製作したオリジナルグッズの試作は、アーティスト、製造事業者等と検証し、商品化するための手法や製作コスト等を検討した。

(イ) 雪国ものづくりマルシェ

春秋2回のマルシェを各2日間、出店者公募により実施した。当館前庭および「雪国ものづくり広場なんだべや」、エントランスホールを会場に、会津漆器、会津木綿、会津本郷焼、編み組細工、からむし、その他ものづくり製品等、若松城下や奥会津のものづくりの販売ブース、会津のものづくりを体験できるワークショップブース、会津の農産物やそれらを用いたフード、会津の地酒や地ワインを販売する食ブースを設け、食も含めた会津のものづくりを堪能できるマルシェとした。また、共同申請者との連携により、出店者公募の呼びかけや広報、東山芸妓の芸を紹介するイベントなどを実行した。

開催前には、運営委託業者、出店者、ワークショップ講師、当館とで打合せを行ない、「雪国ものづくりマルシェ」のコンセプトを共有し、これまでの開催で見えてきた運営の改善点について検討した。開催後には同メンバーで振り返りを行い、来場者の反応や成果・課題について検証するとともに、令和7年度以降の自走に向け運営方法等について協議を行った。

また、マルシェの周知を図るためプロモーション映像を制作し、効果的な広報につなげた。

ク. 国内外プロモーション事業

令和3・4年度に日本政府観光局（JNTO）の理事および地域連携部長に3つのエリア周遊を実見していただいていたアドバイスにより、会津観光を志向している層に向けて会津観光の玄関口となるJR郡山駅・会津若松駅で本事業をイメージづけるポスターの駅貼や、会津観光の主要な移動手段になっている公共交通機関において本事業の魅力を伝えるパンフレットの配布などを行った。

また地域DMO、地域連携DMOを含む共同申請者のSNSをツールとした発信を実施した。紙媒体と既存SNSを使ったターゲット層への発信は、3エリア周遊促進情報発信事業で共同申請者との連携により運営している「三の丸からプロジェクト」Webサイト（共同申請者・会津若松観光ビューロー運営「会津観光ナビ」内）に誘導し、詳細な情報や周遊の全体像を旅行者が入手できるウェブランディングを目指すものであり、3エリア周遊促進情報発信事業によるWebサイトの充実と連動しながら展開した。

加えて、JNTOに令和5年度のプロモーションの実施状況を説明の上、令和6年度以降の国内外へのプロモーションへの助言として「WEBによる国内海外プロモーション」についてのレクチャーを受けた。これにより、令和6年度以降に行う国内海外プロモーションの本格的発信の基盤を設けることができた。

ケ. 3エリア周遊につながるゲートウェイ機能のための展示室整備

常設展示室内の「総合展示室」と「分野別展示室」間の「展示ロビー」を、ゲートウェイ展示のコアゾーン「三の丸アベニュー」として整備した。

「三の丸アベニュー」には、江戸時代末期頃の若松城下の範囲をほぼ収めた約6 m×4 m大の縮尺ジオラマを造形した。「あいづスタジアム」と命名したジオラマは国土地理院の地形図情報をベースとし、地形強調補正を行なった地形モデル上に「嘉永安政年間記憶覚書」・「若松城下絵図屏風」等の絵画資料や文献資料及び発掘調査成果を根拠として城郭と街路や建造物、さらに河川・水路を落とし込み、幕末の若松城下の様子を1／700の縮尺で再現した。ジオラマにはプロジェクターを設置し、①「地形と城下の成り立ち」・②「戊辰戦争の会津籠城戦」をテーマとするプロジェクションマッピングを制作してジオラマ上に自動投影する仕組みを整えた。

ジオラマ周囲には模型解説・展示スペース・情報端末を組み込んだインフォメーションテーブルを配置し、若松城下の歴史や文化的な営みを来館者が理解することができる手立てとした。情報端末のコンテンツは「三の丸から攻める鶴ヶ城」・「お日市」・「若松の水と文化」のコンテンツ等の他、若松城下まちなか連携事業で作成した「会津ものづくりめぐり冊子」のダイジェスト版も配信した。これらのコンテンツはタッチパネル方式で選択して閲覧するもので、多年齢・多階層の来館者が楽しめるものとした。

展示スペースでは、関連する収蔵資料の他に伝統工芸品類や「雪国ものづくりレストランつきない」で販売するオリジナルグッズを展示する計画である。什器はジオラマの高さを低く抑え、車イスユーザーも観覧しやすいように配慮して製作し、適宜手すりを設けるなどとして安全な観覧環境を整備した。エントランスホール側から「三の丸アベニュー」へアプローチする動線上には当館が保管していた町木戸模型の部材を再利用して当時

の姿を原寸再現した。

「あいづスタジアム」に近接する壁面にはジオラマの根拠とした「若松城下絵図屏風」の画像を使用した「年表パネル」を作成し、ジオラマと参照できるようにした。また分野別展示室（民俗）の外壁部には奥会津地域のグラフィックマップ「いま・むかし奥会津めぐり」を造作して、展示室の内容を補完するものとして整備した。内部にはデジタルモニターを組み込み、令和5年度の文化資源磨き上げ事業で撮影した「大川・只見川図巻」や館蔵の昭和年間の古写真を動画的に配信し、分野別展示室（民俗）の整備コンセプトの一つである「感情移入」と「臨場感」をさらに増強する役割を果たしている。



あいづスタジアム

8. 地域連携とネットワークの拠点

福島県立博物館では、各種団体が主催する事業のうち、本県の文化・教育そして東日本大震災からの復興に寄与する事業に参画し、他機関と連携しながら活動を進めている。

(1) 福島県博物館連絡協議会

ア. 事業の趣旨・経緯

当会は、福島県内の博物館及びこれに準ずる施設が相互の連絡、協働によってその機能を強化し、地方文化の振興に寄与することを目的とするもので、昭和54年から活動している。設立時より福島県立博物館は事務局を務め、他館と連携しながら会の運営を担っている。

イ. 組織

1. 理事会 南相馬市博物館（会長）、福島県立美術館（副会長）ほか10館
2. 所属館 52館
3. 事務局 福島県立博物館

ウ. 事業内容

令和5年度は、下記の事業を実施した。

1. 理事会
 - 第1回理事会
実施日 令和5年6月29日(木)
会場 オンライン
 - 第2回理事会
実施日 令和5年3月27日(水)
会場 福島県立博物館
2. 総会
実施日 令和5年7月4日(火)
会場 福島県立博物館
3. 研修会・研究発表会
 - (1) 施設見学研修「奥会津文化施設連携企画展『奥会津の縄文』見学会」
実施日 令和5年10月26日(木)
会場 やないづ縄文館土器とくらしのミュージアム、やないづ町立斎藤清美術館、金山町歴史民俗資料館、東北電力奥会津水力館みお里
 - (2) 資料取扱研修「専門技術研修『博物館等の展示環境』講演と報告」
実施日 令和5年12月8日(金)
会場 福島県文化財センター白河館
講師 木下史青（東京国立博物館）、山口祐（福島県立博物館）、勝川若菜（福島県文化財センター白河館）

- (3) アクセシビリティ研修「博物館・美術館におけるアクセシビリティ向上にむけての研修会—誰もが訪れやすいミュージアムの仕組みづくり—」

実施日 令和6年2月1日(木)

会場 郡山市立美術館

ファシリテーター

梅田亜由美（エデュケイター）・高橋梨佳（NPO法人エイブル・アート・ジャパン東北事務局）

オブザーバー 石川信子・天水みちえ

4. 研究発表会

実施日 令和6年3月27日(水)

会場 福島県立博物館

発表者 猪瀬弘瑛（福島県立博物館）、菅野洋人（郡山市立美術館）、渡辺文久（いわき市石炭・化石館「ほるる」）

(2) 磐梯山ジオパーク推進事業

ア. 事業の趣旨・経緯

ジオパークとはヨーロッパで始まった地質や地形を見どころとする大地の公園。ユネスコが支援する活動となり、平成16年に世界ジオパークネットワーク（GGN）が設立、平成27年にはユネスコの正式な事業となった。

平成20年から有志により磐梯山地域をジオパークにしようとする運動が始まり、平成23年9月に、日本ジオパーク委員会により、磐梯山地域が日本ジオパークとして認定された。将来的には磐梯山地域が世界ジオパークに認定され、ジオパークとしての活動を継続していくことを目指している。令和3年度には再認定審査会が実施され、第44回日本ジオパーク委員会にて再認定となった。

当館は、ジオパークの拠点施設として磐梯山ジオパーク協議会設立当初から協議会に参画し、館の正式な連携事業と位置づけて進めている。

イ. 組織

福島県立博物館は、ジオパークの拠点施設として磐梯山ジオパーク協議会に参画し、連携事業として取り組んでいる。

磐梯山ジオパーク協議会は、行政団体とし

て磐梯山周辺の猪苗代町・磐梯町・北塩原村が中心となり運営し、福島県が支援している。これに3町村の商工団体と観光協会、ガイド団体などの民間団体、文化・教育施設が加わっている。事務局は3町村の商工観光課が中心となり、北塩原村自然環境活用センターに置かれている。

ウ. 活動

猪苗代町の学校から依頼を受けた防災講座をジオパーク事務局と連携した対応が定例化してきた。猪苗代町社会福祉協議会などと協働して講座を協働で検討し実施することにもつながっている。協議会を運営していくにあたり、ビジョンの設定に向けた話し合いを始めている。今後も三町村での防災教育、防災講座など教育普及で協働を進めていく予定である。

(3) ふくしまサイエンスぷらっとフォーム

科学の普及を目的として、平成20年に福島大学が中心となり、産官学民の様々な機関や個人が参画して結成された組織。多様な分野・業種の人々が集まって、市民全体を対象として、大小様々の科学イベントの開催、企画、情報活動、広報活動に取り組んでいる。特に、平成23年3月11日震災以降、復興支援活動と科学理解活動の密接な連携を模索している。当館もこのプロジェクトに平成22年から参画して活動している。

令和5年度はサイエンス屋台村atコミュタン福島を12月16日(土)に実施した。当館でも「化石にさわろう」というブースを出展し、101名の方に参加していただいた。

(4) 福島芸術計画

ア. 事業の趣旨・経緯

福島芸術計画は、地域の団体と協働してアートプログラムを実施する事業。文化芸術に触れる機会や地域コミュニティの交流の場をつくり、文化芸術による地域活力の創出と心のケアという視点から復旧・復興を支援している。

令和5年度は芸術活動を通して被災地の地域コミュニティの支援や心の復興を図るとともに、福島の未来を担う子ども達に学校では体験できない創作の機会を提供することで、心豊かな成長を支援するため「アートによる新生ふくしま交流事業」として「アートで広げるみんなの元気プロジェクト」及び「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」を行

った。

イ. 組織

1. 主催 福島県
2. 運営委員会構成団体 福島県文化振興課／福島県立美術館／福島県立博物館／認定特定非営利活動法人ドリームサポート福島
3. 事業受託者 認定特定非営利活動法人ドリームサポート福島

ウ. 事業内容

令和5年度の福島芸術計画のうち、福島県立博物館は「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」の一環として下記の3事業の企画運営を担った。

1. くるくるとん会津型
 - (1) 実施地域：会津若松市
 - (2) アーティスト（講師）：木幡江里子、渡部彩美（喜多方市文化課）江畑芳（デザイナー）
 - (3) 地域パートナー：福島県立会津支援学校
 - (4) 対象：福島県立会津支援学校、高等部1・2・3年生
 - (5) ワークショップ実施日：令和5年
 - ① 9月6日(水)、9月7日(木)
 - ② 10月4日(水)、10月19日(木)
 - ③ 12月13日(水)、12月14日(木)
 令和6年
 - ④ 1月24日(水)、1月25日(木)
 - (6) 成果展：「くるくるとん会津型 感じるリズム 見つけるカラダ成果展＋会津支援学校と福島県博の2023年度」

期間 令和6年2月20日(火)～3月10日(日)

場所 雪国ものづくり広場なんだべや

(7) 内容

福島県立会津支援学校との打合せにおいて、高等部の「職業」の授業の3つの班（陶芸班、手工芸班、リサイクル班）の課題として製品のブラッシュアップがあげられた。そこで、地域の文化資源でもある「会津型」を地域の文化振興に取り入れている喜多方市文化課と協働し、「会津型」を使い、創造性にも留意した製品の試作に取り組んだ。4ヶ月にわたり班ごとに月1回のワークショップを実施した。毎回、事前に各班の担当職員、喜多方市文化課スタッフ、当館学芸員と

のミーティングを通して、ワークショップの内容を検討、準備を行った。回を追う毎に、試作アイデアが生まれ、子どもたちの得意なところを活かした分業での生産が可能であることに気づくことができた。製作した試作品は「雪国ものづくり広場 なんだべや」で開催した成果展で展示公開し、児童生徒の表現の素晴らしさを多くの方に知ってもらう機会とした。また、ワークショップの様子と成果をまとめた記録集も制作。WEB上で公開し、広く活動を知っていただくことを目指した。

2. 感じるリズム 見つけるカラダ

- (1) 実施地域：会津若松市
- (2) アーティスト（講師）：
平山素子（コンテンポラリーダンサー／振付師）
- (3) 地域パートナー：
福島県立会津支援学校
- (4) 対象：福島県立会津支援学校
小学部4・6年生の児童、中学部1年生の生徒、高等部1・3年生の生徒
- (5) ワークショップ実施日：
令和5年11月6日(月)、11月30日(木)、
12月1日(金)、12月15日(金)
- (6) 成果展：「くるくるとんたん会津型
感じるリズム 見つけるカラダ成果展
＋会津支援学校と福島県博の2023年度」
期間 令和6年2月20日(火)～
3月10日(日)

場所 雪国ものづくり広場なんだべや

(7) 内容

一昨年、昨年と「音」を素材としたワークショップを実施してきたその発展として、今年度は、講師の平山素子氏が選曲した日本や世界各地の音やリズムに合わせて体を動かし、身体で表現するワークショップを実施した。エッグマラカスやリトミックスカーフなどの道具を動かすことも表現の一つになり、「食べたい食べ物を食べる」表現、「動物園で見てみたい動物になってみる」表現にも取り組み、人によって異なる表現に気づく時間となった。子どもたちや関わる大人たちも音楽を楽しみ、体や心を弾ませる喜びが互いに伝播し、表現を広げることになった。ワークショップの様子は動画にまとめ、「雪国ものづくり広場 なんだべや」で開催した成果展で公開し、多く

の方に活動内容や障がいを知っていただく機会とした。また、ワークショップの様子と成果をまとめた記録集も制作、WEB上で公開した。

3. ブナの森の葉っぱ日記

- (1) 実施地域：只見町
- (2) アーティスト（講師）：
岩田とも子（アーティスト）
- (3) 地域パートナー：
只見町ブナセンター、只見町教育委員会
- (4) 対象：只見町明和地区の放課後子ども教室の小学生
- (5) ワークショップ実施日：
①10月30日(月)、②11月12日(日)
- (6) 内容

アーティストの岩田とも子氏を講師に招き、子どもたちとブナの森に出かけ、晩秋のブナの森に親しむワークショップを実施した。1回目は、岩田氏と子どもたちが只見町ブナセンターの中野陽介氏の案内で、只見町余名沢のブナの森に出かけ森の観察をした。その後、森のいきものたちが葉っぱに残した痕跡を「葉っぱ日記」として読むワークショップを行った。2回目は、1回目のワークショップの作品「葉っぱ日記」が展示されたブナの森に出かけた。落ち葉の上に寝転び、目をつぶって音や香りを感じるなど思い思いに過ごした時間を森のいきものたちへの「おへんじの日記」として葉っぱにしたため、森の「日記帳」に残してきた。「葉っぱ日記」によって子どもたちの感性をのばす取組となった。ブナの森が本格的な雪に覆われるまでの約1ヶ月間、成果展として公開。成果展も含めた活動内容をまとめた記録集も制作し、WEB上で公開した。

(5) ふくしま歴史資料保存ネットワーク

地域の歴史や文化を伝える歴史資料などの記録保存を進め、災害時には救出・保全をはかり、後世に伝えることを目的に、平成22年11月に発足した。現在の代表・事務局は福島大学（行政政策学類 阿部浩一教授）。近年は、古文書整理・撮影作業を福島大学で定期的に行いながら、歴史資料の保存を趣旨としたさまざまな催しを企画・支援している。

(6) 会津の文化×地域振興プロジェクト協議会

ア. 事業の趣旨・経緯

福島県立博物館が行う展覧会等を観光資源として生かし、博物館と自治体、商工業団体、観光団体等との連携により地域振興、観光振興を図るとともに、文化芸術の本質的価値及び社会的・経済的価値を地域社会が文化芸術の継承、発展及び創造に活用・好循環させることを目的として事業を実施している。

イ. 組織

1. 構成団体 会津若松商工会議所、(一財)会津若松観光ビューロー、福島県立博物館、会津若松市
2. 事務局 会津若松商工会議所

ウ. 事業内容

令和2年度から実施している「福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業 三の丸からプロジェクト」は、本協議会構成団体が共同申請者として実施している。博物館と会津若松市、会津若松商工会議所、会津若松観光ビューローの連携により、より魅力的な文化観光事業を実施し、会津の文化振興、地域振興につながるよう支援した。

9. 震災遺産の保全・活用による東日本大震災の共有と継承

平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震とそれにもなう津波・原発事故は、福島県内に甚大な被害を及ぼした。未だに多くの方々が避難生活を余儀なくされ、一方で復興や除染工事等により地域の景観は大きく変わりつつある。当館では平成26年度から28年度まで文化庁芸術振興費補助金の採択を受けて、県内の資料館や研究会とともに実行委員会を組織し「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」を推進してきた。大震災を契機に起こった様々な出来事を歴史として共有し未来へ継承するため、震災を物語る資料を「震災遺産」と位置付けて、その保全や県内外での展覧会・シンポジウム等のアウトリーチ活動を行った。平成29年度からは当館の事業として、引き続き「震災遺産」の保全や発信を行っている。

ア. 震災遺産保全チームの組織

令和5年度は民俗1名、歴史1名、自然1名、美術1名、災害2名の計6名の学芸員が業務を担当した。震災遺産に主体的に関わる災害分野担当学芸員を中心に、所蔵する資料の研究・調査を取りまとめ、教育普及活動や企画展、ポイント展の実施を行った。

イ. 震災遺産の調査・保全

震災遺産の常設展示に向けて、ワークショップや意見交換など行い、方向性の検討を進めている。

令和2年度末より引き続き、コロナ関連資料の収集を継続している。震災遺産類として東日本大震災との比較資料と位置づけた。コロナ関連資料は、企画展「伝える 災害の記憶」の「5章 疫病との向き合い方」に関連させ展示を行った。震災遺産の未整資料の整理を進めている。写真撮影を行い、中性紙封筒へ治めるなどした。また課題である収蔵場所として第五収蔵庫や第二収蔵庫の整理を引き続き進めている。

ウ. 他団体・他機関との連携・協力

公害資料館ネットワークふくしま大会に実行委員会として運営に参加した。磐梯山ジオパーク運営協議会とも防災教育の普及活動を展開し学校行事へ防災学習の提案を行った。博物館資料展示活用アウトリーチ事業は、とみおかアーカイブ・ミュージアムと実施した。会津自然の家や磐梯山青少年交流の家との連携も定例化し、猪苗代町社会福祉協議会とも連携して地域づくりへの参画を始めた。

エ. 普及事業

ゲストティーチャー、講師派遣、特別プログラムなどの今年度は対応をお断りすることが複数あった。対応回数は50回を超えてきている。南会津高校や小高産業技術高校などまだわずかではあるが、震災遺産をテーマとした高校生向けの授業づくりを教員と相談して進めている。

10. 新たな博物館の役割・機能の創出

(1) 文化財・自然資料レスキュー

ア. 平成23年3月の東日本大震災に伴う活動

平成23年3月11日に起きた東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故により被災した文化財・自然資料のレスキュー・保全作業を、福島県被災文化財等救援本部（以下「救援本部」、当館は副代表・幹事・事務局）に参画して実施してきた。これまでの活動は、福島県被災文化財等救援本部編『福島県被災文化財等救援本部活動報告書』にまとめられている。

当館が新規に関わった被災地域の資料の調査や受け入れはなかった。また平成23年度から様々な事情によって当館で受け入れた資料のうち、所蔵先の避難状況の変化によって返

還できるようになった場合は、順次対応するようにしているが、今年度の該当はなかった。

イ. その他の災害発生時対応に伴う活動

令和元年度に福島県文化財保存活用大綱が策定され、災害発生時に文化財・自然資料レスキューを実施するしくみが整えられた。災害時には市町村からの救援応援要請が出され、相互応援協定による支援・応援が実施されることになった。

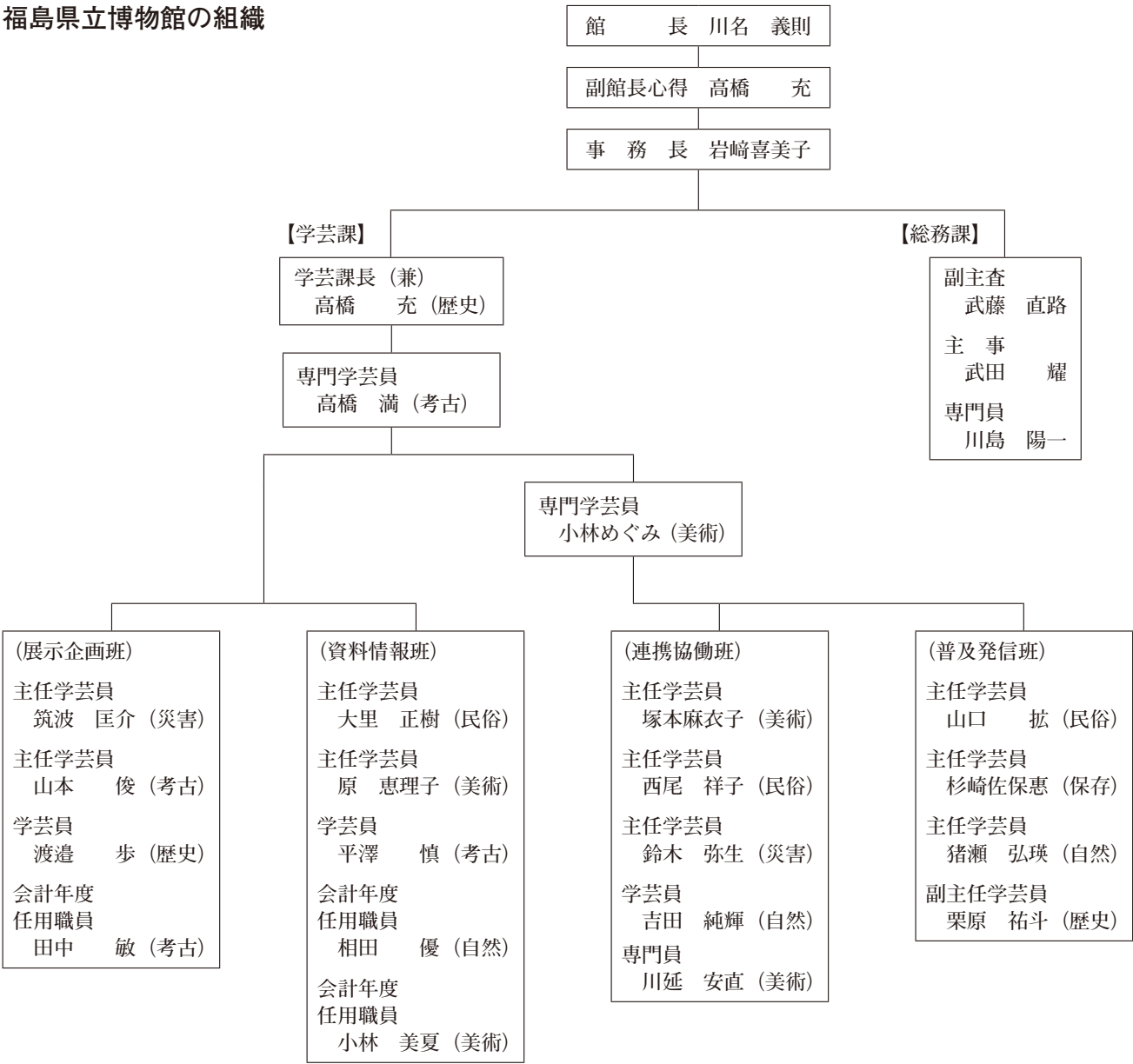
6月1日、令和6年3月15日に連絡会議が行われ、7月14日に「文化財に係る災害時の相互応援に関する協定」連絡会議が県文化財センター白河館で開催され、県内各地の事例報告や情報交換等が行われた。

II 管理運営

1. 組織・職員

(令和5年4月1日現在)

福島県立博物館の組織



会計年度任用職員等名簿

職 名	氏 名
展 示 解 説 員	渡部 知香
	岩崎 萌
	穴澤由美子
	佐藤 聖華
	及川 敏康
	松本 光生
	和田 光
	三浦 裕子

職 名	氏 名
展 示 解 説 員	湯田 守
	小原 由起
	山村 葵
	遠藤 彩楓
	星 さゆり
資 料 整 理 員	長澤 宏子
	小川 敦子
会計年度任用職員	鈴木ゆみ子
	松本 恵

2. 予 算

令和5年度は、下表のとおり予算を執行した。

令和5年度予算執行状況

歳 入

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)				金 額
使用料及び手数料				11,400
	使 用 料			11,400
		行政財産使用料		363
			建 物 使 用 料	363
		教 育 使 用 料		11,037
			博 物 館 使 用 料	11,037
財 産 収 入				2,077
	財 産 売 払 収 入			2,077
		物 品 売 払 収 入		2,077
			自 動 車 売 払 代 金	247
			その他物品売払代金	1,830
諸 収 入				1,400
	雑 入			1,400
		雑 入		1,400
			雑 入	1,400
合 計				14,877

歳 出

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)				金 額
総 務 費				1
	総 務 管 理 費			1
		諸 費		1
			償還金、利子及び割引料	1
教 育 費				313,311
	教 育 総 務 費			6,714
		事 務 局 費		6,714
			報 酬	3,371
			職 員 手 当 等	662
			職員手当等 (児童手当等)	1,260
			共 済 費	1,364
			旅 費	57
	社 会 教 育 費			306,597
		博 物 館 費		306,597
			報 酬	25,702
			職 員 手 当 等	5,115
			共 済 費	3,539
			報 償 費	1,927
			旅 費	3,878
			需 用 費	65,718
			需 用 費 (食糧費)	4
			役 務 費	9,002
			委 託 料	187,710
			使用料及び賃借料	2,508
			工 事 請 負 費	0
			備 品 購 入 費	1,058
			負担金、補助及び交付金	61
			補償、補填及び賠償金	328
			償還金、利子及び割引料	1
			公 課 費	46
合 計				313,312

3. 運営協議会の開催

(1) 福島県立博物館運営協議会

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関である。

ア. 運営協議会委員

学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者10名に委嘱している。平成13年1月からは、委員の選考に一部公募方式を導入した。

運営協議会委員名簿

区分	氏 名	役 職 名
学校教育	高橋 由江	会津若松市立神指小学校長
	本田 知史	福島県立だて支援学校長
社会教育	会長 長野 隆人	いわき芸術文化交流館副館長
	副会長 佐藤 公	磐梯山噴火記念館館長
家庭教育	長沼 千恵	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会理事
学識経験者	川口 立喜	公立大学法人会津大学 グローバル推進本部国際戦略室長・上級准教授
	四家 久央	いわき市文化財保護審議会委員 (合名会社四家酒造店代表社員)
	大越 章子	日々の新聞社記者
	岩崎 和美	書道家(「千葉清藍 (ちば せいらん)」 の名で活動)
公募	町田 久次	(元新聞社社員・役員)

イ. 会 議

第1回 令和5年6月20日(火)

議題

(報告事項)

- ①令和4年度博物館入館者数について
- ②県立博物館・鶴ヶ城天守閣・茶室麟閣共通観覧券の導入について
- ③博物館法の改正について

(協議事項)

- ①令和5年度当初予算について
- ②令和5年度事業計画について
- ③第3期中期目標の進捗状況について
- ④「三の丸からプロジェクト」について
- ⑤博物館が抱える課題について
 - ・協働による事業運営について
 - ・収蔵庫の逼迫について

第2回 令和6年2月28日(水)

議題

- ①令和6年度事業計画(案)について
 - ・幕末明治の浮世絵百年
 - ・縄文DX
 - ・ふくしまの酒造り
- ②令和6年度文化観光拠点施設機能強化事業「三の丸からプロジェクト」事業計画(案)について
- ③博物館が抱える課題(収蔵庫の逼迫)について
- ④第4期中期目標の進捗状況について

Ⅲ 利用状況

1. 入館者統計

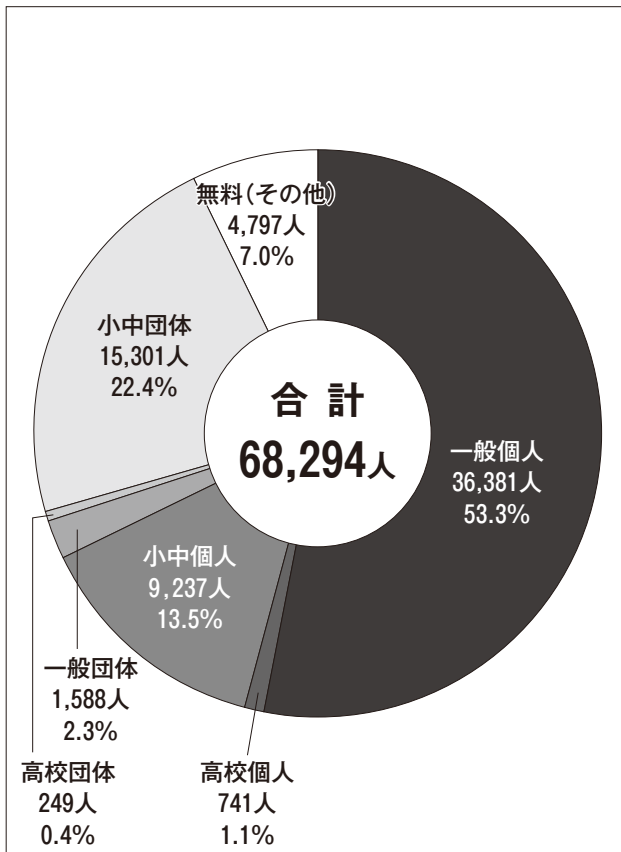
(1) 令和5年度入館者統計

月別区分別入館者数

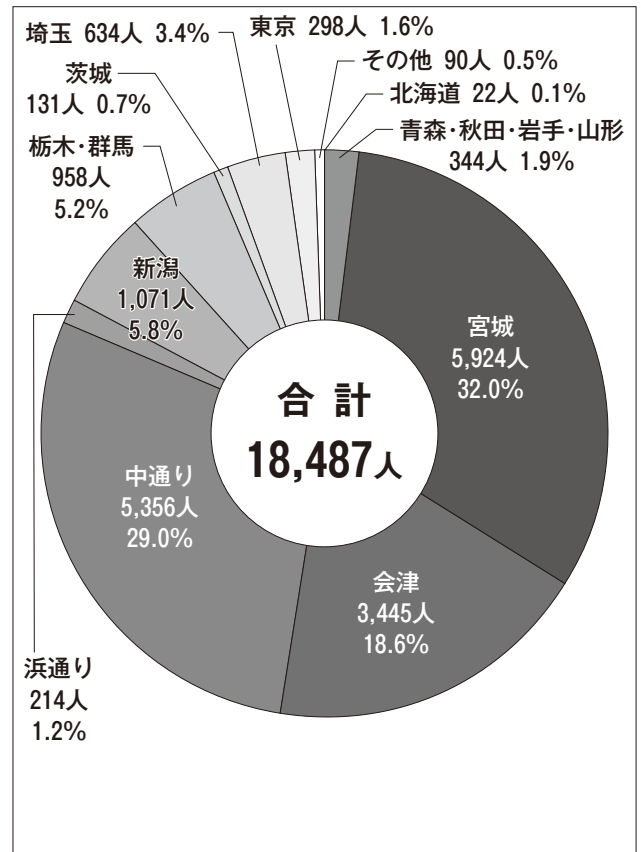
月別	常 設 展				企 画 展			合 計		構成比
	日数	有 料	無 料		日数	有 料	無 料	日数	人 数	
		人 数	小中高校生	その他		人 数	人 数			
			人 数	人 数						
4	26	1,862	815	433	2	147	37	26	3,294	4.8%
5	26	2,545	2,121	805	26	1,430	1,032	26	7,933	11.6%
6	25	1,852	6,242	1,008	25	1,099	1,953	25	12,154	17.8%
7	26	2,035	1,554	551	16	828	279	26	5,247	7.7%
8	27	3,123	957	617	27	1,238	455	27	6,390	9.4%
9	26	2,270	4,079	838	21	930	1,172	26	9,289	13.6%
10	26	2,089	2,349	418	21	622	321	26	5,799	8.5%
11	25	1,966	1,538	642	25	776	568	25	5,490	8.0%
12	22	952	280	166	15	349	242	22	1,989	2.9%
1	23	950	255	206	16	703	0	23	2,114	3.1%
2	25	1,327	489	192	25	1,587	0	25	3,595	5.3%
3	26	1,915	398	275	15	2,412	0	26	5,000	7.3%
合計	303	22,886	21,077	6,151	234	12,121	6,059	303	68,294	100.0%

利用
状況

令和5年度入館者内訳



地域別学校団体入館申込者数



(2) 入館者の推移

入館者の推移（年度別・月別）

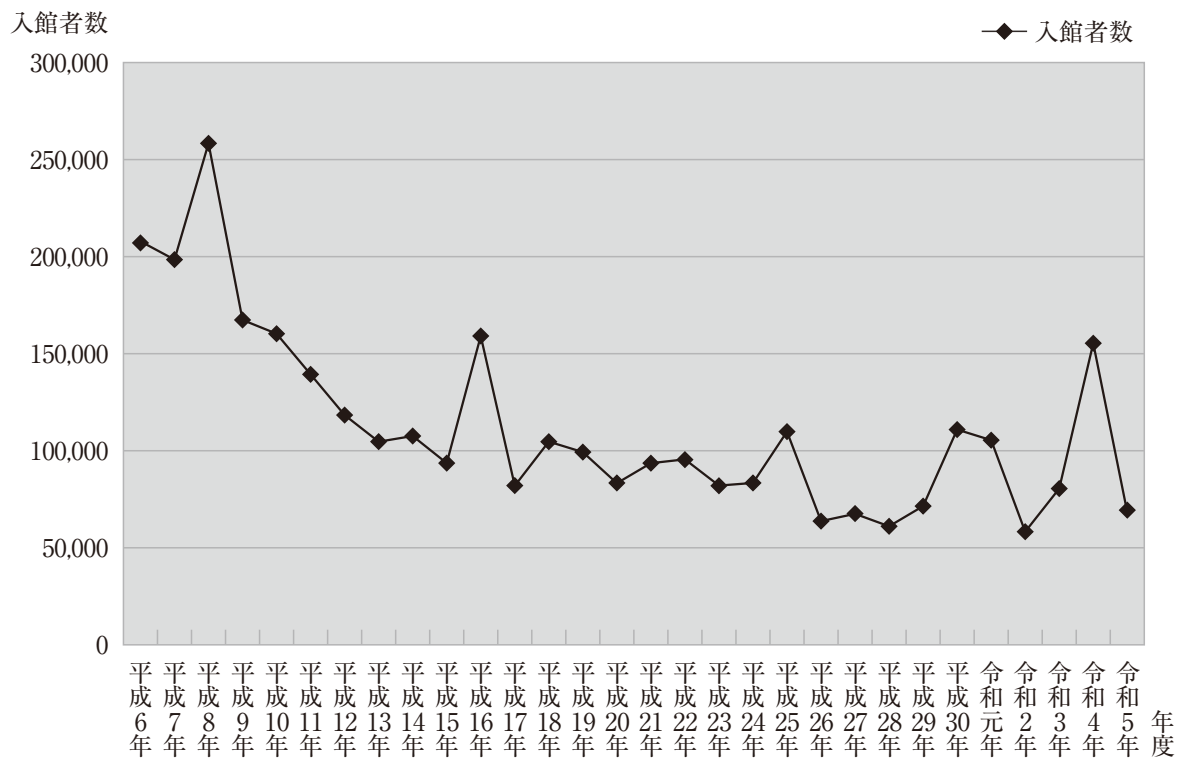
(単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	日数	日平均	月平均	累計
昭和61年							31,758	49,868	8,860	6,531	13,614	11,850	122,481	133	921	20,414	122,481
62年	25,919	48,367	17,831	23,356	40,749	24,259	27,099	27,082	5,548	4,010	7,653	7,878	259,751	297	875	21,646	382,232
63年	20,561	35,853	14,823	22,651	32,396	20,198	29,648	21,234	4,512	4,959	6,350	4,405	217,590	296	735	18,133	599,822
平成元年	25,699	52,872	20,356	18,456	31,127	18,248	26,832	16,058	3,369	4,048	6,986	4,873	228,924	299	766	19,077	828,746
2年	22,750	50,265	19,043	24,050	34,218	17,008	34,201	18,482	2,303	3,813	5,982	7,115	239,230	299	800	19,936	1,067,976
3年	22,851	52,723	23,592	20,340	33,257	21,882	21,851	15,682	3,618	8,675	7,006	6,530	238,007	298	799	19,834	1,305,983
4年	16,637	56,983	23,841	22,800	37,431	20,334	18,565	17,592	4,028	5,073	9,096	7,606	239,986	297	808	19,999	1,545,969
5年	17,975	50,452	29,319	21,138	28,490	18,285	20,022	15,629	6,989	4,993	9,137	8,640	231,069	293	789	19,256	1,777,038
6年	15,320	38,693	20,737	12,328	25,837	16,551	28,034	19,857	7,839	4,732	9,197	8,742	207,867	296	702	17,322	1,984,905
7年	16,571	42,832	28,622	15,340	23,785	16,428	20,252	15,096	2,048	2,701	7,631	7,160	198,466	298	666	16,539	2,183,371
8年	12,433	40,138	18,185	9,725	21,495	15,879	64,772	50,811	9,473	3,141	6,700	5,616	258,368	294	879	21,531	2,441,739
9年	13,521	39,844	22,279	8,036	15,803	13,082	26,015	10,290	2,125	2,111	7,578	6,686	167,370	295	567	13,948	2,609,109
10年	14,922	34,430	24,933	9,541	16,208	13,794	18,431	9,061	2,395	3,218	9,770	3,575	160,278	295	474	13,357	2,769,387
11年	13,456	30,999	23,659	9,051	13,607	12,175	15,696	7,937	1,582	2,714	4,795	3,676	139,347	294	393	11,612	2,908,734
12年	10,539	21,341	18,775	7,127	13,184	12,794	15,609	8,120	1,801	829	5,353	2,897	118,369	301	393	9,864	3,027,103
13年	8,473	20,267	16,475	5,682	8,451	13,423	12,192	5,825	5,797	1,412	3,836	2,818	104,651	303	345	8,721	3,131,754
14年	8,028	19,242	17,211	4,706	14,702	19,901	10,688	5,265	1,078	1,196	3,183	2,386	107,586	306	352	8,966	3,239,340
15年	4,899	13,884	12,884	8,732	10,630	12,525	13,000	7,693	1,665	1,235	3,733	2,734	93,614	302	310	7,801	3,332,954
16年	8,770	19,287	16,768	20,318	34,732	35,813	11,227	5,440	2,192	855	2,019	1,690	159,111	302	527	13,259	3,492,065
17年	8,440	14,548	12,008	7,507	7,157	8,787	11,972	4,374	926	1,159	2,815	2,262	81,955	305	269	6,830	3,574,020
18年	7,019	11,381	14,151	5,246	10,548	13,405	25,464	9,029	1,989	1,468	2,928	2,058	104,686	310	338	8,724	3,678,706
19年	7,419	12,271	25,016	6,808	7,148	10,084	12,495	8,261	1,938	1,627	2,943	3,290	99,300	306	325	8,275	3,778,006
20年	6,521	10,730	13,011	7,401	8,582	10,326	11,388	6,798	1,558	1,037	2,193	3,730	83,275	306	272	6,940	3,861,281
21年	7,977	13,060	11,912	7,356	14,280	16,864	9,211	6,761	1,383	1,127	1,815	1,850	93,596	306	306	7,800	3,954,877
22年	11,669	15,085	16,283	10,472	11,658	9,513	8,522	6,280	1,637	1,947	1,796	694	95,556	293	326	7,963	4,050,433
23年	2,292	6,582	4,990	5,557	11,047	15,972	9,465	6,399	3,159	4,280	7,087	5,218	82,048	305	269	6,837	4,132,481

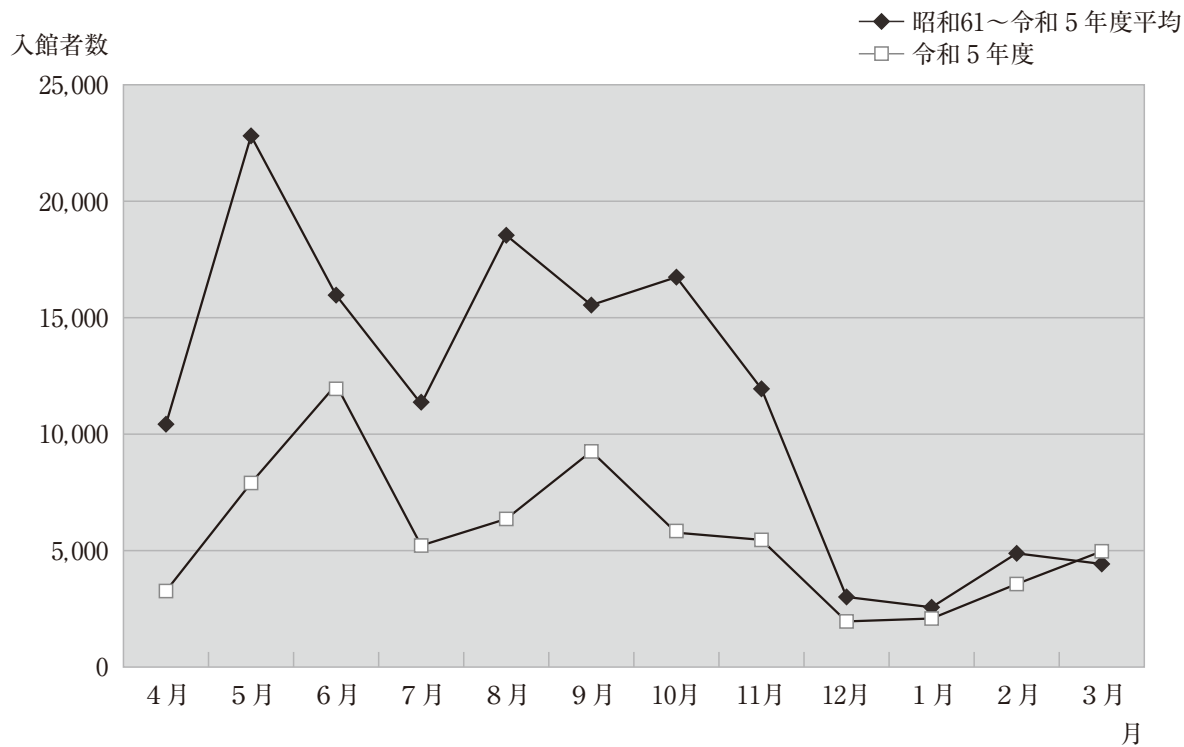
区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	日数	日平均	月平均	累計
24年	8,940	9,350	6,912	7,532	12,764	10,702	10,683	6,438	2,316	1,551	3,173	3,040	83,401	306	273	6,950	4,215,882
25年	6,523	11,722	25,363	9,013	20,966	12,299	11,802	4,025	2,736	1,617	1,463	2,309	109,838	309	355	9,153	4,325,720
26年	4,972	7,374	7,677	4,250	5,845	7,457	4,549	8,878	3,815	1,036	3,765	4,121	63,739	309	206	5,312	4,389,459
27年	5,215	12,117	10,507	3,520	4,873	7,621	5,375	4,543	1,552	2,492	4,502	5,173	67,490	309	218	5,624	4,456,949
28年	5,006	7,101	9,290	4,037	5,551	14,131	5,014	2,792	1,082	886	2,512	3,671	61,073	303	202	5,089	4,518,022
29年	5,020	8,018	10,104	4,156	8,932	9,709	7,339	4,774	2,555	3,716	3,365	3,775	71,463	306	234	5,955	4,589,485
30年	4,898	8,589	13,353	14,686	24,285	22,000	10,084	4,762	1,416	915	2,090	3,825	110,903	306	362	9,242	4,700,388
令和元年	5,208	8,390	9,519	26,572	25,878	10,974	6,739	5,325	1,135	1,094	2,314	2,291	105,439	307	343	8,787	4,805,827
2年	551	609	2,546	2,232	8,162	13,219	12,748	10,096	875	1,346	2,277	3,623	58,284	305	191	4,857	4,864,111
3年	2,593	2,028	5,931	10,272	15,619	12,337	10,916	11,155	3,248	1,292	2,601	2,515	80,507	304	265	6,709	4,944,618
4年	3,977	9,589	11,838	13,840	41,232	38,852	11,802	11,833	2,948	1,712	3,805	3,951	155,379	301	516	12,948	5,099,997
令和 5年	3,294	7,933	12,154	5,247	6,390	9,289	5,799	5,490	1,989	2,114	3,595	5,000	68,294	294	232	5,691	5,168,291
平均	10,456	22,836	15,997	11,327	18,568	15,571	16,770	11,975	3,039	2,596	4,912	4,455	138,501	297	463	11,603	

入館者数の推移グラフ（年度別月別）

入館者数の推移 年度別



月別入館状況



(3) 企画展入館者統計

企画展入館者数

年度	企 画 展 名	期 間	日 数	一 般	高 校	小 中	合 計
61	武 家 の 文 化	61.10.18～61.11.16	27 日	18,806 人	1,967 人	4,474 人	25,247 人
	福 島 の ま つ り	62. 1.17～62. 3. 1	37	6,302	456	755	7,513
	計		64	25,108	2,423	5,229	32,760
62	福 島 の 顔	62. 4.18～62. 6.14	48	13,008	510	7,077	20,595
	植 物 化 石 展	62. 7.18～62. 9.15	51	14,116	1,267	7,149	22,532
	会 津 の 仏 像	62.10.17～62.12.13	49	14,670	440	904	16,014
	陸 奥 の 古 瓦	63. 1.23～63. 3.21	50	4,069	151	291	4,511
	計		198	45,863	2,368	15,421	63,652
63	境 の 神 ・ 風 の 神	63. 4.16～63. 6.12	49	9,804	1,046	5,668	16,518
	江 戸 時 代 の 流 通 路	63. 7.16～63. 9.11	50	16,240	1,502	5,729	23,471
	東 国 の 埴 輪	63.10. 8～63.12.11	54	15,585	1,472	4,702	21,759
	鉾 物 の 世 界	元. 1.21～元. 3.19	49	4,160	470	2,653	7,283
	計		202	45,789	4,490	18,752	69,031
元	縄 文 の 四 季	元. 4.18～元. 6.11	48	13,246	2,293	27,743	43,282
	町 の 成 立 と に ぎ わ い	元. 7. 4～元. 9. 3	54	16,611	1,151	8,120	25,882
	中 通 り の 仏 像	元. 9.22～元.11.26	55	15,356	1,895	6,486	23,737
	東 北 の 陶 磁 史	2. 1.20～ 2. 3.18	50	5,058	151	1,532	6,741
	計		207	50,271	5,490	43,881	99,642
2	亜 欧 堂 田 善 と そ の 系 譜	2. 4.21～ 2. 6.10	44	12,274	2,507	22,522	37,303
	太 古 の 生 き も の た ち	2. 7. 6～ 2. 9. 2	51	17,519	1,407	10,681	29,607
	秀 吉 ・ 氏 郷 ・ 政 宗	2. 9.22～ 2.11.25	55	18,273	2,481	8,516	29,270
	日 本 の 音 色	3. 1.19～ 3. 3.21	53	5,567	149	1,731	7,447
	計		203	53,633	6,544	43,450	103,627
3	シ ル ク ロ ード 紀 行	3. 4.16～ 3. 6. 9	48	13,878	3,319	27,384	44,581
	縄 文 絵 巻	3. 7.20～ 3. 9.23	57	21,276	1,734	10,548	33,558
	浜 通 り の 仏 像	3.10.10～ 3.12. 8	51	12,293	1,030	3,528	16,851
	ふ く し ま 鉾 山 の あ ゆ み	4. 1.18～ 4. 3.15	49	7,626	138	2,043	9,807
	計		205	55,073	6,221	43,503	104,797
4	マ ン ガ 文 化 の 源 流	4. 4.18～ 4. 6. 4	49	12,151	2,192	27,981	42,324
	恐 竜 の あ る い た 道	4. 7.18～ 4. 9.23	57	22,049	1,459	11,772	35,280
	定 信 と 文 晁	4.10.17～ 4.12. 6	43	10,333	1,083	2,549	13,965
	発 掘 ふ く し ま	5. 1.16～ 5. 3.21	55	7,004	338	1,831	9,173
	計		204	51,537	5,072	44,133	100,742
5	明 治 は じ め て 物 語	5. 4.17～ 5. 6.13	48	12,810	1,542	28,085	42,437
	稲 と く ら し	5. 7.17～ 5. 9.23	58	19,467	1,195	8,349	29,011
	東 北 か ら の 弥 生 文 化	5.10.16～ 5.12. 5	42	12,436	936	3,178	16,550
	会 津 の 自 然 史	6. 1.22～ 6. 3.21	51	6,928	418	2,350	9,696
	計		199	51,641	4,091	41,962	97,694
6	玉 堂 と 春 琴 ・ 秋 琴	6. 4.23～ 6. 6. 5	37	8,816	346	16,330	25,492
	げ ん き ・ 病 ・ 元 氣	6. 7.23～ 6. 9.18	49	14,075	1,027	6,232	21,334
	会 津 大 塚 山 古 墳 の 時 代	6.10. 8～ 6.12. 4	48	18,285	751	7,095	26,131
	村 芝 居 の 世 界	7. 1.21～ 7. 3.26	55	7,676	268	2,445	10,389
	計		189	48,852	2,392	32,102	83,346
7	探 検 貝 化 石 ワ ー ル ド	7. 4.22～ 7. 6.11	44	9,187	1,608	26,208	37,003
	海 の ま く あ け	7. 7.22～ 7. 9.17	50	14,101	1,003	5,889	20,993
	福 島 1000 年 時 の か た ち	7.10. 7～ 7.11.26	43	9,379	1,342	3,417	14,138
	い に し え の 木 の 匠	8. 1.20～ 8. 3.24	55	5,760	74	1,907	7,741
	計		192	38,427	4,027	37,421	79,875
8	福 島 の 山 岳 信 仰	8. 4.20～ 8. 6. 9	44	8,931	976	12,432	22,339
	地 震 ・ 火 山 ・ 津 波	8. 7.20～ 7. 9.16	51	11,671	443	6,176	18,290
	秀 吉 と 桃 山 文 化	8.10. 5～ 8.11.24	43	45,643	1,583	8,929	56,155
	近 代 子 ど も の 世 界	9. 1.18～ 9. 3.23	54	3,733	130	2,427	6,290
	計		192	69,978	3,132	29,964	103,074

企画展入館者数

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	合計
9	縄文たんけん	9. 4.19～ 9. 6. 8	43 日	5,282 人	1,164 人	23,052 人	29,498 人
	日本の魚学・水産学事始め	9. 7.19～ 9. 9.15	51	6,396	396	4,082	10,874
	染める	9.10.10～ 9.12. 7	51	6,165	118	7,372	13,655
	遠澤と探幽	10. 1.24～10. 3.15	43	5,854	433	775	7,062
	計		188	23,697	2,111	35,281	61,089
10	戦国の城	10. 4.18～10. 6.14	49	8,731	600	19,452	28,783
	発掘ふくしま2	10. 7.18～10. 9.13	50	7,930	484	5,954	14,368
	天の絹絲	10.10.10～10.12.13	55	6,521	133	3,009	9,663
	日本之美	11. 1.26～11. 2.21	23	5,055	101	567	5,723
	計		177	28,237	1,318	28,982	58,537
11	氷河時代	11. 4.17～11. 6.13	49	6,351	680	20,052	27,083
	新弥生紀行	11. 7.17～11. 9.15	43	6,128	409	3,438	9,975
	生の中の死	11.10. 9～11.12.12	54	5,826	225	2,103	8,154
	豊かなる世界へ	12. 1.22～12. 3.20	51	3,426	103	448	3,977
	計		197	21,731	1,417	26,041	49,189
12	集古十種	12. 4.22～12. 6.11	44	4,843	81	7,960	12,884
	海獣パレオパラドキシア	12. 7.15～12. 9.10	49	6,013	363	4,074	10,450
	英雄たちの系譜	12.10. 7～12.12.10	55	5,838	139	3,326	9,303
	安積良斎と門人たち	13. 1.20～13. 3.20	51	2,963	73	115	3,151
	計		199	19,657	656	15,475	35,788
13	食と考古学	13. 4.21～13. 6.10	44	3,330	281	8,964	12,575
	肖像に見る福島を築いた人々	13. 7. 7～13. 8.26	44	3,630	118	1,148	4,896
	武者たちが通る	13. 9.22～13.11.11	44	4,437	385	2,675	7,497
	計		132	11,397	784	12,787	24,968
14	化石芸術	14. 4.27～14. 6.30	56	3,921	552	6,928	11,401
	雪村展	14. 8.10～14. 9.23	39	11,362	169	1,149	12,680
	計		95	15,283	721	8,077	24,081

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	無料	合計
15	発掘された日本列島2003	15. 7.15～15. 8.13	26 日	2,473 人	386 人	647 人	1,424 人	4,930 人
	発掘ふくしま3	15. 8.20～15. 9.23	30	1,833	40	479	432	2,784
	《笑い》の想像力	15.10.11～15.12. 7	50	3,190	47	456	769	4,462
	計		106	7,496	473	1,582	2,625	12,176
16	戊辰戦争といま	16. 4.17～16. 6.13	49	6,451	190	3,191	1,048	10,880
	アートオブスター・ウォーズ展	16. 7. 3～16. 9.26	75	46,019	5,631	11,234	1,552	64,436
	ふくしまの工芸	16.10.23～16.12. 5	36	2,524	65	182	626	3,397
	計		160	54,994	5,886	14,607	3,226	78,713
17	老い	17. 4.23～17. 6. 5	39	1,732	80	414	814	3,040
	婚礼	17. 9.23～17.11. 6	39	2,480	45	233	1,020	3,778
	計		78	4,212	125	647	1,834	6,818
18	馬と人との年代記	18. 4.22～18. 6.11	45	1,679	24	801	615	3,119
	布の声をきく	18. 7.22～18. 9. 3	40	2,137	53	284	464	2,938
	徳川将軍家と会津松平家	18. 9.30～18.11. 5	36	14,879	126	1,918	2,560	19,483
	計		121	18,695	203	3,003	3,639	25,540
19	樹と竹	19. 7.21～19. 9.17	52	1,987	44	429	619	3,079
	わくわく! 化石大集合	19.10. 6～19.11.25	44	2,611	21	1,593	2,233	6,458
	計		96	4,598	65	2,022	2,852	9,537
20	宝の山2008	20. 7.19～20. 9.23	58	3,943	66	1,131	1,070	6,210
	遠藤香山	20.10.11～20.11.24	41	1,619	131	106	973	2,829
	計		99	5,562	197	1,237	2,043	9,039
21	岡本太郎の博物館	21.10.10～21.11.23	40	1,905	9	95	1,371	3,380
	計		40	1,905	9	95	1,371	3,380
22	千少庵と蒲生氏郷	22. 4.17～22. 5.30	39	6,077	27	489	985	7,578
	森に生き山に遊ぶ	22. 6.26～22. 8.22	51	12,588				12,588
	漆のチカラ	22.10. 9～22.11.28	43	2,564	31	159	1,259	4,013
	計		133	21,229	58	648	2,244	24,179

企画展入館者数

年度	企 画 展 名	期 間	日 数	一 般	高 校	小 中	無 料	合 計
23	保 科 正 之 の 時 代	23.10. 8～23.11.27	43 日	4,908 人	28 人	188 人	0 人	5,124 人
	小 さ な も の 集 ま れ	24. 2.18～24. 3.31	36	2,523	21	271	0	2,815
	計		79	7,431	49	459	0	7,939
24	小 さ な も の 集 ま れ	24. 4. 1～24. 5.13	38	4,264	82	493	875	5,714
	恐 竜 時 代 の ふ く し ま	24. 7.14～24. 9.17	54	6,985	128	4,055	2,648	13,816
	会 津 の 寺 宝	24.10. 6～24.11.25	44	6,668	16	72	872	7,628
	計		136	17,917	226	4,620	4,395	27,158
25	八 重 の 桜	25. 4.17～25. 7. 3	46	13,146	130	5,462	875	19,613
	対 決 ! 恐 竜 展	25. 7.27～25. 9.16	46	9,948	273	5,033	2,648	17,902
	考 古 学 か ら の 挑 戦	25.10. 5～25.12. 1	50	1,955	11	85	872	2,923
	計		142	25,049	414	10,580	4,395	40,438
26	東 北 - 風 土 ・ 人 ・ く ら し	26. 4.19～26. 5.18	26	1,094	30	102	360	1,586
	ア イ ヌ の 工 芸	26. 7.19～26. 9.15	52	2,841	62	531	702	4,136
	み ち の く の 観 音 さ ま	26.11. 1～26.12.14	38	6,441	18	73	1,419	7,951
	計		116	10,376	110	706	2,481	13,673
27	ふ る さ と 会 津 の 人 と 四 季	27. 5. 2～27. 6.21	44				5,992	5,992
	被 災 地 か ら の 考 古 学	27. 7.18～27. 9.13	51	1,518	39	221	362	2,140
	相 馬 中 村 藩 の 人 び と	27.10.10～27.11.29	38	1,406	8	34	317	1,765
	計		133	2,924	47	255	6,671	9,897
28	大 須 賀 清 光 の 屏 風 絵 と 番 付	28. 4.23～28. 6.12	45	2,254	14	201	555	3,024
29	自 然 を う つ す	29. 4.29～29. 6. 4	32	1,291	45	620	483	2,439
	ふ く し ま 5 億 年 の 自 然 史	29. 7.15～29. 9.18	59	3,457	138	2,037	1,005	6,637
	発 掘 ふ く し ま 4	29.10. 7～29.11.26	44	1,305	455	1,475	506	3,741
	山 水 憧 憬	30. 1.13～30. 2.18	32	3,012	42	209	433	3,696
	計		167	9,065	680	4,341	2,427	16,513
30	匠 の ふ る さ と 会 津	30. 4.28～30. 6.24	50	2,004	134	4,294	625	7,057
	美 し き 刃 た ち	30. 7.13～30. 8.19	34	21,581	841	2,853	2,006	27,281
	戊 辰 戦 争 1 5 0 年	30. 9. 1～30.10.14	38	10,544	179	5,412	1,310	17,445
	日 本 の わ ざ と 美	30.10.27～30.12. 2	32	2,298	36	357	486	3,177
	計		154	36,427	1,190	12,916	4,427	54,960
元	とりもどすきずなつながるみらい	31. 4.27～元. 6. 9	38	1,138	44	2,920	608	4,710
	興 福 寺 と 会 津	元. 7. 6～元. 8.18	39	35,926	353	1,807	3,125	41,211
	あ に ま る ず	元. 9. 7～元.11.17	63	3,511	345	4,009	843	8,708
	計		140	40,575	742	8,736	4,576	54,629
2	ふ く し ま の 旅	2. 4.29～ 2. 6.28	38	1,031	14	85	201	1,331
	会 津 の S A M U R I 文 化	2. 8. 1～ 2. 9.22	47	4,581	109	1,037	1,053	6,780
	発 掘 さ れ た 日 本 列 島 2020	2.10.10～ 2.11.15	32	4,063	169	882	1,042	6,156
	震 災 遺 産 を 考 え る	3. 1.16～ 3. 3.21	54	2,364	49	462	390	3,265
	計		171	12,039	341	2,466	2,686	17,532
3	会 津 の 絵 画	3. 4.24～ 3. 6.27	56	1,486	55	607	514	2,662
	あはひのクニ あやかしのクニ	3. 7.17～ 3. 9.26	63	11,784	362	3,281	2,058	17,485
	ふ く し ま 薬 の 文 化	3.10. 9～ 3.12.19	62	2,806	112	3,567	1,045	7,530
	計		181	16,076	529	7,455	3,617	27,677
4	ア ン モ ナ イ ト 合 戦	4. 4.23～ 4. 6.26	56	4,039	103	3,507	1,279	8,928
	新 選 組 展 2 0 2 2	4. 7.23～ 4. 9.19	51	36,920	0	4,158	2,595	43,673
	名 君 の 大 名 文 化 展	4.10. 7～ 4.12. 4	50	7,492	39	1,822	1,058	10,411
	写 真 展 東 北 福 島	5. 1.21～ 5. 3.19	49	1,853	32	691	457	3,033
	計		206	50,304	174	10,178	5,389	66,045
5	G o ! G o ! 5 世 紀	5. 4.29～ 5. 7. 2	55	2,914	66	2,332	723	6,035
	仕事の仕事をしている仕事	5. 7.15～ 5. 9.24	62	2,758	91	1,187	529	4,565
	伝 える 災 害 の 記 憶	5.10. 7～ 5.12.17	61	1,747	137	638	356	2,878
	計		178	7,419	294	4,157	1,608	13,478

※平成16年度のアート オブ スター・ウォーズ展については高校生の区分は中学生・高校生、小・中学生の区分は小学生と読替え

2. 出版物販売

出版物売上表

書 籍 名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
武 家 の 文 化	600	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	600
ふ く し ま の 顔	500	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	500
陸 奥 の 古 瓦	400	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鉦 物 の 世 界	400	0	0	1	1	1	2	0	1	0	0	2	0	8	3,200
縄 文 の 四 季	500	0	0	0	1	3	1	1	0	0	0	2	0	8	4,000
ま ち の 成 立 と に ぎ わ い	500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
亜 欧 堂 田 善 と そ の 系 譜	1,000	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1,000
太 古 の 生 き も の た ち	500	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	1,000
日 本 の 音 色	800	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	800
シ ル ク ロ ー ド 紀 行	1,000	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1,000
縄 文 の 絵 巻	800	3	1	0	1	3	1	1	0	1	0	1	1	13	10,400
浜 通 り の 仏 像	500	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	2	0	5	2,500
ふくしま鉦山のあゆみ	800	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	800
マンガ文化の源流	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
恐竜のあるいた道	500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	500
定 信 と 文 晁	1,000	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2,000
明 治 は じ め て 物 語	500	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1,000
稲 と く ら し	800	0	0	1	1	2	2	0	0	0	1	0	1	8	6,400
東 北 か ら の 弥 生 文 化	800	2	10	11	2	0	1	0	0	0	0	0	0	26	11,200
会 津 の 自 然 史	800	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	1	0	4	3,200
玉 堂 と 春 琴 ・ 秋 琴	1,100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
げ ん き ・ 病 ・ 元 気	800	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
村 芝 居 の 世 界	900	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	900
探 検 貝 化 石 ワ ー ル ド	800	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	1	0	4	3,200
海 の ま く あ け	800	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福 島 1000 年 時 の か た ち	900	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
い に し え の 木 の 匠	600	0	1	0	6	11	12	0	0	0	0	0	0	30	9,300
福 島 の 山 岳 信 仰	800	1	1	1	0	1	2	2	2	0	0	0	2	12	9,600
地 震 ・ 火 山 ・ 津 波	500	0	0	0	0	0	0	5	6	3	0	0	0	14	7,000
近 代 子 ど も の 世 界	900	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	900
縄 文 た ん け ん	900	3	14	9	7	1	0	0	0	0	0	0	0	34	17,800
日本の魚学・水産学事始め	500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	500
染 め る	600	0	1	0	5	12	12	0	0	0	0	2	0	32	10,500
遠 澤 と 探 幽	1,300	0	0	0	2	2	2	0	2	0	0	0	0	8	10,400
天 の 絹 絲	1,300	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4	5,200
日 本 の 美	800	0	0	0	5	6	5	0	0	0	0	0	2	18	8,000
氷 河 時 代	700	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2	1,400
新 弥 生 紀 行	1,100	2	12	10	3	1	2	0	0	0	1	0	0	31	20,600
生 の 中 の 死	900	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	900
豊 か な る 世 界 へ	600	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	4	2,400
集 古 十 種	1,100	1	0	0	3	2	4	0	2	0	1	0	1	14	15,400
海 獣 パレオパラドキシア	600	0	0	0	1	2	0	2	0	0	2	1	0	8	4,800
英 雄 た ち の 系 譜	500	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1,000
食 と 考 古 学	500	2	29	25	13	2	4	1	0	0	0	0	1	77	24,900
肖像にみる福島を築いた人々	900	0	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	4	3,600
武 者 た ち が 通 る	400	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
発 掘 ふ く し ま 3	600	1	14	14	1	0	1	0	0	0	0	0	0	31	9,600
笑 い の 想 像 力	1,000	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	3	3,000
老 い	1,000	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1,000
婚 礼	800	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	800
馬 と 人 と の 年 代 記	800	1	2	2	0	1	1	1	0	0	0	0	0	8	6,400
布 の 声 を き く	700	2	0	1	10	31	34	1	0	0	0	0	3	82	35,200
樹 と 竹	600	0	0	2	14	34	41	0	1	0	0	0	1	93	29,400
わ く わ く ! 化 石 大 集 合	400	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	3	1,200
遠 藤 香 村	800	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	800
岡 本 太 郎 の 博 物 館	500	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	500
千 少 庵 と 蒲 生 氏 郷	250	0	0	0	2	1	3	0	1	0	0	4	7	18	4,500

出版物売上表

書 籍 名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
漆 の チ カ ラ	400	1	7	0	9	21	16	0	0	0	0	2	0	56	13,200
保 科 正 之 の 時 代	500	0	0	2	1	1	12	8	7	3	0	5	2	41	20,500
恐 竜 時 代 の ふ く し ま	300	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	1	5	1,500
会 津 の 寺 宝	500	1	2	1	2	0	4	3	1	3	1	0	0	18	9,000
八 重 の 桜	1,000	2	2	1	4	2	4	4	4	2	2	0	2	29	29,000
対決！恐竜展ガイドブック	200	1	4	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	7	1,400
考 古 学 か ら の 挑 戦	500	9	37	40	5	0	2	1	0	0	0	0	1	95	30,500
ア イ ヌ の 工 芸	1,000	0	0	0	12	31	27	0	0	0	0	0	0	70	35,000
ポ ケ ッ ト ミ ュ ー ジ ア ム	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
被 災 地 か ら の 考 古 学1	200	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	600
相 馬 中 村 藩 の 人 び と	700	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1,400
大 須 賀 清 光 の 屏 風 絵 と 番 付	700	0	0	1	0	0	4	2	0	1	0	0	1	9	6,300
自 然 を う つ す	900	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	6,300
ふ く し ま 5 億 年 の 自 然 史	600	0	0	2	3	1	4	1	3	0	1	1	3	19	11,400
発 掘 ふ く し ま 4	900	3	17	27	6	0	2	0	1	0	1	0	0	57	30,100
山 水 懂 憬	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
匠 の ふ る さ と 会 津	800	2	1	0	7	19	21	0	1	0	0	1	0	52	24,800
日 本 の わ ざ と 美	2,000	0	0	0	1	5	5	0	0	0	1	0	0	12	13,000
あ に ま る ず	500	2	19	25	16	1	1	0	1	1	0	0	2	68	34,000
ふ く し ま の 旅	800	0	0	1	0	1	2	0	1	0	1	2	0	8	6,400
震 災 遺 産 を 考 え る	800	1	0	1	1	1	0	9	14	11	7	2	4	51	40,800
会 津 の 絵 画	800	0	0	3	4	5	2	3	1	1	5	2	0	26	20,800
ふ く し ま 薬 の 文 化	500	1	0	0	2	2	2	1	0	0	1	2	3	14	7,000
ア ン モ ナ イ ト 合 戦	700	5	2	56	3	3	2	0	1	0	0	1	0	73	51,100
写 真 展 東 北 福 島	400	1	5	1	1	2	4	2	2	2	2	2	1	25	10,000
G o ! G o ! 5 世 紀	1,000	11	122	124	57	11	6	4	5	2	0	2	4	348	348,000
仕事の仕事をしている仕事	1,500	0	0	0	33	61	61	4	7	3	2	2	3	176	264,000
伝える災害の記憶	2,000	0	0	0	0	0	0	21	28	34	2	0	7	92	184,000
博物館学習指導の手引き(小)	400	0	1	0	0	2	1	1	0	0	1	1	3	10	4,000
福 島 の 古 墳	600	2	6	11	9	3	2	3	2	1	3	1	3	46	27,600
図 説 戦 時 下 の 福 島	400	1	3	0	3	2	0	2	0	1	0	2	2	16	6,400
図 説 福 島 県 の 化 石	800	0	0	0	1	2	2	1	0	0	2	1	1	10	8,000
福 島 の 年 中 行 事	600	0	2	2	0	3	1	2	2	1	0	1	4	18	10,800
常 世 原 田 遺 跡	300	1	1	2	0	0	0	2	0	1	0	1	0	8	2,400
ふ く し ま の 農 具	500	0	2	0	1	2	2	0	0	1	1	3	1	13	6,500
福島の仏像(仏像図説)	700	2	1	2	0	1	2	2	2	0	0	3	1	16	11,200
遠藤香村クリアファイル	200	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	400
絵 葉 書 (バ ラ 売 り)	50	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	4	6	300
絵 葉 書 (セ ッ ト)	300	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3	900
一 筆 箋	350	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	3	1,050
齋藤清絵はがきセット	350	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
恐竜展2011 ポプラディア完全ガイド	500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
恐 竜 博 2 0 1 1 公 式 図 録	2,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
体 験 学 習 材 料	400	0	0	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	21	8,400
会津の絵画クリアファイル	200	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	2	0	6	1,200
会津の絵画一筆箋	500	0	0	1	1	1	0	0	0	2	0	0	1	6	3,000
会津の絵画絵はがき	50	0	0	1	0	4	0	23	0	0	0	0	0	28	1,400
じ み ふ か い セ ッ ト	2,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
勾 玉 セ ッ ト	200	0	0	21	8	0	4	0	0	0	0	0	0	33	6,600
文 化 の 力	1,500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ク リ ア ホ ル ダ ー	200	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
材 料 費 追 加	200	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	14	2,800
G o ! G o ! 5 世 紀 野 帳	400	0	0	53	42	5	6	3	2	1	0	3	5	120	48,000
マ ス キ ン グ テ ー プ	400	0	0	0	7	6	5	2	3	0	2	3	6	34	13,600
勾 玉 ・ ガ ラ ス 玉 セ ッ ト	300	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	15	4,500
報 告 書		10	16	15	16	22	13	15	14	8	11	10	11	161	
報 告 書 (金 額)		5,900	9,500	7,300	11,300	14,600	8,900	8,200	7,000	5,300	5,200	6,200	6,500	95,900	
紀 要		12	8	18	3	6	13	2	7	3	2	2	6	82	
紀 要 (金 額)		8,560	6,460	14,360	2,500	5,100	9,360	1,700	6,400	2,300	1,400	1,600	4,000	63,740	
合 計		92	352	496	383	346	372	146	135	90	53	80	118	2,663	1,829,590

利用状況

IV 法 規

福島県立博物館条例

(昭和61年 3 月25日 条例第30号)

(設 置)

第1条 地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条第1項の規定に基づき、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館法（昭和26年法律第285号）第2条第1項に規定する博物館として、福島県立博物館（以下「博物館」という。）を設置する。

(位 置)

第2条 博物館は、会津若松市城東町8番地に置く。

(業 務)

第3条 博物館において行う業務は、次のとおりとする。

- 1 歴史、考古、民俗、美術工芸、自然等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
- 4 博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行うこと。
- 5 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務を行うこと。

(観覧料)

第4条 博物館の展示品（以下「展示品」という。）を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。

(観覧料の免除)

第5条 知事は、公益上の必要があると認めるときは、規則で定めるところにより、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

(観覧料不返還の原則)

第6条 既納の観覧料は、返還しない。ただし、規則で定める場合は、その全部又は一部を返還することができる。

(遵守事項)

第7条 博物館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 1 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 2 物品を販売し、又は頒布しないこと（教育委員会の許可を受けた場合を除く。）。
- 3 展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと（教育委員会の許可を受けた場合を除く。）。
- 4 所定の場所以外において、喫煙及び飲食を行わないこと。
- 5 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- 6 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(入館の規制等)

第8条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

- 1 前条の規定に違反した者
- 2 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者
- 3 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(職 員)

第9条 博物館に事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(委 任)

第10条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理その他この条例の施行に関して必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

別表（第4条関係）

区 分	普通観覧料の額 （一人当たり）		特別観覧料の額	年間観覧料の額 （同一人が有効期間内に利用する場合）	共通観覧料 の額
	個人	団体			
一般（大学生を含む。）	280円	220円	その都度知事が定める額	3,300円の範囲内で知事が定める額	220円
高校生及びこれに準ずる者	無料	無料	その都度知事が定める額	1,980円の範囲内で知事が定める額	
中学生、小学生及びこれらに準ずる者	無料	無料	その都度知事が定める額	1,320円の範囲内で知事が定める額	

備考

- 1 「普通観覧料」とあるのは、常設展の展示品のみを観覧する場合の観覧料をいい、「特別観覧料」とあるのは、企画による展示品を観覧する場合（常設展の展示品を併せて観覧する場合を含む。）の観覧料をいい、「年間観覧料」とあるのは年間利用に係る普通観覧料及び特別観覧料をいい、「共通観覧料」とあるのは常設展の展示品及び規則で定めるものを併せて観覧する場合の観覧料をいう。
- 2 「団体」とあるのは、20人以上の団体をいう。
 附 則（平成9年条例第52号）
 この条例は、平成9年4月1日から施行する。
 附 則（平成11年条例第93号）
 この条例は、平成12年4月1日から施行する。
 附 則（平成15年条例第53号）
 この条例は、平成15年4月1日から施行する。
 附 則（平成25年条例第119号）
 この条例は、平成26年4月1日から施行する。
 附 則（平成28年条例第53号）
 この条例は、平成28年4月1日から施行する。
 附 則（平成30年条例第46号）
 この条例は、平成30年4月1日から施行する。
 附 則（平成31年条例第48号）
 この条例は、平成31年10月1日から施行する。
 附 則（令和2年条例第25号）
 この条例は、令和2年4月1日から施行する。
 附 則（令和5年条例第32号）
 この条例は、令和5年4月1日から施行する。

福島県立博物館運営協議会条例

（昭和61年3月25日 条例第31号）

（設 置）

第1条 博物館法（昭和26年法律第285号）第23条第1項の規定に基づき、福島県立博物館（以下「博物館」という。）の適正な運営を図るため、福島県立博物館運営協議会（以下「協議会」という。）を置く。

（組 織）

第2条 協議会の委員（以下「委員」という。）の定数は、10人以内とする。

（委員の任命及び任期）

第3条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

2 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

（会長及び副会長）

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会 議）

第5条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

（庶 務）

第6条 協議会の庶務は、博物館において処理する。

（雑 則）

第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則（平成24年条例第43号）

1 この条例は、平成24年4月1日から施行する。

2 この条例の施行の際現に改正前の福島県立博物館運営協議会条例第3条第1項の規定により任命されている福島県立博物館運営協議会の委員は、その残任期間中は、改正後の福島県立博物館運営協議会条例第3条第1項の規定により任命された福島県立博物館運営協議会の委員とみなす。

附 則（令和 5 年条例第33号）
この条例は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

福島県立博物館条例施行規則

（昭和61年 3 月25日 教育委員会規則第 5 号）

（休館日）

第 1 条 福島県立博物館（以下「博物館」という。）の定期的休館日は、次のとおりとする。

- 1 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（次号において「休日」という。）に当たるときを除く。
- 2 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日になるときに除外。
- 3 1 月 1 日から同月 4 日まで
- 4 12 月 28 日から同月 31 日まで

2 博物館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

（開館時間）

第 2 条 博物館の開館時間は、午前 9 時 30 分から午後 5 時までとする。ただし、館長は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。

（観覧手続）

第 3 条 館長は、福島県立博物館条例（昭和61年福島県条例第30号。以下「条例」という。）第4条の規定により観覧料を納入した者（年間観覧料を納入した者（以下「年間観覧者」という。）を除く。）に対し、観覧券（様式第 1 号）を交付するものとする。

第 3 条の 2 館長は、年間観覧者に対し年間観覧券（様式第 1 号の 2）を交付するものとし、その有効期間は、年間観覧券の交付の日から起算して一年とする。

2 年間観覧者は、入館する際に有効な年間観覧券を提示するものとする。

3 年間観覧券の利用は、同一人に限るものとする。

第 3 条の 3 条例別表備考 1 の規則で定めるものは、若松城天守閣及び会津若松市麟閣とする。

（観覧料の免除及びその手続）

第 4 条 館長は、条例第 5 条の規定により、次の表の上欄に掲げる場合における普通観覧料について、同表の下欄に掲げる額を免除するものとする。

普通観覧料を免除する場合	免除する額
1 大学生（これに準ずる者として福島県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が別に定める者を含む。）及びその引率者並びに高校生、中学生及び小学生（これらに準ずる者として教育長が別に定める者を含む。）の引率者が、学校教育に基づく活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
2 県、又は市町村が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の100分の50に相当する額（引率者にあつては全額）
3 国民の祝日に関する法律第 2 条に定めるこどもの日、敬老の日及び文化の日に観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
4 知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証の交付を受けている者が観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
5 その他免除することが公益上適当と認めるとき。	教育長が別に定める額

2 観覧料の免除を受けようとする者（前項の表の第 3 号又は第 4 号のいずれかに該当する場合に観覧料の免除を受けようとする者を除く。）は、前項の表の第 1 号又は第 2 号に該当する場合にあつては観覧しようとする日の 3 日前まで、第 5 号に該当する場合にあつては10日前までに観覧料免除申請書（様式第 2 号）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の規定により観覧料の免除を承認したときは、観覧料免除承認書（様式第 3 号）を交付するものとする。

（観覧料の返還）

第 5 条 館長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、それぞれ当該各号に定めるところにより、観覧料の全部又は一部を返還するものとする。

1 観覧しようとする者の責めによらない理由により観覧することができなくなったとき（観覧しようとする者が年間観覧者であるときを除く。）全額

2 その他やむを得ない理由があると認めるとき。教育長が別に定める額

2 観覧料の返還を受けようとする者は、観覧料返還申請書（様式第 4 号）に観覧券を添えて、館長に提出しなければならない。

(博物館資料の特別利用)

第6条 博物館が所蔵し、又は寄託を受けている博物館資料を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようする者は、館長の承認を受けなければならない。

(教育長への委任)

第7条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

- 1 この規則は、昭和61年4月1日から施行する。
- 2 第3条の2第1項の有効期間中に工事により休館する期間がある場合は、その期間を一年に加算した期間を同項の有効期間とする。

様式第1号 (第3条関係)

観 覧 券 (観覧者の区分) (金 額)	観 覧 券 (観覧者の区分) (金 額)
福島県立博物館	福島県立博物館

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

様式第1号の2 (第3条の2関係)

(表)

年間観覧券

福島県立博物館

(裏)

(交付番号) (観覧者の区分)

(有効期間)

御利用に際して

1 福島県立博物館が主催する展覧会のみ有効です。

2 下記に署名された御本人以外の方は使用できません。

3 御購入後の紛失等による再発行はいたしません。

(氏 名)

(学 校 名) (学 年)

福島県立博物館

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

様式第2号(第4条関係)

福島県立博物館長

年 月 日

申請者 住所又は所在地
氏名又は名称及
び代表者の氏名
観 覧 料 免 除 申 請 書

印

次の理由により観覧料を免除してください。

観 覧 目 的				
観 覧 日 時	年 月 日	時 分	分から	分まで
観 覧 者 の 種 別 及 び 人 数	一 般 人		その他()	人
	大 学 生		()	
	高 校 生			
	中 学 生		引 率 者	
	小 学 生		合 計	
免 除 申 請 の 理 由				
引率者の職及び氏名	職	氏名		
連絡先及び電話番号	電話 ()			
観 覧 料	免 除 率	免 除 金 額	免 除 の 根 拠	
※ 円 ※		※ 円 ※		
上記のとおり承認してよろしい。				
館 長	副 館 長	総務課長	主 任	

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

様式第3号(第4条関係)

第 号
年 月 日

様

福島県立博物館長

観覧料免除承認書

観覧料の免除について、次のとおり承認します。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日	時 分	分から	分まで
観覧者の種別 及び人数	一般 人	その他()		人
	大 学 生		()	
	高 校 生			
	中 学 生		引 率 者	
	小 学 生		合 計	
免除申請の理由				
注 意 事 項				
観覧料	免除率	免除金額		
円		円		

様式第4号(第5条関係)

年 月 日

福島県立博物館長

住所又は所在地
氏名又は名称及
び代表者の氏名

申請者

印

観覧料返還申請書

次の理由により観覧料を返還してください。

展覧会の名称			
観覧料の納入月日	年 月 日		
既納観覧料の 区分及び金額	区 分	人 数	金 額
		人	円
	合 計		
返還を申請する理由			
連絡先及び電話番号	電 話 ()		
観覧料	返還率	返還金額	返還の根拠
※ 円	※	※ 円	※
上記のとおり返還してよろしい。			
館 長	副 館 長	総務課長	主 任
受 付 月 日	・ ・	決 裁 月 日	・ ・

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

- 附 則（昭和63年教委規則第9号）
この規則は、昭和63年4月1日から施行する。
- 附 則（平成3年教委規則第13号）
1 この規則は、公布の日から施行する。
2 この規則の施行の際現に作成されている改正前の規則に定める様式による用紙は、当分の間、使用することができる。
- 附 則（平成4年教委規則第14号）
この規則は、平成4年9月1日から施行する。
- 附 則（平成7年教委規則第15号）
この規則は、平成7年4月1日から施行する。
- 附 則（平成8年教委規則第16号）
この規則は、平成8年4月1日から施行する。
- 附 則（平成8年教委規則第20号）
この規則は、平成8年10月1日から施行する。
- 附 則（平成12年教委規則第16号）
この規則は、平成12年4月1日から施行する。
- 附 則（平成14年教委規則第14号）
この規則は、平成14年4月1日から施行する。
- 附 則（平成15年教育委員会規則第3号）
この規則は、平成15年4月1日から施行する。
- 附 則（平成30年教育委員会規則第7号）
この規則は、平成30年4月1日から施行する。
- 附 則（令和2年教育委員会規則第8号）
この規則は、令和2年4月1日から施行する。
- 附 則（令和3年教育委員会規則第15号）
(施行期日)
1 この規則は、令和3年4月1日から施行する。
(経過措置)
2 この規則による改正前の福島県教育委員会が管理する公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する規則、学校教育法施行細則、福島県立美術館条例施行規則、福島県立博物館条例施行規則、福島県文化財保護条例施行規則、福島県立高等学校の通学区域に関する規則、福島県立高等学校学則、福島県奨学資金貸与条例施行規則、福島県立学校の管理運営に関する規則、福島県高等学校定時制課程及び通信制課程修学資金貸与条例施行規則、福島県立中学校学則及び福島県立特別支援学校学則（以下これらを「改正前の規則等」という。）に規定する様式については、この規則の規定による改正後の福島県教育委員会が管理する公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する規則、学校教育法施行細則、福島県立美術館

条例施行規則、福島県立博物館条例施行規則、福島県文化財保護条例施行規則、福島県立高等学校の通学区域に関する規則、福島県立高等学校学則、福島県奨学資金貸与条例施行規則、福島県立学校の管理運営に関する規則、福島県高等学校定時制課程及び通信制課程修学資金貸与条例施行規則、福島県立中学校学則及び福島県立特別支援学校学則（以下これらを「改正後の規則等」という。）に規定する様式にかかわらず、当分の間、所要の調整をして使用することができる。

3 この規則の施行の際現に改正前の規則等に基づき提出、通知又は作成されている届出書等の書面は、それぞれ改正後の規則等に基づき提出、通知又は作成されている届出書等の書面とみなす。

附 則（令和5年教育委員会規則第6号）

この規則は、令和5年4月1日から施行する。

福島県立博物館組織規則

（昭和61年3月25日 教育委員会規則第6号）

（目 的）

第1条 この規則は、福島県立博物館（以下「博物館」という。）の組織に関して必要な事項を定めることを目的とする。

（課）

第2条 博物館に次の課を置く。

総務課

学芸課

（事業分掌）

第3条 総務課においては、次の事務を行う。

- 1 館内事務の総合調整及び企画調査に関すること。
- 2 公印の管理に関すること。
- 3 人事に関すること。
- 4 文書の収受、発送、編集及び保存に関すること。
- 5 予算の編成、経理及び執行に関すること。
- 6 物品の調達及び処分に関すること。
- 7 財産の管理に関すること。
- 8 観覧料の徴収に関すること。
- 9 福島県立博物館運営協議会に関すること。
- 10 前各号に掲げるもののほか、他課の所掌に属しない事務に関すること。

2 学芸課においては、次の事務を行う。

- 1 博物館資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。
- 2 博物館資料に関する調査及び研究に関すること。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- 4 博物館資料に関する解説書、年報、調査研究報告書等の作成に関すること。
- 5 博物館資料に関する相談、情報提供その他博物館資料に関する教育の普及に関すること。
- 6 国立博物館、公立博物館その他の教育機関及び関係団体との連絡提携に関すること。
- 7 前各号に掲げるもののほか、博物館資料に関する専門的事項に関すること。

（館 長）

第4条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は、上司の命を受け、博物館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

（副館長）

第5条 博物館に副館長を置く。

- 2 副館長は、館長を補佐し、博物館の事務を整理する。

（課 長）

第6条 博物館の課に課長を置く。

- 2 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理し、所属職員を指揮監督する。
- 3 前項に規定するもののほか、課長は、課の事務を点検する。

第7条 削除

（学芸員等）

第8条 博物館に主任専門学芸員、専門学芸員、主任学芸員、副主任学芸員及び学芸員を置く。

- 2 主任専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の高度な学芸事務を処理する。
- 3 専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の学芸事務を処理する。
- 4 主任学芸員は、上司の命を受け、担任の学芸事務を処理する。
- 5 副主任学芸員は、上司の命を受け、高度な学芸事務をつかさどる。
- 6 学芸員は、上司の命を受け、学芸事務をつかさどる。

(その他の職)

第9条 博物館に、第4条から前条までに規定する職のほか、必要に応じ、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職の職務は、それぞれ同表の当該下欄に掲げるとおりとする。

職	職 務
主 幹	上司の命を受け、特に指示された事務を掌理する。
事 務 長	上司の命を受け、副館長を補佐し、博物館の事務を処理する。
主 任 主 査	上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理し、並びに担当する事務を取りまとめ、及び整理する。
主 査	上司の命を受け、担任の事務を処理する。
副 主 査	上司の命を受け、高度な事務をつかさどる。
主 事	上司の命を受け、事務をつかさどる。
専 門 員	上司の命を受け、担任の専門的業務に従事する。

附 則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則 (平成6年教委規則第4号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則 (平成13年教委規則第6号)

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則 (平成14年教委規則第18号)

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則 (平成25年教委規則第8号)

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則 (平成25年教委規則第11号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則 (令和2年教委規則第5号)

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則

(昭和61年3月25日 福島県規則第11号)

福島県立博物館条例(昭和61年福島県条例第30号)第5条、第6条ただし書き及び別表に規定する知事の権限は、福島県教育委員会に委任する。

附 則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

福島県立博物館収集展示委員会設置要綱

(設 置)

第1条 福島県立博物館に収蔵する博物館資料(以下「資料」という。)の収集並びに展示計画について審議するため、福島県立博物館収集展示委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(組 織 等)

第2条 委員会は12人以上の委員を持って構成する。

2 委員は学識経験者のうちから福島県立博物館長(以下「館長」という。)が委嘱する。

3 委員会に委員長及び副委員長を置く。委員長及び副委員長は委員の互選により選出する。

4 委員長は委員会を代表し、会務を掌握する。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

(会 議)

第3条 委員会は必要のつど館長が招集する。

2 委員会は資料収集の適否及び展示計画等について審議し、その結果を館長に報告する。

3 委員会は特に必要がある場合、委員以外の専門的分野に関する学識経験者の指導及び助言を求めることができる。

(展示計画作成委員)

第4条 委員会は展示計画原案作成のため、委員のうちから6人の展示計画作成委員(以下「展示委員」という。)を選任する。

2 展示委員は次の任務を遂行する。

- (1) 展示計画原案の作成
- (2) 展示計画作成のための基礎的資料の収集
- (3) 展示計画作成に関する専門的指導

(任 期)

第5条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(庶 務)

第6条 委員会の庶務は、福島県立博物館において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員長が定める。

附 則

この要綱は、昭和56年5月1日から施行する。

昭和61年4月1日一部改正

福島県立博物館資料所在調査要領

1) 調査の目的

福島県内に散在する考古、歴史、民俗美術工芸等の資料について、その所在及び内容を把握し、県立博物館の活動のための基礎データを得ることを目的とする。

2) 調査の実施

(1) 調査員

イ) 調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から館長が委嘱する。

ロ) 委嘱期間は、4月1日から3月31日までの1年間とする。

(2) 調査の内容

資料の種類、形状、用途、数量、由来、時代、保存状況、所有者等について調査する。

(3) 調査の時期

4月1日から3月31日とする。

(4) 調査カードの作成・提出

調査員は、調査資料についてカードを作成し、福島県立博物館に提出する。

福島県立博物館資料調査員設置要綱

(設 置)

第1条 福島県立博物館の収集、展示、研究等に関する基礎データを得るため福島県立博物館資料調査員（以下「資料調査員」という。）を置く。

(選 任)

第2条 資料調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から、福島県立博物館館長（以下「館長」という。）が委嘱する。

(職 務)

第3条 資料調査員は、福島県内に散在する考古、歴史、民俗、美術工芸等の資料について、所在及び内容を調査し、その結果を館長に報告する。

(任 期)

第4条 資料調査員の任期は1年とする。

2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(補 足)

第5条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、昭和55年4月1日から施行する。

昭和61年4月1日一部改正。

福島県立博物館友の会規約

(名 称)

第1条 本会の名称は、福島県立博物館友の会という。

(目 的)

第2条 本会は、博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互

の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- 1 広報活動
- 2 講演会・研修会の開催
- 3 博物館に関連する事業への協力
- 4 図書券の斡旋等の事業
- 5 その他本会の目的達成のために必要な事業

(会員及び会費)

第4条 会員の種類は次のとおりとし、会員には会員証を交付する。

- ① 個人会員 本会の目的に賛同し、年額2,000円を納めた個人。
- ② 家族会員 本会の目的に賛同し、年額3,000円を納めた生計を一にする家族。
- ③ 高校生会員 本会の目的に賛同し、年額500円を納めた高校生個人。
- ④ 賛助会員 本会の目的に賛同し、特に会の発展に協力するため、年間10,000円を納めた個人及び団体。

- 2 会員の期間は、入会の年4月1日から翌年の3月31日までの1年間とする。
- 3 会員が退会した場合であっても、既に納入した会費はこれを返還しない。

(会員の特典)

第5条 会員は次の特典を受けることができる。

- 1 博物館の展示を観覧する場合に、特別な便宜を受けることができる。
- 2 会報、博物館だより、博物館の各種催しの案内等の情報の提供を受けることができる。
- 3 本会が主催する事業に参加することができる。
- 4 会員が歴史や文化等の研究に際し、指導を受けることができる。

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く

- | | |
|-------|----------------------------|
| 会 長 | 1 名 |
| 副 会 長 | 若干名 |
| 幹 事 長 | 1 名 |
| 会 計 | 2 名 |
| 幹 事 | 若干名 (各サークルの代表者は、本会の幹事となる。) |
| 監 事 | 2 名 |

- 2 幹事のうち1名は、福島県立博物館学芸課長の職にある者を充てる。

(役員の選出及び任期)

第7条 役員は総会において選出し、任期は2年とする。ただし再任は妨げない。

- 2 補欠のため任ぜられた役員の任期は、前任者残任期間とする。

(役員の職務)

第8条 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。
- 3 幹事長は、本会の会務並びに実務を主となって処理する。
- 4 幹事は、本会の会務を運営し、その実務に携わる。
- 5 監事は、本会の会計を監査する。
- 6 会計は、本会の会計業務一切を主務とする。

(会 議)

第9条 総会は、毎年1回会長が招集し、事業計画、予算、決算、役員選任、その他重要事項をはかるものとする。

- 2 役員会は、必要のつど会長が招集する。
- 3 総会および役員会の議長は、会長があたるものとする。
- 4 議事は、出席者の過半数により決する。

(顧 問)

第10条 本会は、顧問を置くことができる。顧問は、役員会の承認を得て、会長が委嘱する。

(委員会)

第11条 本会の活動を円滑に進めるため、次の委員会を置き、各業務を行う。

- (1) 総務委員会 博物館との連絡調整に関すること
- (2) 会報編集委員会 会報の編集と発行に関すること
- (3) 研修旅行委員会 研修旅行の立案と実施に関すること
- (4) 行事広報委員会 各種行事の立案と本会及び博物館行事の広報に関すること
- (5) 会員募集委員会 会員の募集に関すること

(研修サークル)

第12条 本会の目的を達成するため、本会に研修サークルを組織することができる。

- 2 サークルの設立については、役員会の承認を得るものとする。

(会計年度)

第13条 本会の会計年度は、毎年3月1日に始まり、翌年2月末日に終わるを原則とする。

2 本会の経費は、会費、寄付金、事業収入等をもってあててのものとする。

(表彰)

第14条 退任した役員のなかで、本会の目的推進のため功労のあった者を役員会において選考し、会長名で表彰する。

(事務局)

第15条 本会の事務を処理するための事務局を、福島県立博物館内に置くものとする。

2 本会の事務局員は会長が委嘱する。

(その他)

第16条 本規約に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項については、会長が別に定める。

細 則

第1条 規約第12条に基づく研修サークルを設立するにあたっては、次の要件を満たしていることを必要とする。

(1) 研修サークルの構成員は本会の会員であること。

(2) 研修サークルの性格・概要（名称・規約・会費・予算等）が明確にされていること。

2 研修サークルには、本会の予算の範囲内で活動費の一部を補助することができる。

3 会長は、各サークルの代表を幹事に推挙することができる。

第2条 規約第14条に基づく表彰に関する規定を次のとおり定める。

(1) 表彰は、感謝状及び記念品の贈呈とする。

(2) 表彰の基準は、下記の役員に4年以上あった者及び本会への貢献が顕著であった者とする。

会長 副会長 幹事 監事

(3) 表彰する時期は、退任した次年度の総会あるいは記念式典等の開催時とする。

第3条 本会には次の簿冊を備える。

会議記録簿 役員名簿 会計簿 会員名簿 提出書類控え簿

附 則

1 この規約は、平成元年4月1日から施行する。

2 この規約は、平成3年4月1日から施行する。(第6条第2項関係)

3 この規約は、平成5年4月1日から施行する。(第4条第1項②関係)

4 この規約は、平成7年4月1日から施行する。(第11条第1項、第12条第1項関係)

5 この規約は、平成8年4月1日から施行する。(第4条第1項③関係)

6 この規約は、平成11年4月1日から施行する。(第6条第1項関係)

7 この規約は、平成23年3月1日から施行する。(第11条第1項関係)

8 この規約は、平成27年3月26日から施行する。(第6条、第8条第3項・4項関係)

9 この規約は、平成28年4月1日から施行する。(第6条第1項・第8条3項関係)

10 この規約は、平成30年3月17日から施行する。(第6条1項会計関係)。

11 この規約は、令和2年3月22日から施行する。(第11条、第12条、第14条関係)

V 施設の概要

1. 建築概要

設計者	㈱佐藤武夫設計事務所
工事監理	福島県会津若松建設事務所 ㈱佐藤武夫設計事務所
施工者	建築本体工事 福島県立博物館(本体)工事 清水建設㈱・会津土建㈱・秋山建設㈱共同企業体 電気設備工事 福島県立博物館建設(電気設備)工事 六興電機㈱・吉田電工㈱共同企業体 空調設備工事 福島県立博物館建設(空調設備)工事 新日本空調㈱・若松ガス工業㈱共同企業体 火災報知その他設備工事 福島県立博物館建設(火災報知その他設備)工事 ㈱富士工業商会 給排水衛生設備工事 福島県立博物館建設(給排水衛生設備)工事 ㈱共立配管工業所 昇降機設備工事 福島県立博物館建設(昇降機設備)工事 ダイコー㈱
面積	敷地面積 37,269.6㎡ 建築面積 10,986.23㎡ 延面積 11,071.44㎡ 1階 9,980.45㎡ 2階 1,090.99㎡
建築事業費	6,451,641千円 内訳 建物本体 4,623,714 展示工事 1,257,500 外構工事 368,688 その他庁用備品等 201,739
規模	地上2階
最高の高さ	20.6m
最高の軒高	13.6m
地域地区	住居地域 風致地区第1種

構造	主体構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 基礎構造 場所打ちコンクリート杭
外部仕上げ	屋根 厚0.6硫化銅板 特殊一文字葺 外壁 特焼磁器質タイル打込プレキャスト コンクリート板 建具 アルミ断熱サッシ電解着色仕上げ (エントランスホール・展示ロビー)
内部仕上げ	床 花崗岩ジェットバーナー仕上げ 壁 凝灰岩リブ付厚40m/m 天井 練付合板 クリアラッカー仕上げ (総合展示室) 床 カーペットタイル 壁 プラスターボード厚12m/m 天井 アルミ特殊ルーバー天井 (講堂) 床 カーペットタイル 壁 凝灰岩 リブ付 天井 練付合板 アクリルラッカー仕上げ (第1・3・6収蔵庫) 床 ブナフローリングボード厚12m/m 壁 杉板厚12m/m ヒブクラハギ張 天井 杉板厚12m/m 本実張 (第2収蔵庫) 床 コンクリート塗り床 壁 化粧珪酸カルシウム板 天井 化粧珪酸カルシウム板 (第4収蔵庫) 床 ブナフローリングボード厚12m/m 壁 化粧珪酸カルシウム板 天井 化粧珪酸カルシウム板 (第5収蔵庫) 床 コンクリート塗り床 壁 プラスターボード 天井 化粧珪酸カルシウム板 着工 昭和59年7月7日 完成 昭和61年3月25日
工期	

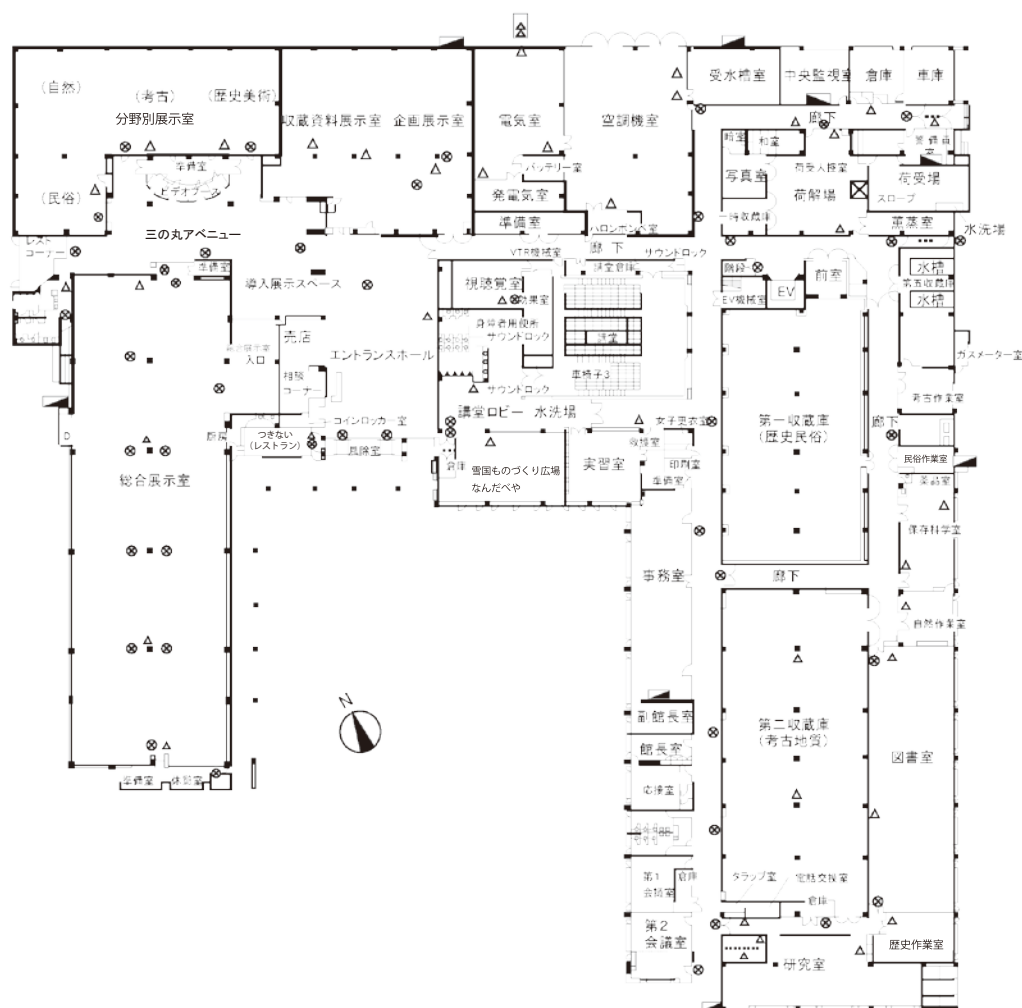
2. 設備

電気設備	
1. 電気設備	受電電圧 3相3線式 6.6KV 50Hz 変圧器容量(業務用) 1575KVA (冬季用) 400KVA
2. 非常用電源	発電機 3相3線式 6.6KV 50Hz 400KVA 蓄電池 密閉型アルカリ AH-PE200AH86セル
3. その他	電話設備、インターホン設備、TV共同 視聴設備、自動火災報知器設備、防 火戸等制御設備、ガス漏警報設備、非 常用放送設備、ITV監視設備
4. 視聴設備	TVカメラ、ビデオ調整卓、ビデオデ ッキ、音響総合ラック
空調設備	
1. 空調方式	各室ユニット型空調機 17系統ファン コイル ユニット方式
2. 熱源設備	ガス直焚冷水発生器(150RT)×2 ガス焚鉄セクショナルボイラー (396.00Kcal/H) 水冷式チーリングユニ ット(120RT)

衛生設備	
1. 給水	市水道 受水槽:50?
2. 消火設備	(屋内) スプリンクラーとハロン消化 設備の併用、(屋外) 野外消火栓
昇降機設備	油圧式エレベーター定格荷重:3t1基 油 圧式リフト 定格荷重:2t1基
融雪設備	ロードヒーター・屋根ヒーター、陸屋根ヒーター・ ドレンヒーター、外気温度地面温度・降 雪感知器・乾地面温度・湿地面温度センサー の組み合わせにより自動運転または手動運転。
監視設備	分散形総合監理制御システムにより、受電設 備・防災設備・熱源設備・空調設備・融雪設 備・庭園設備等を遠方発停制御及び計測監視 を行う。
電話設備	電子交換外線3回線 内線64回線
火災報知設備	受信盤P型1級 60回線(自火報)33回線(防 排煙設備)、煙感知機274箇所、熱感知機93箇 所、排煙区画8系統、平面地図盤(照光式) により表示
防犯設備	電波センサー・電子サイン・ITVを必要箇 所に設置し、監視制御システムと併用

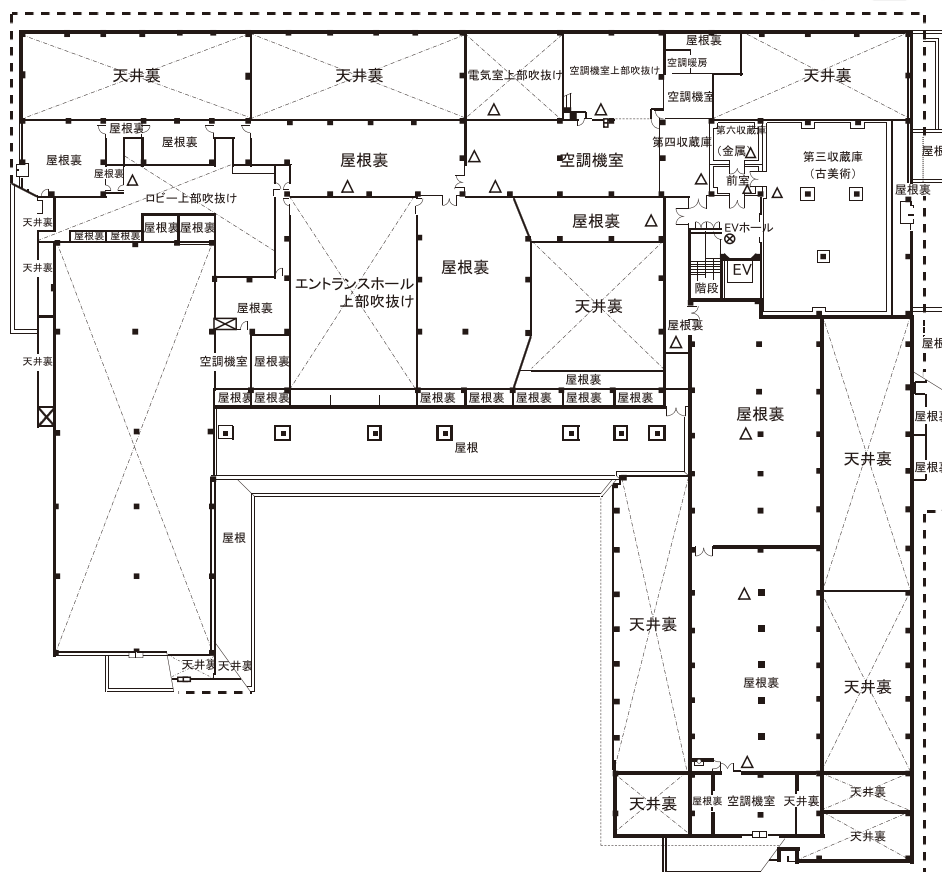
3. 平面図・各室一覧

1 階平面図



施設の概要

2 階平面図



各室面積表

室名	面積(㎡)	備考	室名	面積(㎡)	備考
収蔵スペース		2,294.8 (㎡)	応接室	36.5	
荷受場	90.5		第1会議室	34.8	
荷解場	164.5		第2会議室	70.7	
荷受人控室	25.1		更衣室	13.2	
一時収蔵庫	30.4		湯沸室	5.0	
燻蒸室	30.7		印刷室	16.2	
民俗作業室	39.6		救護室	13.2	
写真室	57.0	スタジオと暗室	警備員室	30.0	
第1収蔵庫	614.2	歴史・民俗	宿直室	25.1	
第2収蔵庫	617.7	考古・地質	倉庫A	29.4	
第3収蔵庫	393.6	古美術	倉庫B	43.6	収集用 (1)
第4収蔵庫	75.6	剥製・植物標本	車庫	55.8	
第5収蔵庫	104.9	液浸	展示準備室(1)(2)	31.7	総合展示室用
第6収蔵庫	51.5	金属	展示準備室(3)(4)	71.1	部門・企画・ 収蔵資料用
研究スペース		788.3 (㎡)	機械スペース		1,253.1 (㎡)
研究室	238.4		空調機室1F	393.2	
自然作業室	37.6		空調機室2F	479.4	
保存科学室	77.2		電気室	132.5	
考古作業室	72.3		中央監視室	52.8	
薬品庫	8.8		発電気室	50.2	
図書室	300.0		バッテリー室	14.4	
歴史作業室	54.0		受水槽室	66.7	
展示スペース		693.1 (㎡)	ハロンボンベ室	31.7	
総合展示室	1,536.9		E V 機械室	17.1	
部門展示室	585.8		電話交換機室	6.3	
企画展示室	484.1		V T R 機械室	8.8	
収蔵資料展示室	208.3		サービス・共用スペース		2,507.54 (㎡)
教育普及スペース		693.1 (㎡)	エントランス・ホール	461.1	
講堂	257.8		レストラン	83.7	厨房含む
講堂倉庫	15.0		売店・相談コーナー	73.3	ロッカー含む
体験学習室	173.5		便所(展示)	32.6	
視聴覚室	65.6		便所(中央)	68.8	
効果室	32.1		便所(展示)	31.3	
実習室	128.3		展示ロビー	513.8	ビデオブース・ワーク ショップを含む
実習準備室	20.8		レストコーナー	40.3	
管理スペース		719.5 (㎡)	その他	1,202.64	
事務室	166.1		計	11,071.44	
館長室	45.6				
副館長室	31.5				

4. 施設の修理・改築

平成 7年 8月 9日	消防施設整備工事（スプリンクラー設備修繕）（～10. 31）
平成 8年10月 1日	博物館地域福祉推進特別対策事業（誘導表示等設置 段差解消スロープ 車椅子駐車場 2 台分）（～9. 3. 19）
平成12年10月27日	給水ポンプ取替工事（～13. 1. 9）
平成14年 9月12日	博物館東・北面外壁タイル補修工事（～12. 16）
平成15年 9月19日	非常用蓄電池取替工事（～11. 20）
10月21日	吸収冷温水機真空部取替工事（～16. 1. 8）
平成16年10月 5日	屋根補修工事（～12. 17）
12月21日	吸収冷温水機真空部取替他工事（～17. 3. 18）
平成17年 7月22日	屋根補修工事（～10. 4）
平成18年 1月 6日	熱源コントローラー交換工事（～3. 17）
	スプリンクラーヘッド交換工事（～3. 17）
平成19年 1月 5日	スプリンクラー設備修繕工事（～3. 23）
平成19年 2月 1日	1 階床張替え補修工事（～3. 23）
平成19年 2月21日	ウォシュレット取付け工事（～3. 19）
平成21年 1月21日	高圧引込設備改修工事（電柱立替外）（～3. 24）
平成21年 6月 3日	冷却塔ヘッダー管交換 2 回（～12. 25）
平成21年12月18日	消防設備修繕（呼水槽、消火栓ホース、ハロゲン非常用電源設備外）（～22. 2. 26）
2月17日	企画展示室改修工事（～3. 29）
11月16日	中央監視システム更新工事（～23. 4. 25）
11月26日	空調熱源機器改修工事（～23. 4. 22）
平成23年 1月20日	空調設備改修工事（～4. 25）
平成27年 9月 1日	冷房暖房設備改修工事（～11. 24）
平成27年 9月 2日	シャッター撤去・新設工事（～10. 15）
平成28年 9月13日	冷却塔外改修工事（～H29. 3. 10）
平成29年11月 1日	非常用電気設備触媒栓交換修繕（～H29. 12. 27）
平成30年 3月27日	屋根等改修工事（～H30. 12. 14）
平成30年 9月11日	温水ボイラー修繕（～H30. 9. 27）
平成30年 9月15日	中央監視システム修繕（～H30. 11. 1）
令和元年 8月19日	自動火災報知器設備更新工事（～2. 1. 9）
令和 2年11月11日	非常放送設備更新工事（～3. 3. 5）
令和 2年11月17日	点字ブロック改修工事（～3.3.30）
令和 3年 9月 1日	空調自動制御機器更新工事（～4. 3. 30）
令和 3年 9月15日	構内情報通信網設備工事（～3. 11. 16）
令和 3年11月24日	防火扉修繕工事（～4. 3. 4）
令和 3年11月 2日	キャッシュレス決済用LAN配線工事（～3. 12. 1）
令和 4年 6月10日	構内情報通信網設備工事（～4. 7. 26）
令和 4年 6月10日	体験学習室整備工事（～4. 7. 7）
令和 5年 2月16日	民俗部門展示室電気設備工事（～5. 3. 23）
令和 5年 3月 1日	レストラン照明設備工事（～5. 3. 28）
令和 5年 3月10日	駐車場区画線修繕（～5. 3. 30）
令和 5年 7月14日	ボイラー設備修繕（～5. 12. 22）
令和 5年 7月21日	受変電設備高圧保護継電器修繕（～6. 2. 27）
令和 6年 2月 7日	自動ドア修繕（～6. 3. 14）

5. 沿 革

《開館にいたるまで》

昭和52年	5月13日	文化を考える県民会議の設置
	6～ 8月	文化に関する県民意識調査の実施
昭和53年	1月24日	文化を考える県民会議から県の文化振興について知事に報告
	7月26日	第1回文化振興会議開催
昭和54年	2月 2日	文化振興会議から文化振興の具体策について知事に報告
	3月19日	文化施設等整備基金条例制定
	4月 1日	福島県教育庁文化課内に文化施設班を設置
	2月24日	福島県美術品等取得基金条例制定
昭和55年	4月 1日	福島県教育庁文化課内文化施設整備室を設置
昭和56年	1月26日	県立博物館基本構想検討委員会から建設基本構想の報告を受ける
	2月 3日	県立博物館の建設地を「会津若松市」と決定
昭和57年	2月18日	県立博物館収集展示委員会より「県立博物館総合展示及び部門展示計画」の報告
昭和58年	7月30日	建築実施設計を委託（株式会社佐藤武夫設計事務所） 展示実施設計を委託（株式会社トータルメディア開発研究所）
昭和59年	6月 8日	建設工事契約（株清水建設仙台支店・株会津土建・株秋山建設による共同企業体）
	7月 7日	県立博物館建築工事着工（～61.3.25）
	7月10日	展示工事委託契約（株トータルメディア開発研究所・株乃村工藝社・株丹青社による共同企業体）
	7月13日	展示工事着工（～61.9.10）
昭和61年	3月25日	県立博物館条例 同施行規則 同運営協議会条例及び組織規則制定（61.4.1施行）
	3月31日	県立博物館公所開設にともない文化施設整備室を廃止
	4月 1日	県立博物館公所開設 高橋富雄が初代館長として就任 運営協議会委員10名委嘱
	10月 1日	展示解説員19名採用
	10月18日	県立博物館開館

《開館してから》

昭和61年	11月28日	登録博物館の指定（第10号）
昭和63年	8月21日	入館者50万人達成
平成元年	3月10日	友の会設立
平成 2年	10月 7日	入館者100万人達成
平成 4年	3月31日	日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等の指定（文部大臣）
平成 5年	4月 1日	展示解説員22名となる
平成 7年	5月 5日	入館者200万人達成
平成 8年	10月 5日	開館10周年記念式典を催す
平成12年	10月15日	入館者300万人達成
平成13年	1月25日	博物館リニューアル事業に伴い、新基本構想検討委員会により「福島県立博物館新基本構想」が策定される
平成14年	3月25日	博物館リニューアルの新基本構想に基づいて「展示替え基本計画」を策定
平成15年	3月24日	博物館条例第4条改正により小・中学生及び高校生の普通観覧料を無料とする
	3月28日	高橋富雄館長「金曜講座」第393回目開催
	3月31日	高橋富雄館長退任
	4月 1日	赤坂憲雄が県立博物館長に就任 前館長高橋富雄に県立博物館名誉館長の称号授与
平成16年	4月 8日	赤坂憲雄館長・学芸員「木曜の広場」第1回開催
平成17年	5月 6日	入館者350万人達成
平成18年	9月29日	博物館開館20周年を祝う会「おめでとう20歳の博物館」開催
平成19年	7月	福島県立博物館の使命を策定し公表
平成19年	7月21日	当館と鹿児島県歴史資料センター黎明館との共同企画で企画展「樹と竹 一列島の文化 北から南から一」を開催

平成20年 7月19日	磐梯山噴火記念館および野口英世記念館と連携して共同企画展「会津磐梯山」を開催
平成22年 6月26日	県内の5つの文化施設（福島県立博物館、福島県文化センター、文化財センター白河館、アクアマリンふくしま、ふくしま県民の森フォレストパークあだたら）が連携して夏の企画展「山に生き森に遊ぶ—ふくしまの森林文化—」を開催
平成23年 3月11日	宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生。会津若松市は震度5強。博物館では設備および資料に若干の被害があり、展示室の安全性の確認と修繕工事のため4月10日まで休館
平成24年 5月15日	「福島県被災文化財等救援本部」が発足。当館は、福島県教育庁文化財課、福島大学、福島県文化振興財団とともに幹事として参画。8月～11月にかけて、東京電力福島第1原発事故による警戒区域内に所在する双葉町歴史民俗資料館、富岡町歴史民俗資料館、大熊町民俗伝承館に収蔵されている資料の梱包、搬出、一時保管場所への搬入作業を実施。
平成25年 5月17日	2013年NHK大河ドラマ特別展「八重の桜」を開催
11月27日	「博物館ニュース」創刊から400号達成
平成27年 5月 2日	福島県立博物館と福島県立美術館が美術館移動展示「ふるさと会津の人と四季—福島県立美術館名品展—」を共催
平成28年10月15日	博物館開館30周年記念式典を開催 開館30周年記念特集展「収蔵庫からこんにちは」を開催
平成29年 3月26日	福島県財務規則の改訂により博物館資料「震災遺産類」追加される
令和元年10月12日	令和元年東日本台風（令和元年台風19号）
令和 2年 3月19日	赤坂憲雄館長 最後の「館長講座」開催
3月31日	赤坂憲雄館長退任
4月21日	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため5月16日まで臨時休館
11月18日	当館と共同申請者が策定、申請した「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」が文化庁より認定を受ける。 「福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業『三の丸からプロジェクト』」を開始する。
令和 4年 8月31日	入館者500万人達成
令和 5年 4月 8日	分野別展示室「民俗」リニューアルオープン
4月15日	福島県立博物館常設展・鶴ヶ城・茶屋隣閣の3施設共通観覧券販売開始
令和 6年 2月22日	総合展示室の排煙設備不具合のため3月1日まで展示室の観覧休止 3月2日以降総合展示室以外の展示室等の観覧を再開

VI 利用案内

● 開館時間

午前 9 時 30 分～午後 5 時（最終入館は午後 4 時 30 分まで）

● 休館日

- ◎毎週月曜日（祝祭日にあたる場合は開館）
- ◎祝祭日の翌日（土・日・祝祭日にあたる場合は開館）
- ◎年末年始（12月28日～1月4日）
- ◎その他、館内メンテナンスのために臨時に休館することがあります。

● 観覧料

- ◎常設展（ ）内は、団体20人以上の料金
一般・大学生280円（220円） 高校生以下は無料
- ◎企画展 そのつど定めます。
- ◎年間パスポート（購入日より1年間有効）

一般・大学生2,000円

★学校の引率者、大学の教育活動、公民館等の団体は事前の申請により常設展料金の減免を受けることができます。

★身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は無料。

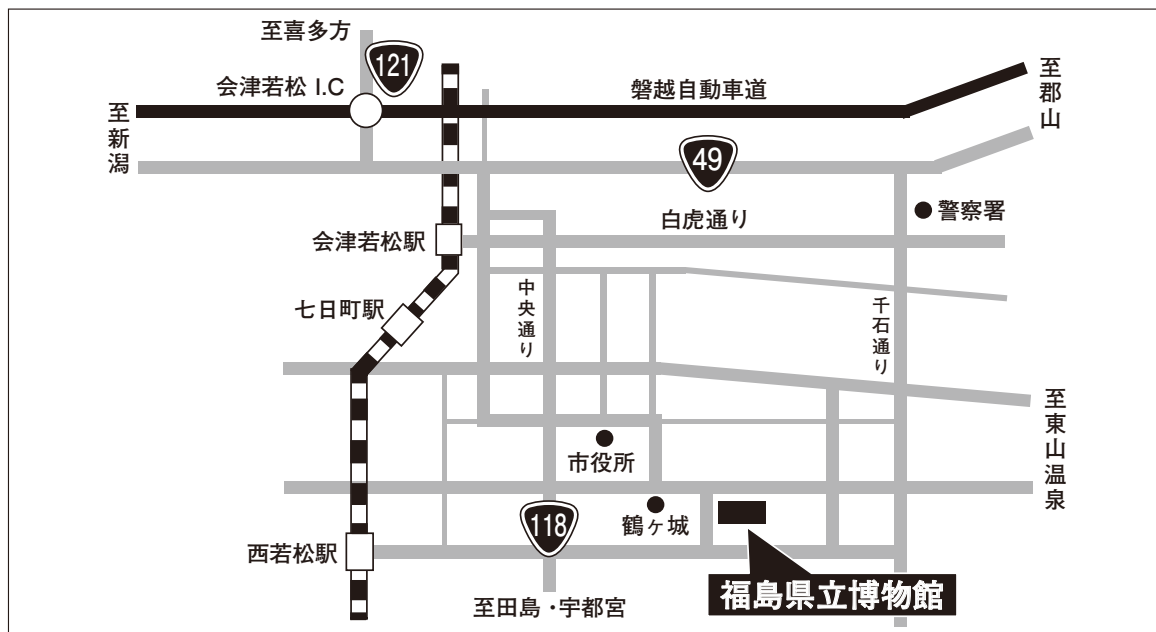
また1種（精神障害者保健福祉手帳にあっては1級）の認定を受けている方に限り、介護者1名が無料。

★知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証を交付されている方は常設展のみ無料。

★展示室以外の入館は無料。

● 常設展無料開放日

5月5日（子供の日）／8月21日（県民の日）／9月18日（敬老の日）／11月3日（文化の日）



● 交通案内

◎会津若松駅より約 3 km

◎市内バス利用の場合

①まちなか周遊バス「ハイカラさん」鶴ヶ城三ノ丸口下車徒歩 1 分

②まちなか周遊バス「あかべえ」鶴ヶ城三ノ丸口下車徒歩 1 分

● 体の不自由な方へ スロープ・専用トイレなどを備えたほか、車いすも用意しています。

● 講座・講演など 博物館では講演会・実技講座・実演などを行っています。

福島県立博物館年報 第38号

令和6年12月20日 発行

編集・発行 福島県立博物館

〒965-0807 会津若松市城東町1-25

TEL (0242) 28-6000

FAX (0242) 28-5986

<https://general-museum.fcs.ed.jp/>

印刷 株式会社 アポロ

〒965-0044 会津若松市七日町14-7

TEL (0242) 22-5139

この年報の本文は再生紙を使用しています。





福島県立博物館